新潟県民の米消費に関する実態調査

―資料の解析報告書―

新潟県米消費拡大推進連絡協議会

はじめに

新潟県米消費拡大推進連絡協議会とその構成団体及び県立新潟女子短期大学は平成７年から「新潟県民の米消費に関する調査」を行ってきた。本報告は平成９年度に実施された調査結果について、県立新潟女子短期大学・生活科学科、石原和夫教授及び鈴木裕行助教授が解析し考察を加えたものである。

本調査の目的は、新潟県民の米についての意識、米の消費動向を的確に把握することで、新潟県における米消費拡大事業の展開、ひいては日本農業と国土・自然環境の保全を目的とした事業・政策に反映させることである。また、平成７年に新食料法が施行され、米の集荷・流通・販売などにおいて大幅な規制緩和がされた中で、消費者の米に対する多様なニーズに応えられるようにするための調査でもある。

本報告の中には、米購入における市民の動向や意識、将来の消費者としての学生の米及びその関連に関する認識などがクローズアップされており、本報告が米、特に新潟県産米の消費拡大を中心とした諸事業に有効に利用されることとなれば幸いである。

平成10年３月

新潟県米消費拡大推進連絡協議会

謝　辞

本報告は、新潟県米消費拡大推進連絡協議会の事業として、平成９年度に実施された「新潟県民の米消費に関する調査」に対して解析及び考察を加えたものであります。

アンケート調査にご回答頂きました県下の市民、高校生、県立新潟女子短大学生および本調査に関してご支援を頂きました関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

平成10年３月
新潟県米消費拡大推進連絡協議会

新潟県民の米消費に関する実態調査

－資料の解析報告書－

平成１０年３月
（１９９８）

県立新潟女子短期大学・生活科学科
石原和夫　　鈴木裕行

新潟県米消費拡大推進連絡協議会

目　　次

調査表　一般市民　Ｑ１～Ｑ２６、Ｆ１～Ｆ５ …… １
調査表　学生　　Ｑ１～Ｑ８　、Ｆ１～Ｆ３ …… ７

解析に先立って …… ９
解析の目的 …… １０
調査の方法 …… １０

調査結果の解析及び考察
Ａ　一般市民
回答者の属性 …… １１
お米に関する調査 …… １４
Ｑ１　（米の購入量、支出額、消費量は） …… １４
Ｑ２　（購入にあたってどの等級・銘柄を選ぶか） …… ２１
Ｑ３　（現在の米価格についてどう思うか） …… ２２
Ｑ４　（米の購入の基準は） …… ２３
Ｑ５　（主な購入先とその選定理由は） …… ２４
Ｑ６　（コイン精米機を利用したことがあるか） …… ２８
Ｑ７　（好ましい包装単位は） …… ２９
Ｑ８　（好ましい包装材料は） …… ３０
Ｑ９　（最も重要視する表示項目は何か） …… ３１
Ｑ１１　（認証、確認マークを知っているか） …… ３３
Ｑ１２　（表示と中身の関係についての信頼） …… ３４
Ｑ１３　（精米後の経過日数の限界） …… ３５
Ｑ１４　（最近購入した特殊な米は何か） …… ３８
Ｑ１５　（米についての情報の関心、収集手段） …… ４０
Ｑ１６　（家族連れ外食の回数、支出額、主食は） …… ４５
Ｑ１７　（外食で気になることは何か） …… ５１
Ｑ１８　（現在利用している米加工品－米飯類－は何か） …… ５４
Ｑ２４　（家族が揃って食事をするのはいつですか） …… ５６
Ｑ２５　（普段、子供たちは誰と一緒に食事をすること多いですか） … ５７

Ｂ　学生
回答者の属性 …… ５９
お米に関する調査
ＱＢ１　（日本の食料自給率はどの程度と思うか） …… ６０
ＱＢ７　（家庭料理の伝承についてどう思うか） …… ６１
ＱＢ８　（家族と生活を共にしているか） …… ６４

ＡＢ　市民・学生共通
Ｑ１９＝ＱＢ２（輸入米についてどの点に最も関心があるか） …… ６７
Ｑ２０＝ＱＢ３（日本の農業と食料問題についての考え）
（１）新食料法施行後の米の安定供給 …… ６９
（２）日本の食料自給率 …… ７４
（３）米以外の食料品の輸入拡大 …… ７５
（４）米の輸入拡大 …… ７６
（５）自然環境・国土保全の立場からの農業の行方 …… ８０
（６）農産物の内外価格差 …… ８２
Ｑ２１＝ＱＢ４（今後の日本人の主食のあるべき姿） …… ８４
Ｑ２２＝ＱＢ５（朝食はおもに何か） …… ８７
Ｑ２３＝ＱＢ６（昼食はおもに何か） …… ９０

自由記入欄 …… ９３
まとめ …… ９８

お米に関する調査

ご多忙のところ恐れ入ります。
私どもＮＢリサーチは、市場調査の専門機関ですが、ただ今お米に関する意識および消費の実態を調査しています。調査結果は整理しまして、行政その他に役立たせる予定であります。また、ご記入していただいた結果は、すべて統計数字（○○％の人が、月に１０kg以上米を買っている等）として取りまとめますので個々の情報が外部に洩れるなどの、ご迷惑をおかけすることは決してありません。
調査をお願いします家庭は、県内の農家を除く世帯で、ご回答をいただきたい方は、家庭において食生活の中心となっておられる方にお願いいたします。家庭を代表した立場でご回答頂ければ幸いに存じます。
この調査がよりよい成果をあげますよう、ご協力をお願いいたします。

●記入方法
※回答欄が（　）の場合には、数字、言葉、文などをご記入ください。
※回答欄が１、２、３・・またはア・イ・ウ・・の場合には、これらを○で囲んでください。

Ｑ１．　お宅の１ヶ月平均の米の購入と、１日当たりの消費量についてお尋ねします。
（１，２，３のそれぞれについてご記入ください）

１．１ヶ月平均の米の購入量は。　（　　ｋｇ）
２．１ヶ月平均の米の購入金額は。　（　　円）
３．お宅では、１日平均どのくらいの量のお米を食べていますか。
（　　ｇまたは　　合）

Ｑ２．　どの等級・種類の米を一番多く購入しますか。（１つだけお選びください）

１．銘柄米
２．松・竹・梅
３．標準価格米
４．備蓄米
５．その他（　　）

Ｑ３．　現在の米の価格についてどう思いますか。　（１つだけお選びください）

１．高いと思う　２．安いと思う　３．丁度良い価格だと思う

Ｑ４．　米の購入にあたって、どのような基準で選びますか。　（１つだけお選びください）

１．食味　２．価格　３．安全性　４．その他（　　）

Ｑ５．　普段、最もよく利用する購入先はどこですか。　（１つだけお選びください）

１．米穀小売店
２．デパート
３．スーパー（農協・生協スーパーを除く）
４．農協・農協スーパー
５．生協・生協スーパー
６．自動販売機
７．特別栽培米
８．産地直送
９．贈答米
10．その他
（具体的に　　）

Ｑ５－ＳＱ　＜Ｑ５で「１～６」を回答された方へ＞
購入先を選ぶとき最も重要視するものを１つだけお知らせください。

１．近い
２．駐車場がある
３．配達してくれる
４．信頼できる
５．安価である
６．清潔・衛生的である
７．米の品揃えが豊富である
８．その他（　　）

Ｑ６．　コイン精米機を利用したことがありますか。　　（１つだけお選びください）

１．ある	２．ない

Ｑ７．　最も好ましい包装単位は何ですか。　　（１つだけお選びください）
※「６．その他」の場合は具体的な数字を記入してください

１．１ｋｇ	４．５ｋｇ
２．２ｋｇ	５．１０ｋｇ
３．３ｋｇ	６．その他（　　ｋｇ）

Ｑ８．　包装についてどのような材質がよいと思いますか。（１つだけお選びください）

１．ビニール袋	３．ペットボトル
２．紙袋	４．その他（　　）

Ｑ８－ＳＱ　その材質を選ばれた理由をご記入ください。

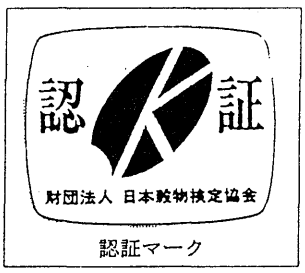
Ｑ９．　つぎにあげてある項目は、お米の包装容器に表示が義務づけられているものです。それぞれに重要な事項ですが、これらの中で特にどれを重要視していますか。　（２つまでお選びください）

１．品名（うるち米、もち米の別）	５．ブレンド米の場合の混米の比率（％）
２．原料米の産地名（魚沼産、岩船産など）	６．正味重量
３．原料米の品種（コシヒカリ、越路早生など）	７．精米年月日
４．原料米の産年（収穫された年）	８．販売業者または精米工場名

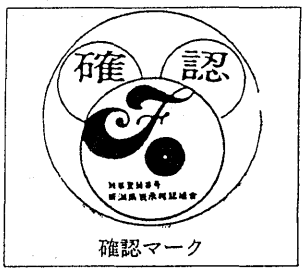
Ｑ１０．包装容器に表示が義務づけられていないが、表示した方がよいと思われる項目がありましたらご記入ください。

Ｑ１１．包装容器に、表示と内容の一致を保証するマーク（認証マーク、確認マーク）が貼付されておりますが、マークの意味はご存じですか。
（１つだけお選びください）

１．知っている
２．知らない



認証マーク



確認マーク

Ｑ１２．包装容器の表示と中身の関係についてお聞きします。　　（１つだけお選びください）

１．表示を全面的に信用している
２．表示と中身が一致しているか疑問を持っている
３．表示に関心がない

Ｑ１３．米を購入する時、精米年月日に関心がありますか。

１．精米年月日に関心がある	２．精米年月日に関心がない

Ｑ１３－ＳＱ　＜Ｑ１３で「１．…関心がある」を回答された方へ＞

精米年月日から［　　］日くらい経過した場合が購入の限度である。

※　春または秋の季節に購入するとして、具体的な数字をご記入ください。

Ｑ１４．次にあげてある米の中で、最近購入したことのある種類をいくつでもお選びください。

１．有機栽培による米	４．変質が少ない包装の高鮮度米
２．無・低農薬による米	５．玄米
３．とがなくても炊かれる無洗米	６．いずれも購入したことがない

Ｑ１５．米に関する情報についてお尋ねします。
米についてどのような情報に関心がありますか。　（いくつでもお選びください）

１．米の品種	５．米の味
２．米の生産・流通	６．その他（　　）
３．米の栄養価	
４．米の調理・利用	７．米についての情報は関心がない

Ｑ１５－ＳＱ　＜Ｑ１５で「１～６」を回答された方へ＞
（１，２のそれぞれについてご記入ください）

１．米に関する情報を収集する方法は何ですか。

１．新聞	３．テレビ・ラジオ
２．書籍	４．その他（　　）　5

２．米の情報量についてはどうですか。

１．十分である	２．十分でない　3

Ｑ１６．あなたのご家庭での「家族連れ外食」についてお尋ねします。
（１、２は具体的な数字をご記入ください。３はそれぞれ１つづつお選びください。）

１．１ヶ月の外食回数は（　　）回程度

２．１回当たりの支出はおおよそ（　　）円程度

３．外食で食べる主な食事は。

○若年層（おおよそ１８歳未満）	ア．米飯	イ．パン	ウ．麺	エ．その他
○成人	ア．米飯	イ．パン	ウ．麺	エ．その他

Ｑ１７．外食をする際に、どのようなことが気になりますか。　（２つまでお選びください）

１．安全や衛生面のことが気になる ２．栄養面のことが気になる ３．味付けや、好みなど嗜好（しこう）面で気になる ４．経済的な面が気になる ５．特に気になることはない	具体的には：

Ｑ１８．次にあげてある米加工品で、現在利用している品目は何ですか。
（多く購入する品目を３つまでお選びください）

炊きたて（持ち帰り）の種類	１．白飯	２．おにぎり	３．混ぜ飯
	４．赤飯	５．すし	６．その他
冷凍食品（冷凍保存）の種類	７．白飯	８．おにぎり	９．混ぜ飯
	10．赤飯	11．ピラフ	12．その他
レトルト食品（加熱殺菌）の種類	13．白飯	14．混ぜ飯	15．赤飯
	16．粥	17．その他	
レンジ専用食品（無菌包装）の種類	18．白飯	19．混ぜ飯	20．赤飯
	21．ピラフ	22．その他	
その他米飯類	23．缶詰白飯	24．缶詰赤飯	
	25．アルファー米		
	26．買わない		

Ｑ１９．輸入米について、どの点に最も関心がありますか。　（１つだけお選びください）

１．食味	２．価格	３．安全性

Ｑ２０．現在の日本の農業及び食料問題について、どのようにお考えですか。
（それぞれの問題について、１つずつお選びください）

	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべき	わからない
１．新食糧法施行後の米の安定供給	1	2	3	4
２．日本の食料自給率	1	2	3	4
３．米以外の食料品の輸入拡大	1	2	3	4
４．米の輸入拡大	1	2	3	4
５．自然環境・国土保全の立場から農業の行方	1	2	3	4
６．農産物（米などの食料）の内外価格差	1	2	3	4

Ｑ２１．今後、日本人の食生活のうち、主食のあるべき姿についてどうお考えですか。
（１つだけお選びください）

１．主食は米を中心とすることが望ましい ２．主食は米以外のものを中心とすることが望ましい ３．主食として、米・パン・麺など多様なものを摂取することが望ましい ４．わからない

Ｑ２２．家族の朝食は、主に何ですか。　（１、２について、それぞれ１つだけお選びください）

１．若年層（おおよそ１８歳未満）	ア．米飯	イ．パン	ウ．麺	エ．その他	オ．食べない
２．成人	ア．米飯	イ．パン	ウ．麺	エ．その他	オ．食べない

Ｑ２３．家族の昼食（家庭食、外食、給食など）は、主に何ですか。
（１、２について、それぞれ１つだけお選びください）

１．若年層（おおよそ１８歳未満）	ア．米飯	イ．パン	ウ．麺	エ．その他	オ．食べない
２．成人	ア．米飯	イ．パン	ウ．麺	エ．その他	オ．食べない

Ｑ２４．１日の食事で、家族がだいたいそろって食事をするのは、いつでしょうか。　（いくつでも）

１．朝食	２．昼食	３．夕食	４．３食とも無い

Ｑ２５．普段、１日を通して子どもたちは誰と一緒に食事をすることが多いですか。　（いくつでも）

１．父	４．子どもだけで
２．母	５．子どもはいない
３．その他の大人	６．その他（　　）

Ｑ２６．米の消費拡大の方策についてご意見がありましたらお書きください。

《フェースシート》

Ｆ１．　あなたの性別を教えてください。

１．女	２．男

Ｆ２．　あなたの年齢を教えてください。

１．２０代	２．３０代	３．４０代	４．５０代	５．６０歳以上

＜裏面へつづく＞

Ｆ３．　あなたの世帯は主として、つぎのどの収入によって生計が維持されておりますか。

１．自営業収入	２．給与所得	３．その他（　　）

Ｆ４．　回答者本人は、どなたでしょうか。
（「３．その他」の場合は、ご夫婦を基準にした関係を記入してください）

１．妻	２．夫	３．その他（　　）

Ｆ５．　あなたの家庭の家族構成をお聞かせください。

１．０～９歳	（　　）人	５．４０歳～４９歳	（　　）人
２．１０～１９歳	（　　）人	６．５０歳～５９歳	（　　）人
３．２０歳～２９歳	（　　）人	７．６０歳以上	（　　）人
４．３０歳～３９歳	（　　）人		

以上で、アンケートを終了します。ご協力ありがとうございました。
最後に、ご意見頂きたくお願いします。

※米、食料、農業などに関して意見・感想などを自由に記入してください。

お米に関する調査　（学生用）

ご協力をお願いします。

●記入方法
※回答欄が（　）の場合には、数字、言葉、文などをご記入ください。
※回答欄が１、２、３・・またはア・イ・ウ・・の場合には、これらを○で囲んでください。

Ｑ１．現在の日本の食料自給率は、エネルギー換算で、次のどの程度だと思いますか。
（１つだけお選びください）

１．２０％未満	４．４０％台	７．７０％台
２．２０％台	５．５０％台	８．８０％以上
３．３０％台	６．６０％台	

Ｑ２．輸入米について、最も関心のある点は、次のうちどれですか。　（１つだけお選びください）

１．食味	２．価格	３．安全性

Ｑ３．現在の日本の農業、および食料問題について、どのようにお考えですか。
（それぞれの問題について、あてはまる番号を１つずつお選び下さい）

	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべきだ	わからない
１．新食糧法施行後の米の安定供給	1	2	3	4
２．日本の食料自給率	1	2	3	4
３．米以外の食料品の輸入拡大	1	2	3	4
４．米の輸入拡大	1	2	3	4
５．自然環境・国土保全の立場から農業のゆくえ	1	2	3	4
６．農産物（米などの食料）の内外価格差の是正	1	2	3	4

Ｑ４．今後、日本人の食生活のあるべき姿についてどうお考えですか。（１つだけお選びください）

１．主食は米を中心とすることが望ましい
２．主食は米以外のものを中心とすることが望ましい
３．主食として、米・パン・麺など多様なものを摂取することが望ましい
４．わからない

Ｑ５．あなたの朝食は、主に何ですか。　（１つだけお選びください）

１．米飯	２．パン	３．麺	４．その他	５．食べない

Ｑ６．あなたの昼食は主に何ですか。　（１つだけお選びください）

１．米飯	２．パン	３．麺	４．その他	５．食べない

Ｑ７．家庭料理の伝承について、あなたの考えをお尋ねします。
（２つまでお選びください。カッコ内にはご家族の誰からかを記入してください）

１．伝承は必要である ２．伝承は必要とは思わない ３．既に（　　）から伝承している

Ｑ８．あなたの食生活について、お尋ねします。

１．家族と同居している	２．単身生活である

ア．単身で主として自炊 イ．単身で寮などで食事付 ウ．単身で主として外食

Ｆ１．あなたの性別を教えてください。

１．女	２．男

Ｆ２．あなたの年齢を教えてください。

１．１０代	２．２０代

Ｆ３．あなたは次のどの学校の生徒ですか。

１．高等学校 ２．専門学校 ３．短期大学 ４．大学

以上で、アンケートを終了します。ご協力ありがとうございました。

解析に先立って

本調査報告は、新潟県米消費拡大推進連絡協議会、その構成団体及び県立新潟女子短期大学が実施したアンケート調査「新潟県民の米消費に関する実態調査」をもとに、集計・解析し考察を加えたものである。

本調査の本来の目的は、新潟県米消費拡大推進連絡協議会としての挨拶に述べられている通りである。

調査内容は平成７、８年度に実施したものに若干の修正を行っているが、基本的には殆ど同一である。時間経過及び社会情勢の変化による意識変化を捉えること及び繰り返しによる精度のアップを目指した。

平成７年度の調査では「平成３年度における米不足の余波」をテーマとし、平成８年度では、新たに米販売の自由化を受けての「包装と表示」、そして、本年度は県内各所に見かけるようになったコイン精米機の利用や米についてどのような情報に関心があるのか、また、その収集方法などにポイントを置いた。

さらに、アンケートの末尾には県民の皆様の率直な意見を期待して、「米の消費拡大の方策」や「米・食料・農業などに関しての意見・感想」を述べる記入欄を設け、自由に記入していただいた。

終わりに、回答数が平成７年度では 654、平成８年度では 801、そして、本年度は 1035 サンプルへと飛躍的に増加し、本調査がより充実したことを付記する。

石原和夫、鈴木裕行

1．調査の目的

本調査の目的は、新潟県民の米についての意識、米の消費動向を的確に把握することにより、新潟県における米の消費拡大事業の展開に資することであり、また、消費者の米に対する多様なニーズにこたえるためのものでもある。更に、米消費拡大事業と関連する米の生産・流通・消費上の問題、広くは食料及び農業問題等についての検討に有効な資料を得ることである。

2．調査の方法

1）調査対象

A：新潟県内の２０市在住の市民で家庭において食生活の中心になっている人

B：新潟県内の高校生、県立新潟女子短期大学および同専攻科の学生

2）調査内容

アンケートは、A：市民対象とB：学生対象では異なり、市民には主として米の消費の実態について、学生には米及び食料問題についての認識を問う内容である。

調査表は巻頭にまとめて示してある。

3）標本抽出方法と指令標本数

A：一般市民対象

①調査地域の全市から確率比例系統抽出法により調査地点を抽出。

②その後、各々の調査地点からエリアランダム法でサンプルを抽出。

指令標本総数：550 サンプル　　回収標本総数：350 サンプル　（回収率＝63.6%）

B：学生対象

指令標本総数：685 サンプル　　回収標本総数：685 サンプル　（回収率＝100%）

4）調査期間

A：一般市民対象　平成 9 年 11 月 15 日（日）～平成 9 年 12 月 15 日（月）

B：学生対象　平成 9 年 11 月 10 日（月）～平成 10 年 3 月 2 日（金）

5）調査方法

A：一般市民対象　郵送法（調査依頼については電話または訪問で実施した）

B：学生対象　留置記入法

6）調査の実施

一般市民および高校生対象：株式会社ＮＢリサーチ

県立新潟女子短期大学対象：県立新潟女子短期大学・食品学研究室

7）集計：株式会社ＮＢリサーチ

8）調査結果の設定、結果の解析及び考察
県立新潟女子短期大学・食品学研究室　　石原和夫・鈴木裕行

３．調査結果の解析及び考察

Ａグループ一般市民とＢグループ学生に分けて解析するが、ＡおよびＢに共通する質問もあるので、それはまとめてＡＢグループとして解析する。

A．一般市民

回答者の属性

Ｆ１：回答者の性別

人数	女性：295	男性：53	無回答：2
%	女性：84.3	男性：15.1	無回答：0.6

Ｆ２：回答者の年齢

○全体

人数	20代：15	30代：73	40代：77	50代：73	60歳以上：103
%	20代：4.3	30代：20.9	40代：22.0	50代：20.9	60歳以上：29.4
人数	無回答：9				
%	無回答：2.6				

○女性

人数	20代：13	30代：67	40代：72	50代：64	60歳以上：75
%	20代：4.4	30代：22.7	40代：24.4	50代：21.7	60歳以上：25.4
人数	無回答：4				
%	無回答：1.4				

○男性

人数	20代：2	30代：6	40代：5	50代：9	60歳以上：28
%	20代：3.8	30代：11.3	40代：9.4	50代：17.0	60歳以上：52.8
人数	無回答：3				
%	無回答：5.7				

Ｆ３：回答者世帯の生計の維持は何によるか

人数	給与所得：210	自営業収入：54	その他：81	無回答：5
％	給与所得：60.0	自営業収入：15.4	その他：23.1	無回答：1.4

Ｆ４：回答者の世帯内での立場

人数	妻：276	夫：48	その他：16	無回答：10
％	妻：78.9	夫：13.7	その他：4.6	無回答：2.9

Ｆ５：家庭の家族構成

○世帯当たり人数

人数	1人：12	2人：95	3人：69	4人：94	5人：40	6人：29
％	1人：3.4	2人：27.1	3人：19.7	4人：26.9	5人：11.4	6人：8.3
人数	7人：8	8人：2	無回答：1			
％	7人：2.3	8人：0.6	無回答：0.3			

○回答世帯の平均世帯人数の計算（無回答を除く）

1231/349=3.53人

Ｆ１～Ｆ５のデータより回答者の中心を占めるのはサラリーマン世帯の主婦の立場にある中高年女性であるといえる。また、Ｆ５のデータより回答世帯の平均世帯人数を算出すると 3.53 人になり、これは昨年データの 3.92 人よりはやや少ないものの、平成７年国勢調査による新潟県平均の 3.29 人にほぼ近く、全国平均の 2.85 人よりはかなり多い。また、回答者の年齢を地域別に見てみると、中越地区に 30 代以下の回答者が多く含まれており、この点は以下のデータを解釈する上で注意が必要である（表Ｆ６）。

表Ｆ６．回答者の地域別／人口規模別分布

		総数	下越	中越	上越		10万人以上	10万人以下
《全体》		350	191	118	41		205	145
		100.0	54.6	33.7	11.7		58.6	41.4
《性別》	女性	295	163	103	29		177	118
		100.0	55.3	34.9	9.8		60.0	40.0
	男性	53	26	15	12		28	25
		100.0	49.1	28.3	22.6		52.8	47.2
	無回答	2	2	0	0		0	2
		100.0	100.0	0.0	0.0		0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	39	45	4		60	28
		100.0	44.3	51.1	4.5		68.2	31.8
	40代	77	42	23	12		49	28
		100.0	54.5	29.9	15.6		63.6	36.4
	50代	73	48	15	10		46	27
		100.0	65.8	20.5	13.7		63.0	37.0
	60歳以上	103	58	33	12		48	55
		100.0	56.3	32.0	11.7		46.6	53.4
	無回答	9	4	2	3		2	7
		100.0	44.4	22.2	33.3		22.2	77.8
《地区別》	下越	191	191	0	0		133	58
		100.0	100.0	0.0	0.0		69.6	30.4
	中越	118	0	118	0		44	74
		100.0	0.0	100.0	0.0		37.3	62.7
	上越	41	0	0	41		28	13
		100.0	0.0	0.0	100.0		68.3	31.7
《人口規模別》	10万人以上	205	133	44	28		205	0
		100.0	64.9	21.5	13.7		100.0	0.0
	10万人以下	145	58	74	13		0	145
		100.0	40.0	51.0	9.0		0.0	100.0

（上段＝実数／下段＝%）

お米に関する調査

Ｑ１－１．１ヶ月平均の米の購入量は。

Ｑ１－２．１ヶ月平均の米の購入金額は。

Ｑ１－３．お宅では１日平均どれくらいの量のお米を食べていますか。

１ヶ月平均の米の購入量・金額および１日当たりの米の消費量の集計結果を表１－１～３および図１－１～３に示した。

１ヶ月平均の購入量は全体で10.0kg／月以下の家庭が43.7%を占める。この数字は平成７年度、８年度の調査結果の32.4%、34.6%に比べ増加傾向にある。同様に１ヶ月平均の購入金額についても5000円以内／月という回答が全体で28.0%と平成７年度、８年度の調査結果（それぞれ13.0%、18.6%）と比べ、顕著な増加が認められる。１日当たりの消費量も2.0合／日以下という家庭が全体の22.6%に達し、これも平成７年度、８年度の調査結果（それぞれ12.7%、15.3%）よりも明らかに増加している。また、Ｆ５の回答者世帯の延べ人数とＱ１－１～３の基礎データから、これらの結果は核家族化、少子化による平均世帯人数の減少に伴うものと考えられ、世帯当たりの米の消費量がこの３年間で明らかに減少傾向にあることを示している。また、Ｆ５の回答者世帯の延べ人数とＱ１－１～３の基礎データから、１人当たりの米購入量と食べている量を算出するとそれぞれ 4.269kg／月・人＝142.3g／日・人および1.08合／日・人であり平成８年度（145.4gおよび1.13合／日・人）とほぼ変わりないが、１人当たりの米購入金額は2143円／月・人であり、平成８年度の購入金額：2345円／月・人と比較してかなり減少している。

結論としては、世帯当たりの米の消費は年々減少する傾向にあり、これは平均世帯人数の減少と結びついていると考えられる。また、１人当たりの消費で見れば、量的には昨年とほぼ同じであるが、購入金額は減少しており、新食料法施行後の米価の低下（図１－４）を反映するものと推察される。

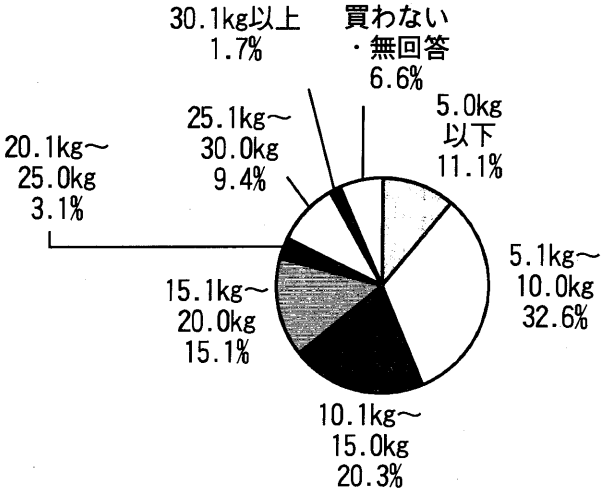


図１－１．１ヶ月平均の米の購入量（全体）

N=350

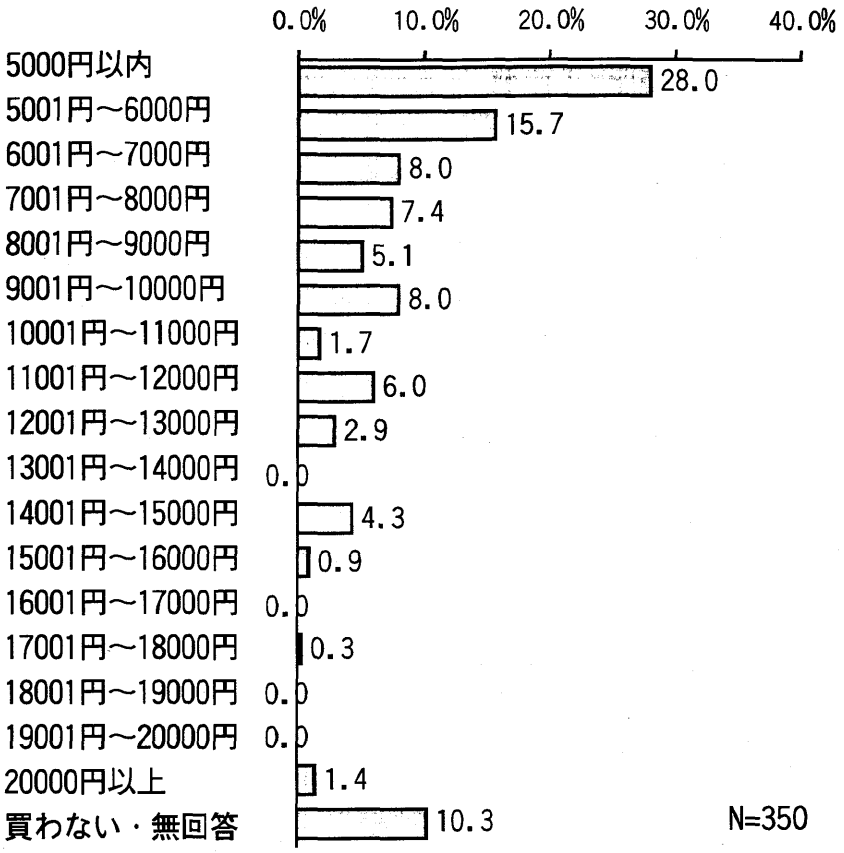


図１－２．１ヶ月平均の米の購入金額（全体）

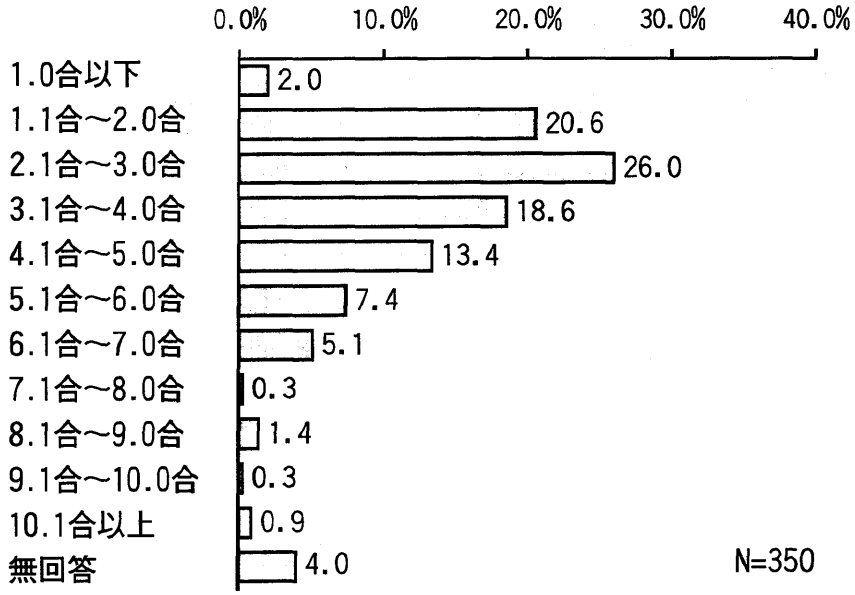


図１－３．１日あたりの米消費量（全体）

表１－１．１ヶ月平均の米の購入量

		総数	5.0kg以下	5.1kg～10.0kg	10.1kg～15.0kg	15.1kg～20.0kg	20.1kg～25.0kg	25.1kg～30.0kg	30.1kg以上	買わない・無回答
《全体》		350	39	114	71	53	11	33	6	23
		100.0	11.1	32.6	20.3	15.1	3.1	9.4	1.7	6.6
《性別》	女性	295	36	101	56	46	9	25	3	19
		100.0	12.2	34.2	19.0	15.6	3.1	8.5	1.0	6.4
	男性	53	3	12	14	7	2	8	3	4
		100.0	5.7	22.6	26.4	13.2	3.8	15.1	5.7	7.5
	無回答	2	0	1	1	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	10	31	18	12	2	6	1	8
		100.0	11.4	35.2	20.5	13.6	2.3	6.8	1.1	9.1
	40代	77	4	18	20	17	5	8	2	3
		100.0	5.2	23.4	26.0	22.1	6.5	10.4	2.6	3.9
	50代	73	9	28	12	12	4	4	0	4
		100.0	12.3	38.4	16.4	16.4	5.5	5.5	0.0	5.5
	60歳以上	103	16	34	17	12	0	14	3	7
		100.0	15.5	33.0	16.5	11.7	0.0	13.6	2.9	6.8
	無回答	9	0	3	4	0	0	1	0	1
		100.0	0.0	33.3	44.4	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1
《地区別》	下越	191	20	69	41	27	6	15	2	11
		100.0	10.5	36.1	21.5	14.1	3.1	7.9	1.0	5.8
	中越	118	16	35	21	18	4	14	2	8
		100.0	13.6	29.7	17.8	15.3	3.4	11.9	1.7	6.8
	上越	41	3	10	9	8	1	4	2	4
		100.0	7.3	24.4	22.0	19.5	2.4	9.8	4.9	9.8
《人口規模別》	10万人以上	205	26	72	43	28	4	14	5	13
		100.0	12.7	35.1	21.0	13.7	2.0	6.8	2.4	6.3
	10万人以下	145	13	42	28	25	7	19	1	10
		100.0	9.0	29.0	19.3	17.2	4.8	13.1	0.7	6.9

（上段＝実数／下段＝%）

表１－２．１ヶ月平均の米の購入金額

		総数	5000円以内	5001円～6000円	6001円～7000円	7001円～8000円	8001円～9000円	9001円～10000円	10001円～11000円	11001円～12000	12001円～13000円	13001円～14000円	14001円～15000円	15001円～16000円
《全体》		350	98	55	28	26	18	28	6	21	10	0	15	3
		100.0	28.0	15.7	8.0	7.4	5.1	8.0	1.7	6.0	2.9	0.0	4.3	0.9
《性別》	女性	295	90	46	23	21	17	23	5	17	9	0	10	2
		100.0	30.5	15.6	7.8	7.1	5.8	7.8	1.7	5.8	3.1	0.0	3.4	0.7
	男性	53	8	8	5	5	1	5	1	4	1	0	5	1
		100.0	15.1	15.1	9.4	9.4	1.9	9.4	1.9	7.5	1.9	0.0	9.4	1.9
	無回答	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	29	15	8	6	2	6	1	6	0	0	5	1
		100.0	33.0	17.0	9.1	6.8	2.3	6.8	1.1	6.8	0.0	0.0	5.7	1.1
	40代	77	14	9	6	7	8	12	2	3	1	0	5	0
		100.0	18.2	11.7	7.8	9.1	10.4	15.6	2.6	3.9	1.3	0.0	6.5	0.0
	50代	73	21	13	6	4	4	6	1	6	3	0	0	1
		100.0	28.8	17.8	8.2	5.5	5.5	8.2	1.4	8.2	4.1	0.0	0.0	1.4
	60歳以上	103	31	17	8	8	3	4	2	5	6	0	5	1
		100.0	30.1	16.5	7.8	7.8	2.9	3.9	1.9	4.9	5.8	0.0	4.9	1.0
	無回答	9	3	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0
		100.0	33.3	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	191	56	32	13	11	13	13	3	14	4	0	7	1
		100.0	29.3	16.8	6.8	5.8	6.8	6.8	1.6	7.3	2.1	0.0	3.7	0.5
	中越	118	35	16	13	10	3	10	1	5	4	0	8	2
		100.0	29.7	13.6	11.0	8.5	2.5	8.5	0.8	4.2	3.4	0.0	6.8	1.7
	上越	41	7	7	2	5	2	5	2	2	2	0	0	0
		100.0	17.1	17.1	4.9	12.2	4.9	12.2	4.9	4.9	4.9	0.0	0.0	0.0
《人口規模別》	10万人以上	205	65	35	15	15	10	14	4	11	4	0	5	2
		100.0	31.7	17.1	7.3	7.3	4.9	6.8	2.0	5.4	2.0	0.0	2.4	1.0
	10万人以下	145	33	20	13	11	8	14	2	10	6	0	10	1
		100.0	22.8	13.8	9.0	7.6	5.5	9.7	1.4	6.9	4.1	0.0	6.9	0.7

表１－２．１ヶ月平均の米の購入金額（続き）

		16001円～17000円	17001円～18000円	18001円～19000円	19001円～20000円	20000円以上	買わない・無回答
《全体》		0	1	0	0	5	36
		0.0	0.3	0.0	0.0	1.4	10.3
《性別》	女性	0	1	0	0	3	28
		0.0	0.3	0.0	0.0	1.0	9.5
	男性	0	0	0	0	2	7
		0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	13.2
	無回答	0	0	0	0	0	1
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
《年代別》	30代以下	0	0	0	0	1	8
		0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	9.1
	40代	0	0	0	0	1	9
		0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	11.7
	50代	0	1	0	0	0	7
		0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	9.6
	60歳以上	0	0	0	0	3	10
		0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	9.7
	無回答	0	0	0	0	0	2
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2
《地区別》	下越	0	0	0	0	2	22
		0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	11.5
	中越	0	1	0	0	2	8
		0.0	0.8	0.0	0.0	1.7	6.8
	上越	0	0	0	0	1	6
		0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	14.6
《人口規模別》	10万人以上	0	0	0	0	4	21
		0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	10.2
	10万人以下	0	1	0	0	1	15
		0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	10.3

（上段＝実数／下段＝%）

表１－３．１日あたりの米消費量

		総数	1.0合以下	1.1合～2.0合	2.1合～3.0合	3.1合～4.0合	4.1合～5.0合	5.1合～6.0合	6.1合～7.0合	7.1合～8.0合	8.1合～9.0合	9.1合～10.0合	10.1合以上	無回答
《全体》		350	7	72	91	65	47	26	18	1	5	1	3	14
		100.0	2.0	20.6	26.0	18.6	13.4	7.4	5.1	0.3	1.4	0.3	0.9	4.0
《性別》	女性	295	6	60	75	58	39	21	15	1	5	1	1	13
		100.0	2.0	20.3	25.4	19.7	13.2	7.1	5.1	0.3	1.7	0.3	0.3	4.4
	男性	53	1	11	16	7	7	5	3	0	0	0	2	1
		100.0	1.9	20.8	30.2	13.2	13.2	9.4	5.7	0.0	0.0	0.0	3.8	1.9
	無回答	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	1	15	25	21	11	7	3	0	1	0	1	3
		100.0	1.1	17.0	28.4	23.9	12.5	8.0	3.4	0.0	1.1	0.0	1.1	3.4
	40代	77	0	10	17	12	15	8	7	1	2	0	1	4
		100.0	0.0	13.0	22.1	15.6	19.5	10.4	9.1	1.3	2.6	0.0	1.3	5.2
	50代	73	1	19	16	12	9	9	0	0	1	0	1	5
		100.0	1.4	26.0	21.9	16.4	12.3	12.3	0.0	0.0	1.4	0.0	1.4	6.8
	60歳以上	103	5	27	29	18	10	2	8	0	1	1	0	2
		100.0	4.9	26.2	28.2	17.5	9.7	1.9	7.8	0.0	1.0	1.0	0.0	1.9
	無回答	9	0	1	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	11.1	44.4	22.2	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	191	5	42	47	36	26	14	9	1	1	1	1	8
		100.0	2.6	22.0	24.6	18.8	13.6	7.3	4.7	0.5	0.5	0.5	0.5	4.2
	中越	118	2	19	31	22	18	11	7	0	2	0	1	5
		100.0	1.7	16.1	26.3	18.6	15.3	9.3	5.9	0.0	1.7	0.0	0.8	4.2
	上越	41	0	11	13	7	3	1	2	0	2	0	1	1
		100.0	0.0	26.8	31.7	17.1	7.3	2.4	4.9	0.0	4.9	0.0	2.4	2.4
《人口規模別》	10万人以上	205	4	46	58	34	30	12	7	0	2	0	2	10
		100.0	2.0	22.4	28.3	16.6	14.6	5.9	3.4	0.0	1.0	0.0	1.0	4.9
	10万人以下	145	3	26	33	31	17	14	11	1	3	1	1	4
		100.0	2.1	17.9	22.8	21.4	11.7	9.7	7.6	0.7	2.1	0.7	0.7	2.8

（上段＝実数／下段＝%）

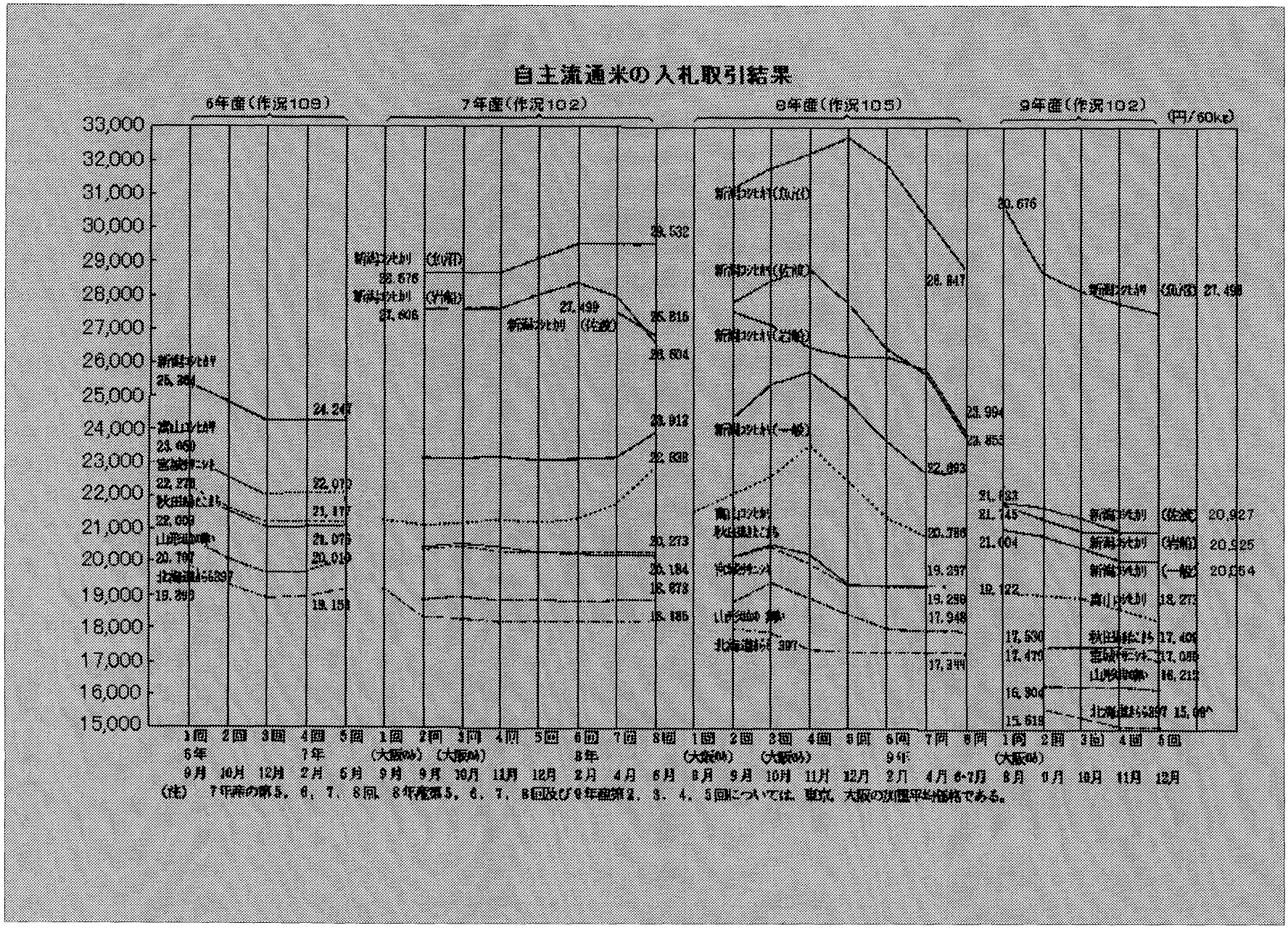


図１－４　自主流通米入札価格の年次推移（「自主流通米取引の現状と課題」平成１０年１月　食糧庁）

Ｑ２：どの等級・種類の米を一番多く購入しますか。

結果は図２および表２に示した。最も多く購入する米の種類として銘柄米を選択した回答者は全体の 77.1%で、昨年同様銘柄米指向の高さが伺える。しかし、年代別にみると 30 代以下が銘柄米の回答が最も低く、逆に標準価格米の回答が最も高いことから、若い世代ではかならずしも銘柄米にこだわらない指向性が伺われた。また、標準価格米の回答は全体では 18.0%であったが、地域別にみると中越地区で 31.4%と高い数字になっているのは、中越地区の回答者に 30 代以下の人が多かったこと（Ｆ３）が反映していると考えられる。なお、松・竹・梅の等級米および備蓄米を回答した人はそれぞれ各１人のみであった。

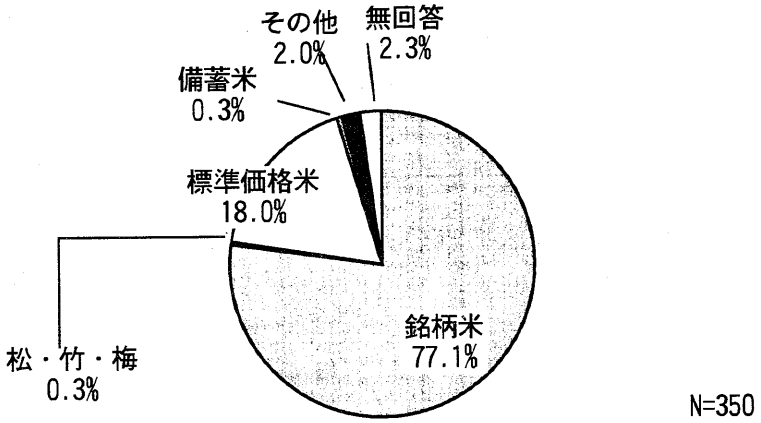


図２．最も多く購入する米の等級・種類（全体）

表２．最も多く購入する米の等級・種類

		総数	銘柄米	松・竹・梅	標準価格米	備蓄米	その他	無回答
〈全体〉		350	270	1	63	1	7	8
		100.0	77.1	0.3	18.0	0.3	2.0	2.3
〈性別〉	女性	295	229	0	53	1	7	5
		100.0	77.6	0.0	18.0	0.3	2.4	1.7
	男性	53	39	1	10	0	0	3
		100.0	73.6	1.9	18.9	0.0	0.0	5.7
	無回答	2	2	0	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
〈年代別〉	30代以下	88	54	1	28	0	2	3
		100.0	61.4	1.1	31.8	0.0	2.3	3.4
	40代	77	64	0	11	0	0	2
		100.0	83.1	0.0	14.3	0.0	0.0	2.6
	50代	73	60	0	10	1	2	0
		100.0	82.2	0.0	13.7	1.4	2.7	0.0
	60歳以上	103	85	0	12	0	3	3
		100.0	82.5	0.0	11.7	0.0	2.9	2.9
	無回答	9	7	0	2	0	0	0
		100.0	77.8	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0
〈地区別〉	下越	191	162	1	19	1	3	5
		100.0	84.8	0.5	9.9	0.5	1.6	2.6
	中越	118	76	0	37	0	3	2
		100.0	64.4	0.0	31.4	0.0	2.5	1.7
	上越	41	32	0	7	0	1	1
		100.0	78.0	0.0	17.1	0.0	2.4	2.4
〈人口規模別〉	10万人以上	205	158	0	38	1	4	4
		100.0	77.1	0.0	18.5	0.5	2.0	2.0
	10万人以下	145	112	1	25	0	3	4
		100.0	77.2	0.7	17.2	0.0	2.1	2.8

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ３：現在の米の価格についてどう思いますか。

結果は図３および表３に示した。現在の米の価格を「高いと思う」人が全体で 38.3%と過去２年間よりも減少し（平成７年度：43.1%、平成８年度：43.8%）、「安いと思う」人が全体の 10.3%と大幅に増加している（平成７年度：4.0%、平成８年度：3.6%）。やはり、米価の低下が消費者の意識に反映しているものと推察される。年代別にみると 30 代以下の回答者で「高いと思う」という回答が最も多い。

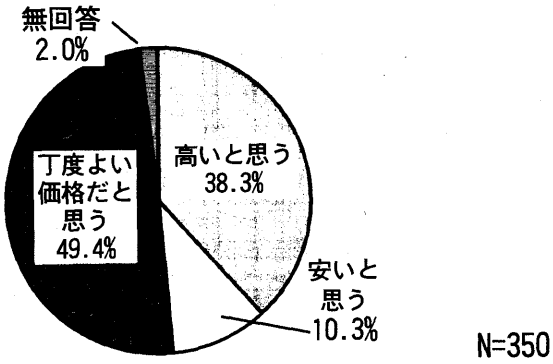


図３．現在の米の価格に対する判断（全体）

表３．現在の米の価格に対する判断

		総数	高いと思う	安いと思う	丁度よい価格だと思う	無回答
《全体》		350	134	36	173	7
		100.0	38.3	10.3	49.4	2.0
《性別》	女性	295	116	29	144	6
		100.0	39.3	9.8	48.8	2.0
	男性	53	18	5	29	1
		100.0	34.0	9.4	54.7	1.9
	無回答	2	0	2	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	39	8	39	2
		100.0	44.3	9.1	44.3	2.3
	40代	77	27	8	40	2
		100.0	35.1	10.4	51.9	2.6
	50代	73	27	7	37	2
		100.0	37.0	9.6	50.7	2.7
	60歳以上	103	38	11	53	1
		100.0	36.9	10.7	51.5	1.0
	無回答	9	3	2	4	0
		100.0	33.3	22.2	44.4	0.0
《地区別》	下越	191	75	24	90	2
		100.0	39.3	12.6	47.1	1.0
	中越	118	51	4	59	4
		100.0	43.2	3.4	50.0	3.4
	上越	41	8	8	24	1
		100.0	19.5	19.5	58.5	2.4
《人口規模別》	10万人以上	205	71	24	105	5
		100.0	34.6	11.7	51.2	2.4
	10万人以下	145	63	12	68	2
		100.0	43.4	8.3	46.9	1.4

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ４：米の購入にあたって、どのような基準で選びますか。

結果は図４および表４に示した。全体のデータを見ると、「食味」で米を選ぶという回答が 63.1%と他を大きく引き離しており、米の商品価値において食味が最大のファクターであることが示された。ただし、30 代の回答者に限ってみれば、「食味」と「価格」がそれぞれ 38.6%、35.2%と拮抗しており、これは標準価格米の選択率が高いこと、米の価格を「高いと思う」意識の高いこととも合致している。

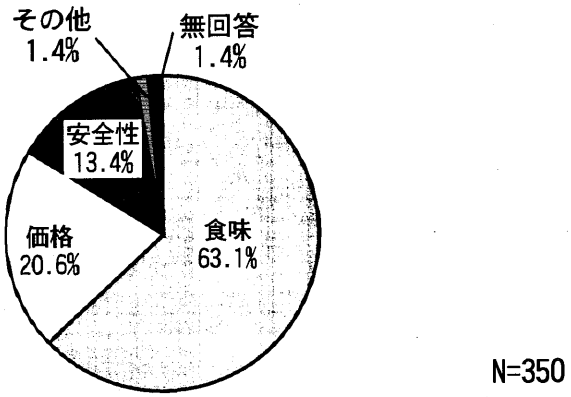


図４．米の購入の基準（全体）

表４．米の購入の基準

		総数	食味	価格	安全性	その他	無回答
〈全体〉		350	221	72	47	5	5
		100.0	63.1	20.6	13.4	1.4	1.4
〈性別〉	女性	295	182	60	44	5	4
		100.0	61.7	20.3	14.9	1.7	1.4
	男性	53	37	12	3	0	1
		100.0	69.8	22.6	5.7	0.0	1.9
	無回答	2	2	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
〈年代別〉	30代以下	88	34	31	19	3	1
		100.0	38.6	35.2	21.6	3.4	1.1
	40代	77	53	14	7	1	2
		100.0	68.8	18.2	9.1	1.3	2.6
	50代	73	55	8	9	0	1
		100.0	75.3	11.0	12.3	0.0	1.4
	60歳以上	103	74	16	12	0	1
		100.0	71.8	15.5	11.7	0.0	1.0
	無回答	9	5	3	0	1	0
		100.0	55.6	33.3	0.0	11.1	0.0
〈地区別〉	下越	191	131	34	21	3	2
		100.0	68.6	17.8	11.0	1.6	1.0
	中越	118	60	33	23	0	2
		100.0	50.8	28.0	19.5	0.0	1.7
	上越	41	30	5	3	2	1
		100.0	73.2	12.2	7.3	4.9	2.4
〈人口規模別〉	10万人以上	205	126	40	31	4	4
		100.0	61.5	19.5	15.1	2.0	2.0
	10万人以下	145	95	32	16	1	1
		100.0	65.5	22.1	11.0	0.7	0.7

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ５：普段、最もよく利用する購入先はどこですか。

結果は図５および表５に示した。全体の結果をみると、米穀小売店 28.9%、スーパー24.3%、産地直送 25.4%と昨年度までの米穀小売店優勢の状況から三者が拮抗する状況に変化してきた（平成７年度－米穀小売店：37.2%、スーパー：18.2%、産地直送：13.8%、平成８年度－米穀小売店：40.2%、スーパー：21.2%、産地直送：15.7%）。特に伸びが著しいのは産地直送で新食料法施行後の流通システムの変化によりもたらされた状況と考えられる。今後の米穀小売店の生き残りをかけた米流通業界再編の動きが大いに注目される。

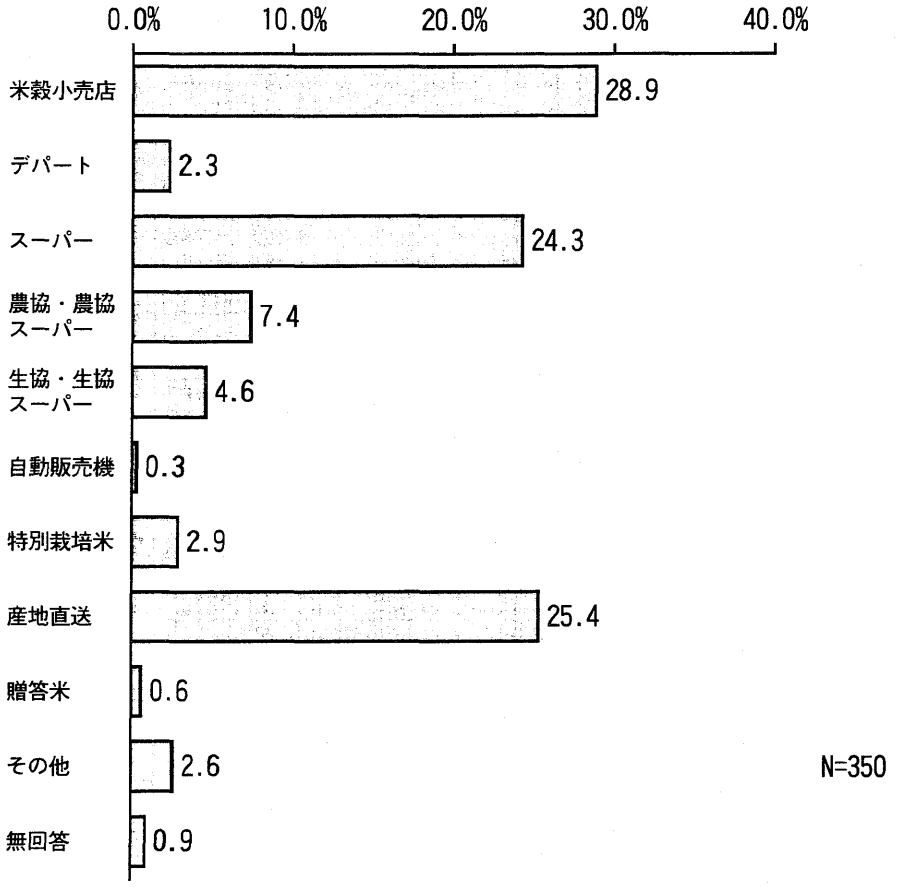


図５．普段、最もよく利用する購入先（全体）

表５．普段、最もよく利用する購入先

		総数	米穀小売店	デパート	スーパー	農協・農協スーパー	生協・生協スーパー	自動販売機	特別栽培米	産地直送	贈答米	その他	無回答
〈全体〉		350	101	8	85	26	16	1	10	89	2	9	3
		100.0	28.9	2.3	24.3	7.4	4.6	0.3	2.9	25.4	0.6	2.6	0.9
〈性別〉	女性	295	82	8	72	24	14	1	8	73	2	8	3
		100.0	27.8	2.7	24.4	8.1	4.7	0.3	2.7	24.7	0.7	2.7	1.0
	男性	53	18	0	13	2	2	0	2	15	0	1	0
		100.0	34.0	0.0	24.5	3.8	3.8	0.0	3.8	28.3	0.0	1.9	0.0
	無回答	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
〈年代別〉	30代以下	88	20	3	26	8	8	1	4	13	0	3	2
		100.0	22.7	3.4	29.5	9.1	9.1	1.1	4.5	14.8	0.0	3.4	2.3
	40代	77	15	4	24	6	2	0	2	18	2	3	1
		100.0	19.5	5.2	31.2	7.8	2.6	0.0	2.6	23.4	2.6	3.9	1.3
	50代	73	26	1	15	4	4	0	2	18	0	3	0
		100.0	35.6	1.4	20.5	5.5	5.5	0.0	2.7	24.7	0.0	4.1	0.0
	60歳以上	103	35	0	20	8	2	0	2	36	0	0	0
		100.0	34.0	0.0	19.4	7.8	1.9	0.0	1.9	35.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	9	5	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
		100.0	55.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.4	0.0	0.0	0.0
〈地区別〉	下越	191	48	2	55	8	8	1	6	53	2	6	2
		100.0	25.1	1.0	28.8	4.2	4.2	0.5	3.1	27.7	1.0	3.1	1.0
	中越	118	42	5	24	15	7	0	3	19	0	3	0
		100.0	35.6	4.2	20.3	12.7	5.9	0.0	2.5	16.1	0.0	2.5	0.0
	上越	41	11	1	6	3	1	0	1	17	0	0	1
		100.0	26.8	2.4	14.6	7.3	2.4	0.0	2.4	41.5	0.0	0.0	2.4
〈人口規模別〉	10万人以上	205	50	5	56	19	11	1	5	50	1	5	2
		100.0	24.4	2.4	27.3	9.3	5.4	0.5	2.4	24.4	0.5	2.4	1.0
	10万人以下	145	51	3	29	7	5	0	5	39	1	4	1
		100.0	35.2	2.1	20.0	4.8	3.4	0.0	3.4	26.9	0.7	2.8	0.7

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ５－ＳＱ：購入先を選ぶとき最も重要視するものを１つだけお知らせください。

結果は図５－ＳＱおよび表５－ＳＱに示した。信頼、配達、近い、安価が重要な因子となっていることは購入先に大きな変化が見られるにも係わらず、昨年度とほぼ同様の傾向である。

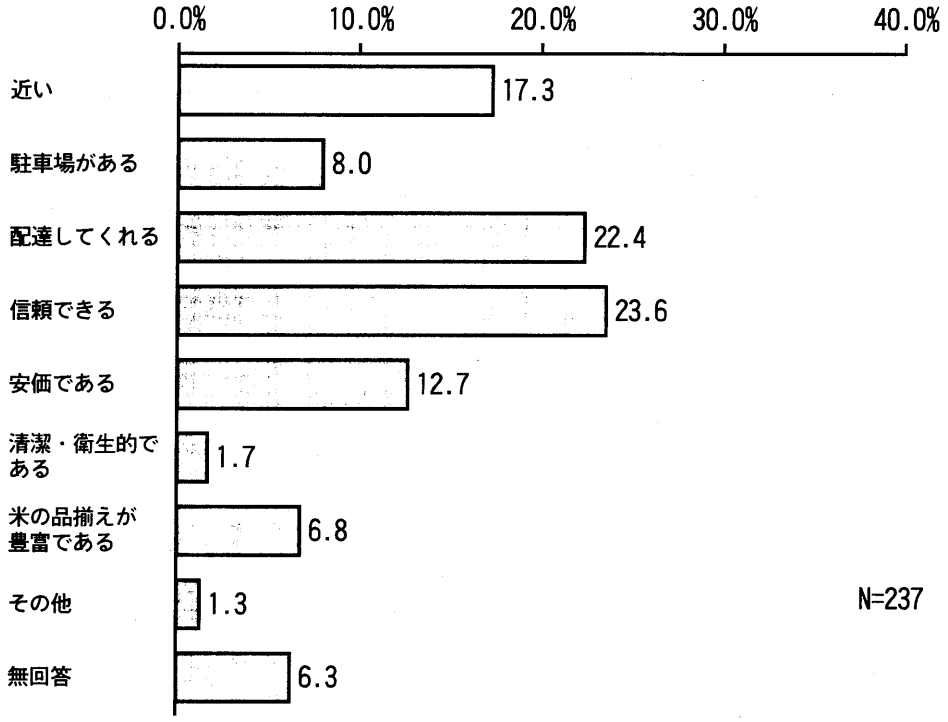


図５－ＳＱ．購入先の選択に際し最も重要視するもの（全体）

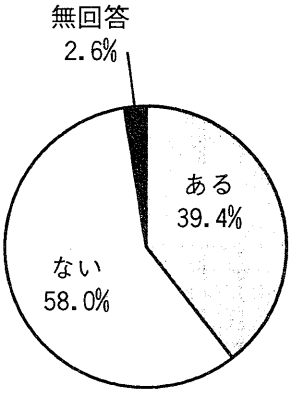
表５－ＳＱ．購入先の選択に際し最も重要視するもの

		総数	近い	駐車場がある	配達してくれる	信頼できる	安価である	清潔・衛生的である	米の品揃えが豊富である	その他	無回答
《全体》		237	41	19	53	56	30	4	16	3	15
		100.0	17.3	8.0	22.4	23.6	12.7	1.7	6.8	1.3	6.3
《性別》	女性	201	35	18	41	50	28	3	13	1	12
		100.0	17.4	9.0	20.4	24.9	13.9	1.5	6.5	0.5	6.0
	男性	35	6	1	11	6	2	1	3	2	3
		100.0	17.1	2.9	31.4	17.1	5.7	2.9	8.6	5.7	8.6
	無回答	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	66	12	9	11	11	12	2	9	0	0
		100.0	18.2	13.6	16.7	16.7	18.2	3.0	13.6	0.0	0.0
	40代	51	9	6	9	12	7	0	4	1	3
		100.0	17.6	11.8	17.6	23.5	13.7	0.0	7.8	2.0	5.9
	50代	50	9	1	11	18	6	2	0	0	3
		100.0	18.0	2.0	22.0	36.0	12.0	4.0	0.0	0.0	6.0
	60歳以上	65	11	3	19	13	5	0	3	2	9
		100.0	16.9	4.6	29.2	20.0	7.7	0.0	4.6	3.1	13.8
	無回答	5	0	0	3	2	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	122	26	7	20	27	24	1	8	2	7
		100.0	21.3	5.7	16.4	22.1	19.7	0.8	6.6	1.6	5.7
	中越	93	14	9	28	24	6	2	6	1	3
		100.0	15.1	9.7	30.1	25.8	6.5	2.2	6.5	1.1	3.2
	上越	22	1	3	5	5	0	1	2	0	5
		100.0	4.5	13.6	22.7	22.7	0.0	4.5	9.1	0.0	22.7
《人口規模別》	10万人以上	142	31	15	25	33	15	3	11	0	9
		100.0	21.8	10.6	17.6	23.2	10.6	2.1	7.7	0.0	6.3
	10万人以下	95	10	4	28	23	15	1	5	3	6
		100.0	10.5	4.2	29.5	24.2	15.8	1.1	5.3	3.2	6.3

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ６：コイン精米機を利用したことがありますか。

結果は図６および表６に示した。「あり」が全体で約４割となかなかの利用率で、それだけ玄米での入手が多いことを意味している。人口 10 万人以上の都市部でも回答者の 33.2%に利用経験がある。産地直送米の大幅な増加との関連で利用が伸びていることが考えられる。



N=350

図6．コイン精米機の利用経験（全体）

表６．コイン精米機の利用経験

		総数	ある	ない	無回答
《全体》		350	138	203	9
		100.0	39.4	58.0	2.6
《性別》	女性	295	119	169	7
		100.0	40.3	57.3	2.4
	男性	53	18	33	2
		100.0	34.0	62.3	3.8
	無回答	2	1	1	0
		100.0	50.0	50.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	32	56	0
		100.0	36.4	63.6	0.0
	40代	77	33	42	2
		100.0	42.9	54.5	2.6
	50代	73	32	41	0
		100.0	43.8	56.2	0.0
	60歳以上	103	39	58	6
		100.0	37.9	56.3	5.8
	無回答	9	2	6	1
		100.0	22.2	66.7	11.1
《地区別》	下越	191	75	110	6
		100.0	39.3	57.6	3.1
	中越	118	44	71	3
		100.0	37.3	60.2	2.5
	上越	41	19	22	0
		100.0	46.3	53.7	0.0
《人口規模別》	10万人以上	205	68	133	4
		100.0	33.2	64.9	2.0
	10万人以下	145	70	70	5
		100.0	48.3	48.3	3.4

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ７：最も好ましい包装単位は何ですか。

結果は図７および表７に示した。前回の調査結果で少単位包装が増加する傾向が予想されていたが、確実にその傾向が進行している。10kg が 42.9%まで減少して（平成７年度：64.7%、平成８年度：57.2%）、5kg と同レベルになり、5kg 未満を好ましいとする人の割合は 9.3%と急激に増加している（平成７年度：1.2%、平成８年度：2.8%）。これは平均世帯人数の減少に伴う世帯当たりの購入量の減少が一つの理由として考えられる。また、40 代以下で 5kg 以下の包装を選択する率が高いが、この年代は購入先としてスーパーが多く、店頭で購入しやすい包装単位であるという理由も考えられる。

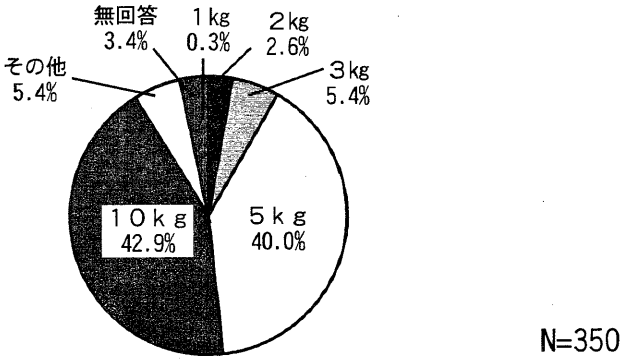


図７．最も好ましい包装単位（全体）

表７．最も好ましい包装単位

		総数	1kg	2kg	3kg	5kg	10kg	その他	無回答
〈全体〉		350	1	9	19	140	150	19	12
		100.0	0.3	2.6	5.4	40.0	42.9	5.4	3.4
〈性別〉	女性	295	1	9	18	122	123	11	11
		100.0	0.3	3.1	6.1	41.4	41.7	3.7	3.7
	男性	53	0	0	1	18	26	7	1
		100.0	0.0	0.0	1.9	34.0	49.1	13.2	1.9
	無回答	2	0	0	0	0	1	1	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
〈年代別〉	30代以下	88	1	5	10	36	33	3	0
		100.0	1.1	5.7	11.4	40.9	37.5	3.4	0.0
	40代	77	0	2	1	31	35	3	5
		100.0	0.0	2.6	1.3	40.3	45.5	3.9	6.5
	50代	73	0	1	4	31	32	3	2
		100.0	0.0	1.4	5.5	42.5	43.8	4.1	2.7
	60歳以上	103	0	1	3	40	45	9	5
		100.0	0.0	1.0	2.9	38.8	43.7	8.7	4.9
	無回答	9	0	0	1	2	5	1	0
		100.0	0.0	0.0	11.1	22.2	55.6	11.1	0.0
〈地区別〉	下越	191	1	2	9	75	84	9	11
		100.0	0.5	1.0	4.7	39.3	44.0	4.7	5.8
	中越	118	0	7	8	53	44	6	0
		100.0	0.0	5.9	6.8	44.9	37.3	5.1	0.0
	上越	41	0	0	2	12	22	4	1
		100.0	0.0	0.0	4.9	29.3	53.7	9.8	2.4
〈人口規模別〉	10万人以上	205	1	7	12	88	81	8	8
		100.0	0.5	3.4	5.9	42.9	39.5	3.9	3.9
	10万人以下	145	0	2	7	52	69	11	4
		100.0	0.0	1.4	4.8	35.9	47.6	7.6	2.8

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ８：包装についてどのような材質がよいと思いますか。

結果は図８および表８に示した。ビニール袋と紙袋が圧倒的多数なのは昨年度と同様であるが、紙袋を回答した人が45.7%とかなり増えている（平成８年度：36.6%）のは興味深い傾向である。付記された理由によると、プラスチック・ゴミの分別収集の開始により可燃性の紙袋のほうにゴミとしての後始末の容易さを感じること、環境問題に対する一般的な関心の高まり、米がむれず保存性に優れていることなどがその要因としてあげられている。一方、ビニール袋を好む理由としては、中が見えること、丈夫で持ちやすいこと、ゴミ袋として再利用できることなどがあげられている。

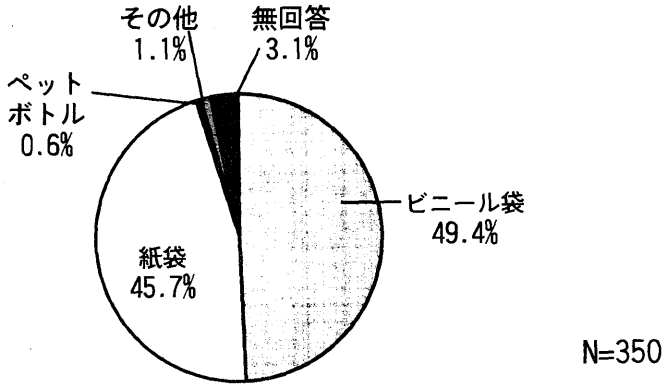


図８．好ましい包装材質（全体）

表８．好ましい包装材質

		総数	ビニール袋	紙袋	ペットボトル	その他	無回答
《全体》		350	173	160	2	4	11
		100.0	49.4	45.7	0.6	1.1	3.1
《性別》	女性	295	143	135	2	4	11
		100.0	48.5	45.8	0.7	1.4	3.7
	男性	53	29	24	0	0	0
		100.0	54.7	45.3	0.0	0.0	0.0
	無回答	2	1	1	0	0	0
		100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	46	39	1	0	2
		100.0	52.3	44.3	1.1	0.0	2.3
	40代	77	43	27	1	2	4
		100.0	55.8	35.1	1.3	2.6	5.2
	50代	73	35	35	0	1	2
		100.0	47.9	47.9	0.0	1.4	2.7
	60歳以上	103	43	56	0	1	3
		100.0	41.7	54.4	0.0	1.0	2.9
	無回答	9	6	3	0	0	0
		100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	191	90	91	2	2	6
		100.0	47.1	47.6	1.0	1.0	3.1
	中越	118	62	50	0	2	4
		100.0	52.5	42.4	0.0	1.7	3.4
	上越	41	21	19	0	0	1
		100.0	51.2	46.3	0.0	0.0	2.4
《人口規模別》	10万人以上	205	102	91	1	3	8
		100.0	49.8	44.4	0.5	1.5	3.9
	10万人以下	145	71	69	1	1	3
		100.0	49.0	47.6	0.7	0.7	2.1

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ９：お米の表示の中でどれを重要視していますか。

結果は図９および表９に示した。品種、精米年月日、産地、収穫年度、品名という順番で重要視されているという結果は昨年度と全く同じである。販売業者または精米工場名に対しての関心が低下している点のみがわずかに違いとして認められるが、販売業者の多様化が反映しているのかもしれない。

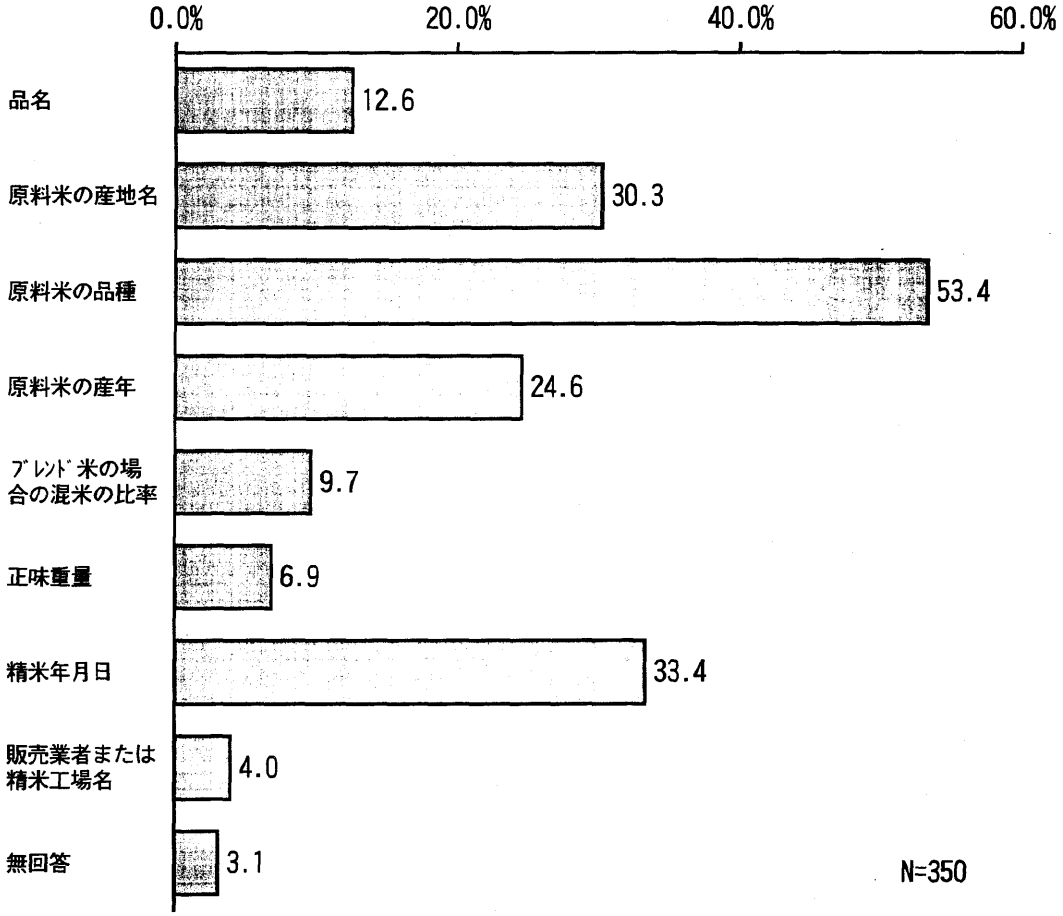


図９．米の包装容器の表示中重要視するもの（全体）

表９．米の包装容器の表示中重要視するもの

		総数	品名	原料米の産地名	原料米の品種	原料米の産年	ブレンド米の場合の混米の比率(%)	正味重量	精米年月日	販売業者または精米工場名	無回答
《全体》		350	44	106	187	86	34	24	117	14	11
		100.0	12.6	30.3	53.4	24.6	9.7	6.9	33.4	4.0	3.1
《性別》	女性	295	40	87	154	74	27	23	97	10	9
		100.0	13.6	29.5	52.2	25.1	9.2	7.8	32.9	3.4	3.1
	男性	53	3	18	31	12	7	1	20	4	2
		100.0	5.7	34.0	58.5	22.6	13.2	1.9	37.7	7.5	3.8
	無回答	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0
		100.0	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	19	26	36	29	14	2	24	4	1
		100.0	21.6	29.5	40.9	33.0	15.9	2.3	27.3	4.5	1.1
	40代	77	7	23	47	20	4	6	21	0	5
		100.0	9.1	29.9	61.0	26.0	5.2	7.8	27.3	0.0	6.5
	50代	73	4	22	42	20	7	6	29	2	1
		100.0	5.5	30.1	57.5	27.4	9.6	8.2	39.7	2.7	1.4
	60歳以上	103	12	33	56	17	8	10	40	7	4
		100.0	11.7	32.0	54.4	16.5	7.8	9.7	38.8	6.8	3.9
	無回答	9	2	2	6	0	1	0	3	1	0
		100.0	22.2	22.2	66.7	0.0	11.1	0.0	33.3	11.1	0.0
《地区別》	下越	191	16	55	121	42	15	13	71	4	7
		100.0	8.4	28.8	63.4	22.0	7.9	6.8	37.2	2.1	3.7
	中越	118	20	39	46	35	13	6	34	8	3
		100.0	16.9	33.1	39.0	29.7	11.0	5.1	28.8	6.8	2.5
	上越	41	8	12	20	9	6	5	12	2	1
		100.0	19.5	29.3	48.8	22.0	14.6	12.2	29.3	4.9	2.4
《人口規模別》	10万人以上	205	26	62	104	52	20	16	64	5	8
		100.0	12.7	30.2	50.7	25.4	9.8	7.8	31.2	2.4	3.9
	10万人以下	145	18	44	83	34	14	8	53	9	3
		100.0	12.4	30.3	57.2	23.4	9.7	5.5	36.6	6.2	2.1

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１１：認証、確認マークの意味をご存知ですか。

結果は図１１および表１１に示した。昨年度同様、「知らない」が圧倒的に多いが、知っている人は全体で24.9%まで増加し（平成８年度：18.4%）、徐々に浸透しつつある傾向は認められる。

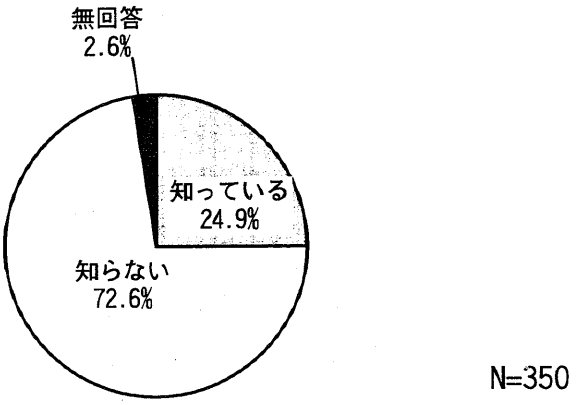


図１１．　認証マーク、確認マークの認知度（全体）

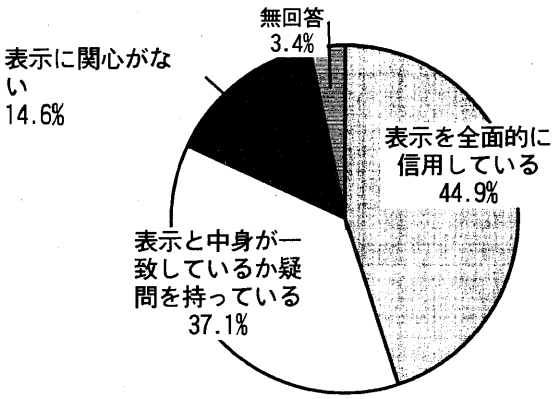
表１１．認証マーク、確認マークの認知度

		総数	知っている	知らない	無回答
〈全体〉		350	87	254	9
		100.0	24.9	72.6	2.6
〈性別〉	女性	295	75	212	8
		100.0	25.4	71.9	2.7
	男性	53	12	40	1
		100.0	22.6	75.5	1.9
	無回答	2	0	2	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
〈年代別〉	30代以下	88	18	70	0
		100.0	20.5	79.5	0.0
	40代	77	25	50	2
		100.0	32.5	64.9	2.6
	50代	73	17	55	1
		100.0	23.3	75.3	1.4
	60歳以上	103	26	71	6
		100.0	25.2	68.9	5.8
	無回答	9	1	8	0
		100.0	11.1	88.9	0.0
〈地区別〉	下越	191	43	141	7
		100.0	22.5	73.8	3.7
	中越	118	31	86	1
		100.0	26.3	72.9	0.8
	上越	41	13	27	1
		100.0	31.7	65.9	2.4
〈人口規模別〉	10万人以上	205	58	140	7
		100.0	28.3	68.3	3.4
	10万人以下	145	29	114	2
		100.0	20.0	78.6	1.4

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１２：包装容器と中身についての信頼

結果は図１２および表１２に示した。全体の４割近くの人が表示を信用していないわけだが、先の問の確認、認証マークの意味を知る人の少なさを考慮するとこれらを浸透させることである程度の信頼度の改善が見込める可能性はある。なお、表示に無関心という回答が全体で14.6%と大幅に増加していて（平成８年度：4.6%）特に若年層にその傾向が強いことは注意を要する。



N=350

図１２．包装容器の表示に対する信用度（全体）

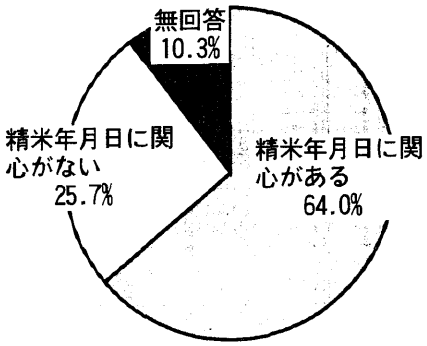
表１２．包装容器の表示に対する信用度

		総数	表示を全面的に信用している	表示と中身が一致しているか疑問を持っている	表示に関心がない	無回答
〈全体〉		350	157	130	51	12
		100.0	44.9	37.1	14.6	3.4
〈性別〉	女性	295	136	104	43	12
		100.0	46.1	35.3	14.6	4.1
	男性	53	20	25	8	0
		100.0	37.7	47.2	15.1	0.0
	無回答	2	1	1	0	0
		100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
〈年代別〉	30代以下	88	36	29	22	1
		100.0	40.9	33.0	25.0	1.1
	40代	77	39	26	10	2
		100.0	50.6	33.8	13.0	2.6
	50代	73	32	27	9	5
		100.0	43.8	37.0	12.3	6.8
	60歳以上	103	44	45	10	4
		100.0	42.7	43.7	9.7	3.9
	無回答	9	6	3	0	0
		100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
〈地区別〉	下越	191	86	76	20	9
		100.0	45.0	39.8	10.5	4.7
	中越	118	55	36	24	3
		100.0	46.6	30.5	20.3	2.5
	上越	41	16	18	7	0
		100.0	39.0	43.9	17.1	0.0
〈人口規模別〉	10万人以上	205	92	71	35	7
		100.0	44.9	34.6	17.1	3.4
	10万人以下	145	65	59	16	5
		100.0	44.8	40.7	11.0	3.4

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１３：米を購入するとき精米年月日に関心がありますか。

結果は図１３および表１３に示した。関心があるという回答の割合は昨年度とほぼ同じである。前問と同様に若年層は関心が低い。



N=350

図１３．精米年月日に対する関心（全体）

表１３．精米年月日に対する関心

		総数	精米年月日に関心がある	精米年月日に関心がない	無回答
《全体》		350	224	90	36
		100.0	64.0	25.7	10.3
《性別》	女性	295	189	74	32
		100.0	64.1	25.1	10.8
	男性	53	35	14	4
		100.0	66.0	26.4	7.5
	無回答	2	0	2	0
		100.0	0.0	100.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	47	37	4
		100.0	53.4	42.0	4.5
	40代	77	51	17	9
		100.0	66.2	22.1	11.7
	50代	73	50	17	6
		100.0	68.5	23.3	8.2
	60歳以上	103	72	15	16
		100.0	69.9	14.6	15.5
	無回答	9	4	4	1
		100.0	44.4	44.4	11.1
《地区別》	下越	191	120	48	23
		100.0	62.8	25.1	12.0
	中越	118	77	32	9
		100.0	65.3	27.1	7.6
	上越	41	27	10	4
		100.0	65.9	24.4	9.8
《人口規模別》	10万人以上	205	123	63	19
		100.0	60.0	30.7	9.3
	10万人以下	145	101	27	17
		100.0	69.7	18.6	11.7

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１３－ＳＱ：精米年月日から購入限度の期間

全体の結果は図１３－ＳＱおよび表１３－ＳＱに示したように、30 日（１月）を限度とするという回答が最も多く、その割合は 29.5%と昨年度（22.5%）より増加している。 精米後 10 日以内という回答は全体の 31.1%、30 日以内は 80.2%であった。年代別にみると精米後 10 日以内という回答が 30 代で少ない（19.1%）のが特徴的であり、これはこの世代の表示への関心の低さとも関連すると思われる。また、どの世代でも 30 日以内が 80%前後を占めており、この期間内が賞味期限というのが一般的な認識のようである。

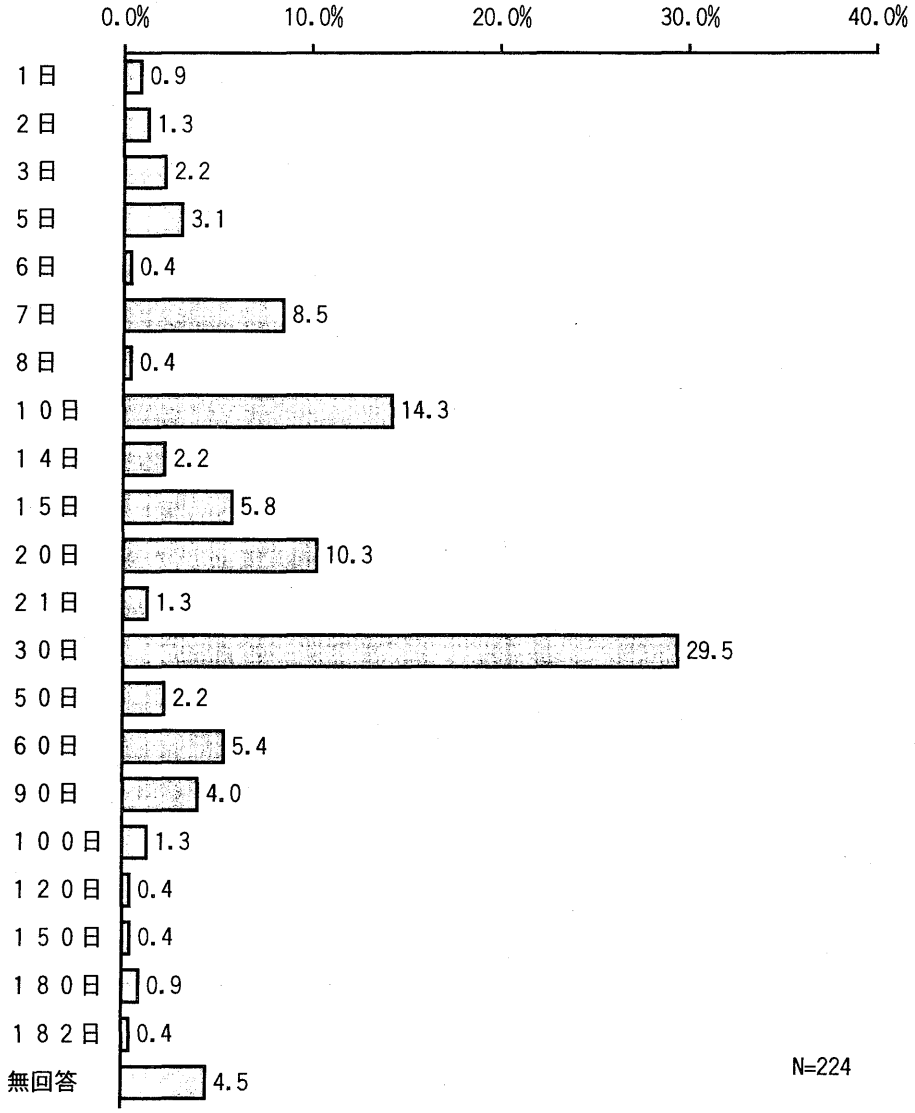


図１３－ＳＱ．購入限度となる精米年月日からの期間（全体）

表１３－ＳＱ．購入限度となる精米年月日からの期間

		総数	1日	2日	3日	5日	6日	7日	8日	10日	14日	15日	20日	21日
《全体》		224	2	3	5	7	1	19	1	32	5	13	23	3
		100.0	0.9	1.3	2.2	3.1	0.4	8.5	0.4	14.3	2.2	5.8	10.3	1.3
《性別》	女性	189	2	3	2	7	0	15	1	30	4	10	18	3
		100.0	1.1	1.6	1.1	3.7	0.0	7.9	0.5	15.9	2.1	5.3	9.5	1.6
	男性	35	0	0	3	0	1	4	0	2	1	3	5	0
		100.0	0.0	0.0	8.6	0.0	2.9	11.4	0.0	5.7	2.9	8.6	14.3	0.0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
《年代別》	30代以下	47	0	0	1	1	0	3	0	4	2	2	7	0
		100.0	0.0	0.0	2.1	2.1	0.0	6.4	0.0	8.5	4.3	4.3	14.9	0.0
	40代	51	1	1	2	0	0	6	0	7	1	1	8	1
		100.0	2.0	2.0	3.9	0.0	0.0	11.8	0.0	13.7	2.0	2.0	15.7	2.0
	50代	50	0	1	1	3	1	3	1	9	1	3	3	1
		100.0	0.0	2.0	2.0	6.0	2.0	6.0	2.0	18.0	2.0	6.0	6.0	2.0
	60歳以上	72	1	1	1	3	0	6	0	12	1	7	5	1
		100.0	1.4	1.4	1.4	4.2	0.0	8.3	0.0	16.7	1.4	9.7	6.9	1.4
	無回答	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	120	1	1	4	6	0	9	1	17	3	6	11	3
		100.0	0.8	0.8	3.3	5.0	0.0	7.5	0.8	14.2	2.5	5.0	9.2	2.5
	中越	77	1	2	0	1	1	9	0	10	1	4	9	0
		100.0	1.3	2.6	0.0	1.3	1.3	11.7	0.0	13.0	1.3	5.2	11.7	0.0
	上越	27	0	0	1	0	0	1	0	5	1	3	3	0
		100.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0	18.5	3.7	11.1	11.1	0.0
《人口規模別》	10万人以上	123	0	1	4	4	0	9	0	23	3	5	14	3
		100.0	0.0	0.8	3.3	3.3	0.0	7.3	0.0	18.7	2.4	4.1	11.4	2.4
	10万人以下	101	2	2	1	3	1	10	1	9	2	8	9	0
		100.0	2.0	2.0	1.0	3.0	1.0	9.9	1.0	8.9	2.0	7.9	8.9	0.0

表１３－ＳＱ．購入限度となる精米年月日からの期間（続き）

		30日	50日	60日	90日	100日	120日	150日	180日	182日	無回答
《全体》		66	5	12	9	3	1	1	2	1	10
		29.5	2.2	5.4	4.0	1.3	0.4	0.4	0.9	0.4	4.5
《性別》	女性	59	2	9	8	2	1	1	2	1	9
		31.2	1.1	4.8	4.2	1.1	0.5	0.5	1.1	0.5	4.8
	男性	7	3	3	1	1	0	0	0	0	1
		20.0	8.6	8.6	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
《年代別》	30代以下	17	0	3	3	1	0	0	0	0	3
		36.2	0.0	6.4	6.4	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4
	40代	18	0	1	1	1	0	0	1	0	1
		35.3	0.0	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0
	50代	14	2	2	1	1	1	0	0	1	1
		28.0	4.0	4.0	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0
	60歳以上	16	2	6	4	0	0	1	1	0	4
		22.2	2.8	8.3	5.6	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0	5.6
	無回答	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
《地区別》	下越	37	2	5	3	2	0	0	2	1	6
		30.8	1.7	4.2	2.5	1.7	0.0	0.0	1.7	0.8	5.0
	中越	25	3	3	3	0	1	1	0	0	3
		32.5	3.9	3.9	3.9	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	3.9
	上越	4	0	4	3	1	0	0	0	0	1
		14.8	0.0	14.8	11.1	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7
《人口規模別》	10万人以上	38	0	9	4	1	0	0	2	0	3
		30.9	0.0	7.3	3.3	0.8	0.0	0.0	1.6	0.0	2.4
	10万人以下	28	5	3	5	2	1	1	0	1	7
		27.7	5.0	3.0	5.0	2.0	1.0	1.0	0.0	1.0	6.9

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１４：最近購入した特殊な米は何ですか。

特殊な米とは普通に市販されている精米以外で特殊な名称を持たない米を指す。結果を図１４および表１４に示した。39.4%がこれらの米を購入していない。全体について、昨年度と比較して増加が見られたのは有機栽培米（20.3→23.4%）、玄米（18.0→23.4%）、無低農薬米（13.7→18.9%）で、これらの増加は米の品質に対する一般的な関心の高まりを反映するものと見られる。年代別に見ていくと50代の回答者に有機栽培米や無農薬米の購入経験者が特に多いのが興味深い結果である。玄米の利用の増加はＱ６で明らかになったコイン精米機の利用の普及とも関連があるものと思われる。また、無洗米もわずかながら（0.3→2.0%）増加しており、このような利用において高度に簡便化された米の消費が今後どのように推移していくのか関心が持たれる。

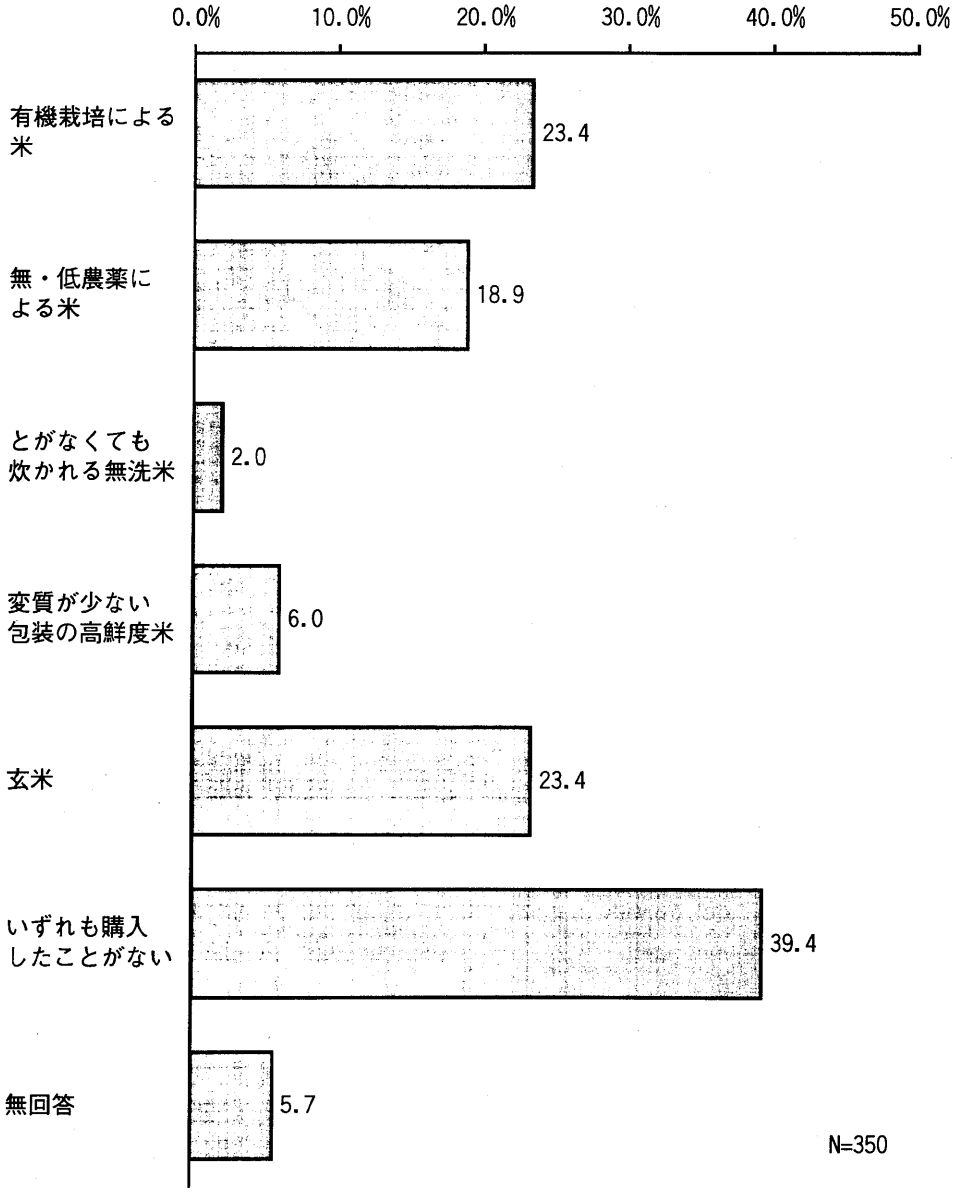


図１４．最近購入したことのある特殊な米（全体）

表１４．最近購入したことのある特殊な米

		総数	有機栽培による米	無・低農薬による米	とがなくても炊かれる無洗米	変質が少ない包装の高鮮度米	玄米	いずれも購入したことがない	無回答
《全体》		350	82	66	7	21	82	138	20
		100.0	23.4	18.9	2.0	6.0	23.4	39.4	5.7
《性別》	女性	295	76	55	6	15	65	118	19
		100.0	25.8	18.6	2.0	5.1	22.0	40.0	6.4
	男性	53	6	11	1	5	16	20	1
		100.0	11.3	20.8	1.9	9.4	30.2	37.7	1.9
	無回答	2	0	0	0	1	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	20	15	3	5	18	37	3
		100.0	22.7	17.0	3.4	5.7	20.5	42.0	3.4
	40代	77	17	12	3	2	15	38	3
		100.0	22.1	15.6	3.9	2.6	19.5	49.4	3.9
	50代	73	27	20	1	2	18	27	1
		100.0	37.0	27.4	1.4	2.7	24.7	37.0	1.4
	60歳以上	103	16	18	0	10	28	35	12
		100.0	15.5	17.5	0.0	9.7	27.2	34.0	11.7
	無回答	9	2	1	0	2	3	1	1
		100.0	22.2	11.1	0.0	22.2	33.3	11.1	11.1
《地区別》	下越	191	44	39	3	9	44	76	13
		100.0	23.0	20.4	1.6	4.7	23.0	39.8	6.8
	中越	118	29	23	2	9	23	49	4
		100.0	24.6	19.5	1.7	7.6	19.5	41.5	3.4
	上越	41	9	4	2	3	15	13	3
		100.0	22.0	9.8	4.9	7.3	36.6	31.7	7.3
《人口規模別》	10万人以上	205	55	40	6	9	41	80	11
		100.0	26.8	19.5	2.9	4.4	20.0	39.0	5.4
	10万人以下	145	27	26	1	12	41	58	9
		100.0	18.6	17.9	0.7	8.3	28.3	40.0	6.2

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１５：米のどのような情報に関心がありますか。

結果は図１５および表１５に示した。全体で見ると米についての情報の中では品種、味、生産・流通が特に関心を持たれるものであることが示された。これはＱ９の回答とも関連してくるが、消費者は当然の事ながら美味しい米が欲しいわけであり、基本的に品種名（およびブランドイメージ）が米のおいしさの１番の指標だということである。また、生産・流通に関しての情報に対する関心がどの世代でも高いことは逆に言えば、現在、生産・流通に関する情報が少なく、その過程がわかりにくいという一般の意識を示すものとも受け取れる。米の調理・利用についての関心が比較的低いのは、ほとんどの場合米は白飯として食するわけであるから、ある意味では当たり前かもしれない。

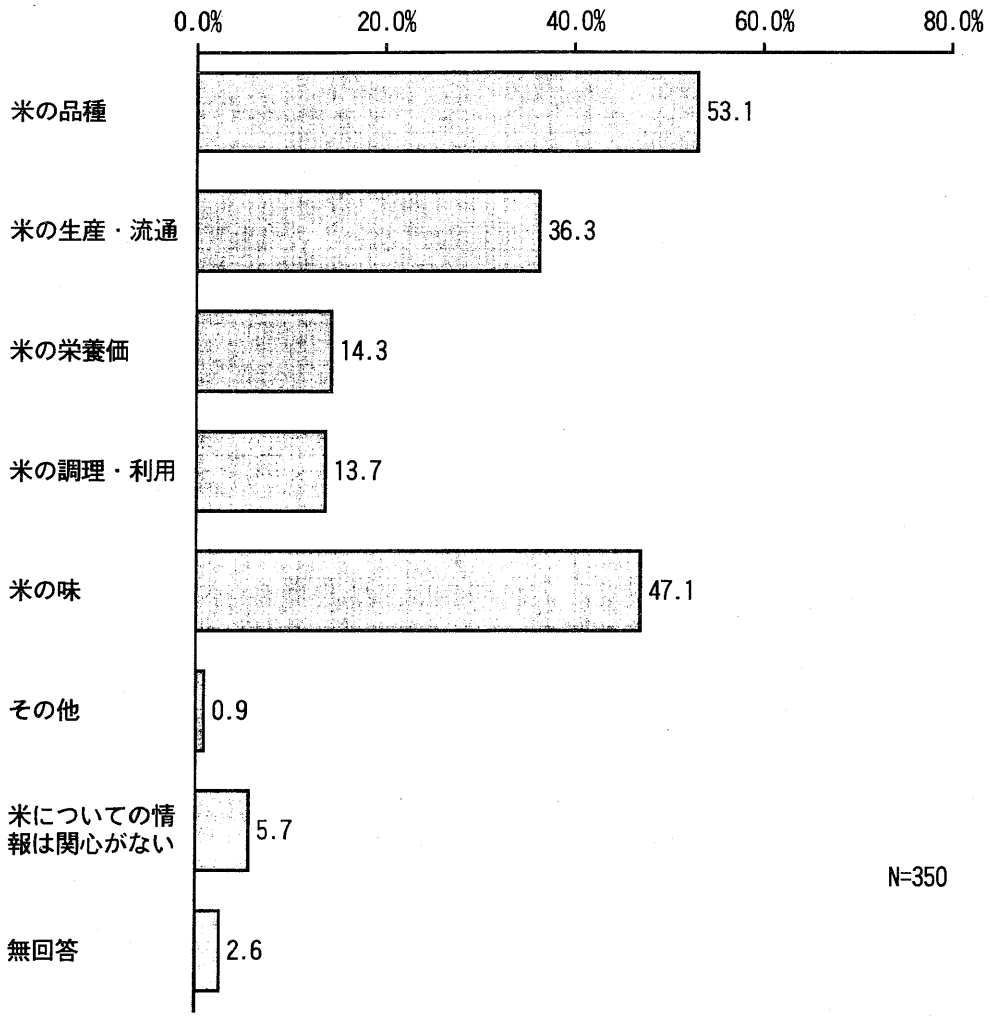


図１５．米についての関心のある情報（全体）

表１５．米についての関心のある情報

		総数	米の品種	米の生産・流通	米の栄養価	米の調理・利用	米の味	その他	米についての情報は関心がない	無回答
《全体》		350	186	127	50	48	165	3	20	9
		100.0	53.1	36.3	14.3	13.7	47.1	0.9	5.7	2.6
《性別》	女性	295	152	104	45	45	134	2	20	9
		100.0	51.5	35.3	15.3	15.3	45.4	0.7	6.8	3.1
	男性	53	32	22	5	3	30	1	0	0
		100.0	60.4	41.5	9.4	5.7	56.6	1.9	0.0	0.0
	無回答	2	2	1	0	0	1	0	0	0
		100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	40	24	18	19	35	2	4	1
		100.0	45.5	27.3	20.5	21.6	39.8	2.3	4.5	1.1
	40代	77	40	27	6	10	31	0	7	2
		100.0	51.9	35.1	7.8	13.0	40.3	0.0	9.1	2.6
	50代	73	41	33	11	7	32	0	3	1
		100.0	56.2	45.2	15.1	9.6	43.8	0.0	4.1	1.4
	60歳以上	103	60	38	15	12	62	1	6	5
		100.0	58.3	36.9	14.6	11.7	60.2	1.0	5.8	4.9
	無回答	9	5	5	0	0	5	0	0	0
		100.0	55.6	55.6	0.0	0.0	55.6	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	191	103	73	28	20	102	2	10	6
		100.0	53.9	38.2	14.7	10.5	53.4	1.0	5.2	3.1
	中越	118	61	43	19	24	39	1	9	2
		100.0	51.7	36.4	16.1	20.3	33.1	0.8	7.6	1.7
	上越	41	22	11	3	4	24	0	1	1
		100.0	53.7	26.8	7.3	9.8	58.5	0.0	2.4	2.4
《人口規模別》	10万人以上	205	104	73	30	26	91	2	11	6
		100.0	50.7	35.6	14.6	12.7	44.4	1.0	5.4	2.9
	10万人以下	145	82	54	20	22	74	1	9	3
		100.0	56.6	37.2	13.8	15.2	51.0	0.7	6.2	2.1

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１５－ＳＱ１：米の情報を収集する方法は何ですか。

結果は図１５－ＳＱ１および表１５－ＳＱ１に示した。現代において日々の情報の主たる供給源はテレビと新聞であることを考慮すれば当然の結果と言える。新聞を回答した人が高齢になるほど多いというのも象徴的である。ただ、この結果で注目すべき点は、本来、商品というものについて多くの情報を発しているのが当然と考えられる販売店が、米という商品の場合はとりわけ情報供給と無縁である、という点である。また、今回の調査では設問に取り入れなかったが、情報収集の手段として近い将来インターネットのホームページが大きな割合を占めてくる可能性は十分考えられる。

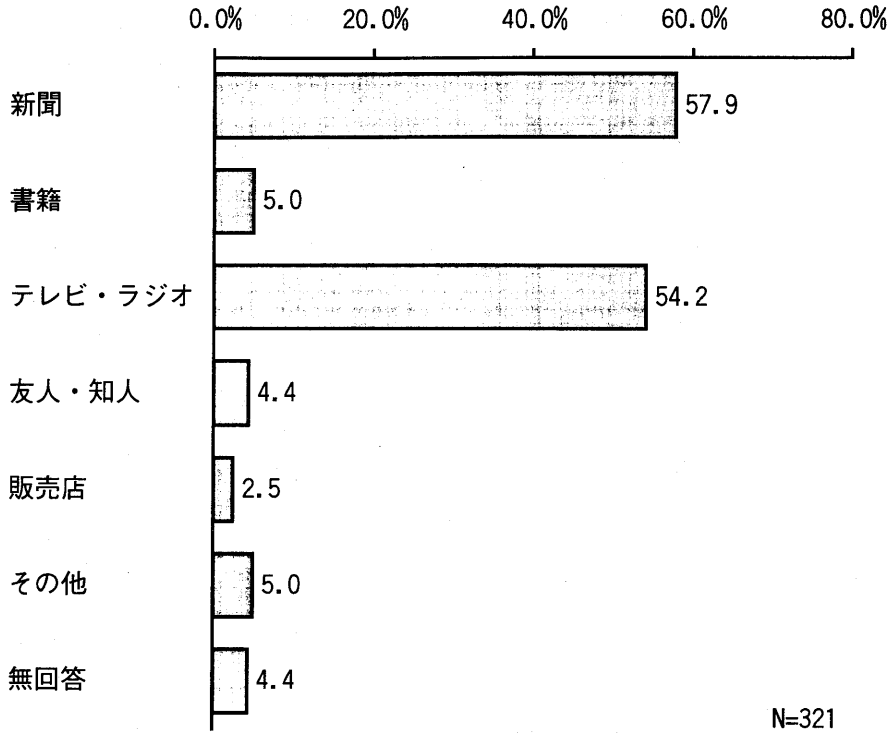


図１５－ＳＱ１．米についての情報の収集手段（全体）

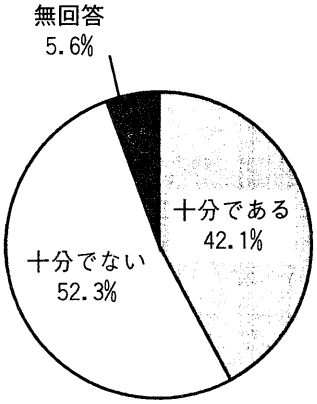
表１５－ＳＱ１．米についての情報の収集手段

		総数	新聞	書籍	テレビ・ラジオ	友人・知人	販売店	その他	無回答
《全体》		321	186	16	174	14	8	16	14
		100.0	57.9	5.0	54.2	4.4	2.5	5.0	4.4
《性別》	女性	266	144	14	148	14	7	12	13
		100.0	54.1	5.3	55.6	5.3	2.6	4.5	4.9
	男性	53	40	2	25	0	1	4	1
		100.0	75.5	3.8	47.2	0.0	1.9	7.5	1.9
	無回答	2	2	0	1	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	83	36	7	47	3	4	3	2
		100.0	43.4	8.4	56.6	3.6	4.8	3.6	2.4
	40代	68	39	4	29	3	1	5	3
		100.0	57.4	5.9	42.6	4.4	1.5	7.4	4.4
	50代	69	44	3	41	6	0	3	3
		100.0	63.8	4.3	59.4	8.7	0.0	4.3	4.3
	60歳以上	92	63	2	53	1	3	5	4
		100.0	68.5	2.2	57.6	1.1	3.3	5.4	4.3
	無回答	9	4	0	4	1	0	0	2
		100.0	44.4	0.0	44.4	11.1	0.0	0.0	22.2
《地区別》	下越	175	115	12	85	11	6	11	7
		100.0	65.7	6.9	48.6	6.3	3.4	6.3	4.0
	中越	107	54	3	69	2	1	3	1
		100.0	50.5	2.8	64.5	1.9	0.9	2.8	0.9
	上越	39	17	1	20	1	1	2	6
		100.0	43.6	2.6	51.3	2.6	2.6	5.1	15.4
《人口規模別》	10万人以上	188	112	10	88	9	6	10	6
		100.0	59.6	5.3	46.8	4.8	3.2	5.3	3.2
	10万人以下	133	74	6	86	5	2	6	8
		100.0	55.6	4.5	64.7	3.8	1.5	4.5	6.0

（上段＝実数／下段＝％）

Ｑ１５－ＳＱ２：米の情報量についてはどうですか。

結果は図１５－ＳＱ２および表１５－ＳＱ２に示した。全体で半分以上の人が米に関して情報不足を感じているという回答は十分考慮すべき点である。商品の消費を促進する上で情報供給は不可欠である。その手段として、現在の主たる情報メディアであるテレビ・新聞を用いるのはもちろん有力だが、現在、ほとんど情報供給源としては消費者の目が向いていない（にもかかわらず深い関係をもつ）販売店を活用することも一方法であろう。



N=321

図１５－ＳＱ２．米についての情報の充足度（全体）

表１５－ＳＱ２．米についての情報の充足度

		総数	十分である	十分でない	無回答
《全体》		321	135	168	18
		100.0	42.1	52.3	5.6
《性別》	女性	266	108	143	15
		100.0	40.6	53.8	5.6
	男性	53	25	25	3
		100.0	47.2	47.2	5.7
	無回答	2	2	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	83	30	51	2
		100.0	36.1	61.4	2.4
	40代	68	32	31	5
		100.0	47.1	45.6	7.4
	50代	69	27	38	4
		100.0	39.1	55.1	5.8
	60歳以上	92	43	43	6
		100.0	46.7	46.7	6.5
	無回答	9	3	5	1
		100.0	33.3	55.6	11.1
《地区別》	下越	175	79	89	7
		100.0	45.1	50.9	4.0
	中越	107	40	61	6
		100.0	37.4	57.0	5.6
	上越	39	16	18	5
		100.0	41.0	46.2	12.8
《人口規模別》	10万人以上	188	83	97	8
		100.0	44.1	51.6	4.3
	10万人以下	133	52	71	10
		100.0	39.1	53.4	7.5

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１６－１：１ヶ月の外食回数は。

結果は図１６－１と表１６－１に示した。全体で見ると「外食に行かない」が11.4%と昨年度（24.3%）より大幅に減少しており、家族連れ外食がより一般的になっている傾向が現れている。年代別、人口別に見ると若年層ほど、都市部ほど外食回数が多い傾向がある。回数は月に１回または２回が50%以上を占め、これはどの年齢層でも同様である。全般に外食に行く人が増加して、その結果、少ない回数の回答が増加したと見られる。平均回数は2.1回／月・世帯で、昨年度の1.6回／月・世帯を上回っている。

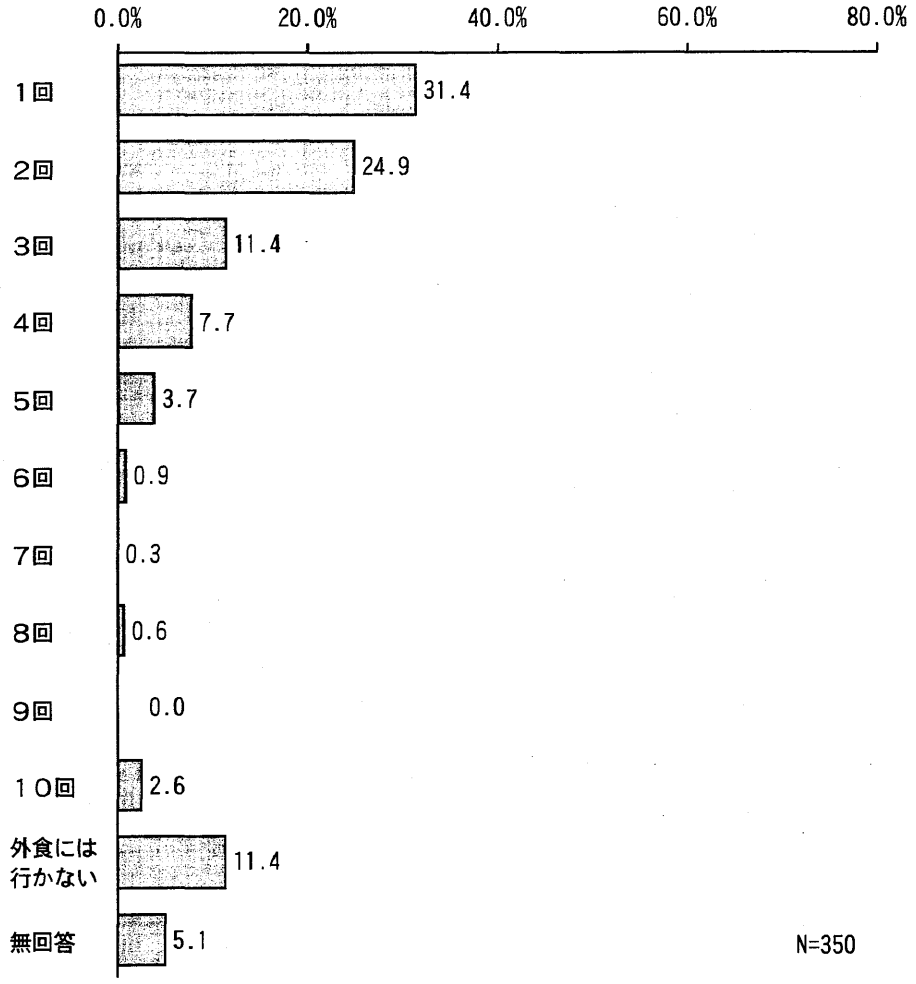


図１６－１．１ヶ月あたりの家族連れ外食回数（全体）

表１６－１．１ヶ月あたりの家族連れ外食回数

		総数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	外食には行かない	無回答
《全体》		350	110	87	40	27	13	3	1	2	0	9	40	18
		100.0	31.4	24.9	11.4	7.7	3.7	0.9	0.3	0.6	0.0	2.6	11.4	5.1
《性別》	女性	295	89	73	34	23	13	3	1	1	0	7	35	16
		100.0	30.2	24.7	11.5	7.8	4.4	1.0	0.3	0.3	0.0	2.4	11.9	5.4
	男性	53	21	12	6	4	0	0	0	1	0	2	5	2
		100.0	39.6	22.6	11.3	7.5	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	3.8	9.4	3.8
	無回答	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	25	21	14	12	5	2	0	1	0	3	4	1
		100.0	28.4	23.9	15.9	13.6	5.7	2.3	0.0	1.1	0.0	3.4	4.5	1.1
	40代	77	19	24	10	5	5	0	0	0	0	0	8	6
		100.0	24.7	31.2	13.0	6.5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.4	7.8
	50代	73	26	19	6	2	3	1	0	1	0	2	12	1
		100.0	35.6	26.0	8.2	2.7	4.1	1.4	0.0	1.4	0.0	2.7	16.4	1.4
	60歳以上	103	38	19	9	8	0	0	1	0	0	2	16	10
		100.0	36.9	18.4	8.7	7.8	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.9	15.5	9.7
	無回答	9	2	4	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		100.0	22.2	44.4	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0
《地区別》	下越	191	65	46	18	14	7	1	0	0	0	5	24	11
		100.0	34.0	24.1	9.4	7.3	3.7	0.5	0.0	0.0	0.0	2.6	12.6	5.8
	中越	118	32	29	16	10	5	2	1	2	0	2	13	6
		100.0	27.1	24.6	13.6	8.5	4.2	1.7	0.8	1.7	0.0	1.7	11.0	5.1
	上越	41	13	11	7	3	1	0	0	0	0	2	3	1
		100.0	31.7	26.8	17.1	7.3	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	7.3	2.4
《人口規模別》	10万人以上	205	66	51	25	19	10	1	0	1	0	6	16	10
		100.0	32.2	24.9	12.2	9.3	4.9	0.5	0.0	0.5	0.0	2.9	7.8	4.9
	10万人以下	145	44	36	15	8	3	2	1	1	0	3	24	8
		100.0	30.3	24.8	10.3	5.5	2.1	1.4	0.7	0.7	0.0	2.1	16.6	5.5

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１６－２：１回当たりの外食の支出はいくらですか。

結果は図１６－２および表１６－２に示した。１回当たりの外食支出は 5000 円以下の支出が大部分で、平均 4502 円は昨年度とほぼ同様であるが、外食回数の増加を反映して、１世帯、１月当たりの支出は 9912 円と昨年度（7942 円）より約 25%増である。

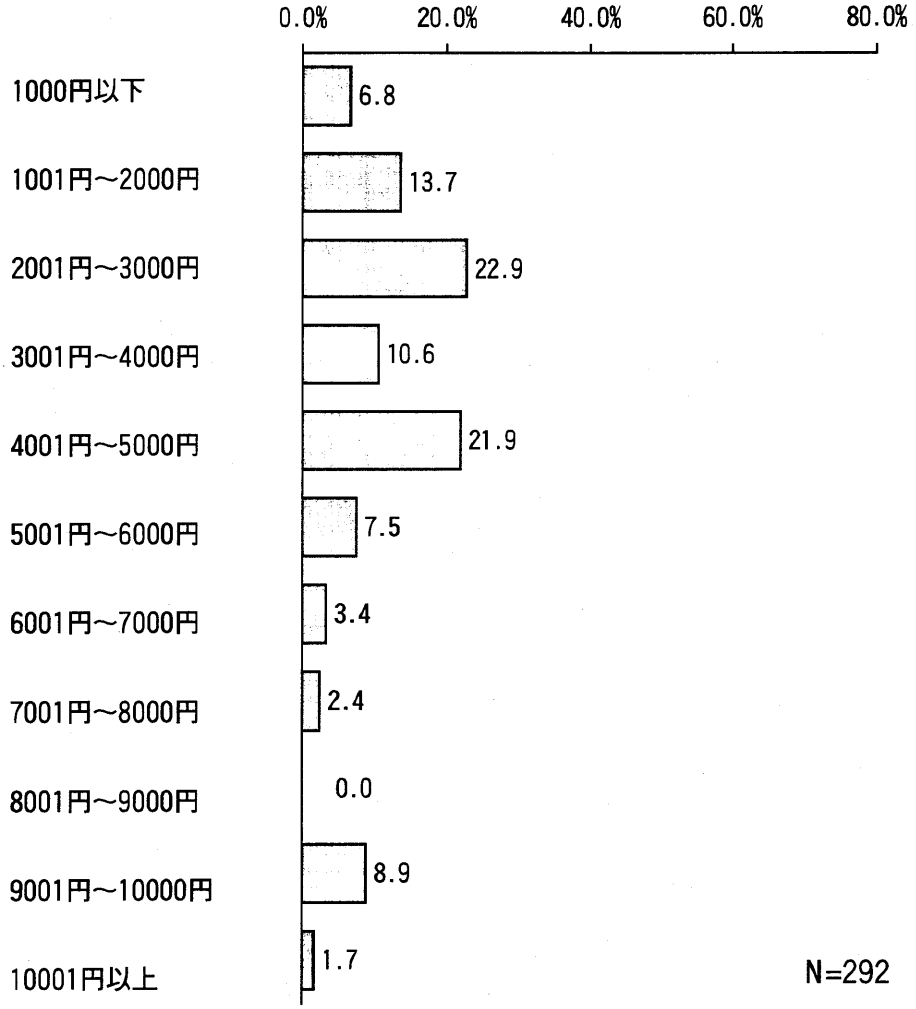


図１６－２．家族連れ外食１回当たりの支出金額（全体）

表１６－２．家族連れ外食１回当たりの支出金額

		総数	1000円以下	1001円～2000円	2001円～3000円	3001円～4000円	4001円～5000円	5001円～6000円	6001円～7000円	7001円～8000円	8001円～9000円	9001円～10000円	10001円以上
〈全体〉		292	20	40	67	31	64	22	10	7	0	26	5
		100.0	6.8	13.7	22.9	10.6	21.9	7.5	3.4	2.4	0.0	8.9	1.7
〈性別〉	女性	244	15	28	57	31	53	18	8	6	0	23	5
		100.0	6.1	11.5	23.4	12.7	21.7	7.4	3.3	2.5	0.0	9.4	2.0
	男性	46	5	11	9	0	11	4	2	1	0	3	0
		100.0	10.9	23.9	19.6	0.0	23.9	8.7	4.3	2.2	0.0	6.5	0.0
	無回答	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
〈年代別〉	30代以下	83	1	3	17	17	26	6	1	1	0	10	1
		100.0	1.2	3.6	20.5	20.5	31.3	7.2	1.2	1.2	0.0	12.0	1.2
	40代	63	3	6	10	3	16	8	7	0	0	9	1
		100.0	4.8	9.5	15.9	4.8	25.4	12.7	11.1	0.0	0.0	14.3	1.6
	50代	60	4	10	19	7	8	5	0	2	0	4	1
		100.0	6.7	16.7	31.7	11.7	13.3	8.3	0.0	3.3	0.0	6.7	1.7
	60歳以上	77	10	19	17	3	14	3	2	4	0	3	2
		100.0	13.0	24.7	22.1	3.9	18.2	3.9	2.6	5.2	0.0	3.9	2.6
	無回答	9	2	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	22.2	22.2	44.4	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
〈地区別〉	下越	156	12	26	29	17	39	12	4	3	0	11	3
		100.0	7.7	16.7	18.6	10.9	25.0	7.7	2.6	1.9	0.0	7.1	1.9
	中越	99	3	8	27	10	20	8	4	4	0	13	2
		100.0	3.0	8.1	27.3	10.1	20.2	8.1	4.0	4.0	0.0	13.1	2.0
	上越	37	5	6	11	4	5	2	2	0	0	2	0
		100.0	13.5	16.2	29.7	10.8	13.5	5.4	5.4	0.0	0.0	5.4	0.0
〈人口規模別〉	10万人以上	179	13	22	35	15	44	16	6	5	0	18	5
		100.0	7.3	12.3	19.6	8.4	24.6	8.9	3.4	2.8	0.0	10.1	2.8
	10万人以下	113	7	18	32	16	20	6	4	2	0	8	0
		100.0	6.2	15.9	28.3	14.2	17.7	5.3	3.5	1.8	0.0	7.1	0.0

※前問「外食に行かない」の回答者および無回答者は比率算出母数から除いた。

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１６－３：外食で食べる主食は。

○若年層（おおよそ 18 歳未満）の場合

図１６－３および表１６－３に示したように、米飯と麺が主でパンが少ないのは昨年度と同じであるが、麺を選択する割合が全体で 57.4%と大幅に増加し（平成８年度：43.1%）、反対に米飯は 35.3%と減少しており（平成８年度：46.6%）若年層の嗜好の推移が顕著に反映されていると考えられる。

○成人の場合

昨年度と同様に米飯と麺が大部分であり、パンは１%とごく少数である。ただし、若年層の場合とは異なり、麺よりも米飯を嗜好する人のほうが、どの年代においても多数を占めた。

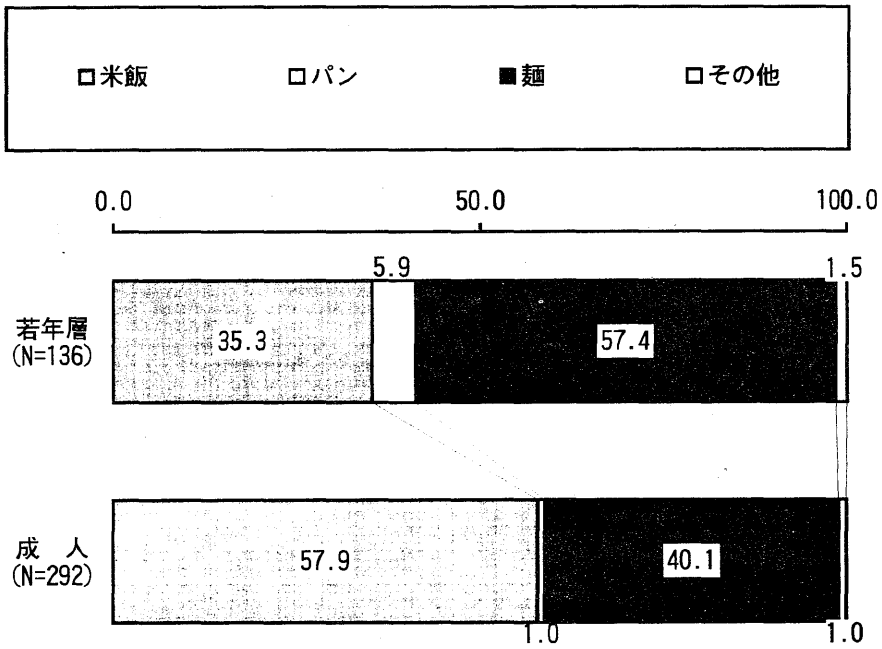


図１６－３．家族連れ外食で食べる主な食事（全体）

表１６－３．家族連れ外食で食べる主な食事

（若年層）

		総数	米飯	パン	麺	その他
《全体》		136	48	8	78	2
		100.0	35.3	5.9	57.4	1.5
《性別》	女性	122	40	8	73	1
		100.0	32.8	6.6	59.8	0.8
	男性	14	8	0	5	1
		100.0	57.1	0.0	35.7	7.1
	無回答	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—
《年代別》	30代以下	70	25	1	43	1
		100.0	35.7	1.4	61.4	1.4
	40代	45	16	7	22	0
		100.0	35.6	15.6	48.9	0.0
	50代	7	2	0	5	0
		100.0	28.6	0.0	71.4	0.0
	60歳以上	12	5	0	6	1
		100.0	41.7	0.0	50.0	8.3
	無回答	2	0	0	2	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
《地区別》	下越	60	27	2	29	2
		100.0	45.0	3.3	48.3	3.3
	中越	61	15	5	41	0
		100.0	24.6	8.2	67.2	0.0
	上越	15	6	1	8	0
		100.0	40.0	6.7	53.3	0.0
《人口規模別》	10万人以上	89	32	6	50	1
		100.0	36.0	6.7	56.2	1.1
	10万人以下	47	16	2	28	1
		100.0	34.0	4.3	59.6	2.1

＊若年層（20歳以下の家族）のいない家庭、無回答は比率算出母数から除いた。

（成人）

		総数	米飯	パン	麺	その他
《全体》		292	169	3	117	3
		100.0	57.9	1.0	40.1	1.0
《性別》	女性	244	138	3	101	2
		100.0	56.6	1.2	41.4	0.8
	男性	46	29	0	16	1
		100.0	63.0	0.0	34.8	2.2
	無回答	2	2	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	86	52	0	33	1
		100.0	60.5	0.0	38.4	1.2
	40代	62	42	2	18	0
		100.0	67.7	3.2	29.0	0.0
	50代	61	31	0	30	0
		100.0	50.8	0.0	49.2	0.0
	60歳以上	76	41	1	32	2
		100.0	53.9	1.3	42.1	2.6
	無回答	7	3	0	4	0
		100.0	42.9	0.0	57.1	0.0
《地区別》	下越	154	91	2	59	2
		100.0	59.1	1.3	38.3	1.3
	中越	102	60	1	40	1
		100.0	58.8	1.0	39.2	1.0
	上越	36	18	0	18	0
		100.0	50.0	0.0	50.0	0.0
《人口規模別》	10万人以上	175	98	3	73	1
		100.0	56.0	1.7	41.7	0.6
	10万人以下	117	71	0	44	2
		100.0	60.7	0.0	37.6	1.7

＊無回答は比率算出母数から除いた。　　（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１７：外食する際に気になること。

結果は図１７および表１７に示した。全体的には昨年度とほぼ同様に嗜好面、衛生面についてをそれぞれ約半数の人が気にしていることが示された。反面、経済的な面を気にするという回答が25.4%（平成８年度：35.0%）と減少し、栄養面を気にするという回答が17.4%（同：10.5%）と増加していることは外食が日常的な習慣として根付きつつあることを示唆するものとも受け取れる。この傾向は年代別でもおおむね同様であるが、高年齢層でも栄養に対する意識の強まりが見られることは注目に値する。また、回答者の具体的な意見は後述する。

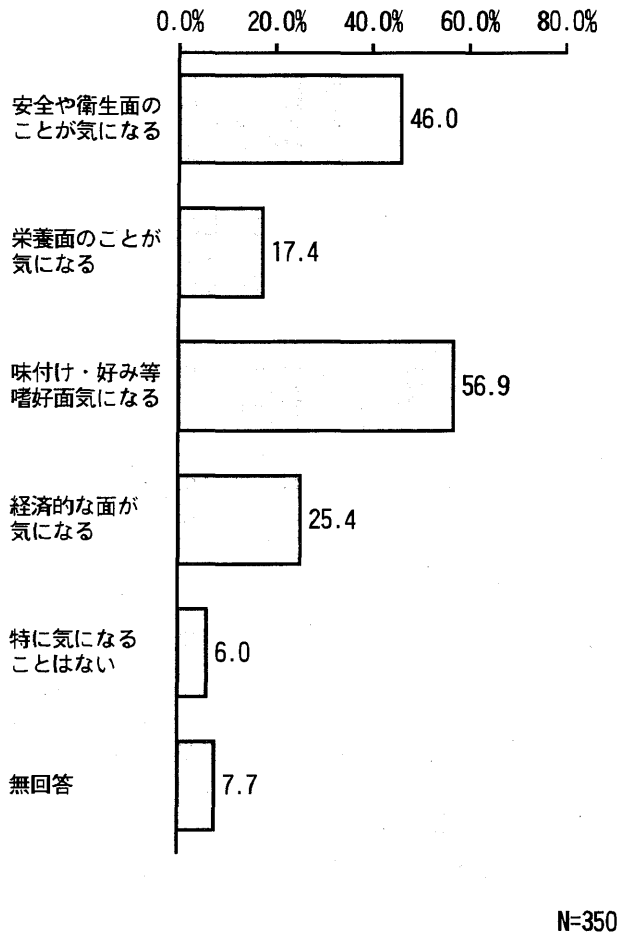


図１７．外食をする際に気になること（全体）

表１７．外食をする際に気になること

		総数	安全や衛生面のことが気になる	栄養面のことが気になる	味付けや、好みなど嗜好面で気になる	経済的な面が気になる	特に気になることはない	無回答
《全体》		350	161	61	199	89	21	27
		100.0	46.0	17.4	56.9	25.4	6.0	7.7
《性別》	女性	295	138	55	164	79	16	20
		100.0	46.8	18.6	55.6	26.8	5.4	6.8
	男性	53	23	6	35	10	5	5
		100.0	43.4	11.3	66.0	18.9	9.4	9.4
	無回答	2	0	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	45	19	48	29	3	0
		100.0	51.1	21.6	54.5	33.0	3.4	0.0
	40代	77	35	14	44	20	3	5
		100.0	45.5	18.2	57.1	26.0	3.9	6.5
	50代	73	34	14	45	19	7	3
		100.0	46.6	19.2	61.6	26.0	9.6	4.1
	60歳以上	103	46	14	62	20	8	11
		100.0	44.7	13.6	60.2	19.4	7.8	10.7
	無回答	9	1	0	0	1	0	8
		100.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	88.9
《地区別》	下越	191	79	32	113	57	12	16
		100.0	41.4	16.8	59.2	29.8	6.3	8.4
	中越	118	66	25	57	20	8	8
		100.0	55.9	21.2	48.3	16.9	6.8	6.8
	上越	41	16	4	29	12	1	3
		100.0	39.0	9.8	70.7	29.3	2.4	7.3
《人口規模別》	10万人以上	205	103	39	114	58	8	10
		100.0	50.2	19.0	55.6	28.3	3.9	4.9
	10万人以下	145	58	22	85	31	13	17
		100.0	40.0	15.2	58.6	21.4	9.0	11.7

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ１８：現在利用している米加工品は。

結果は図１８および表１８に示した。全体の結果として人気の高いものは、おにぎり（55.2%）、ピラフ（36.9%）、であり、以下白飯（25.2%）、赤飯（22.6%）、混ぜ飯（14.4%）の順に続いており、これは、昨年度とほぼ同じ傾向である。買わないは19.7%で、この３年間で激減しており（平成７年度：45.1%、平成８年度：32.4%）、米飯関連加工品の消費者への急速な普及が伺える。

全般に若年齢層ほど高く利用している傾向が見られるが、品目ごとに見てみると、特におにぎりが持ち帰り、冷凍保存を問わず若年齢層に高い人気があることが見られ、また、赤飯が比較的高齢者に人気があることがみられる。食習慣の変化との関連で今後の推移が注目される。

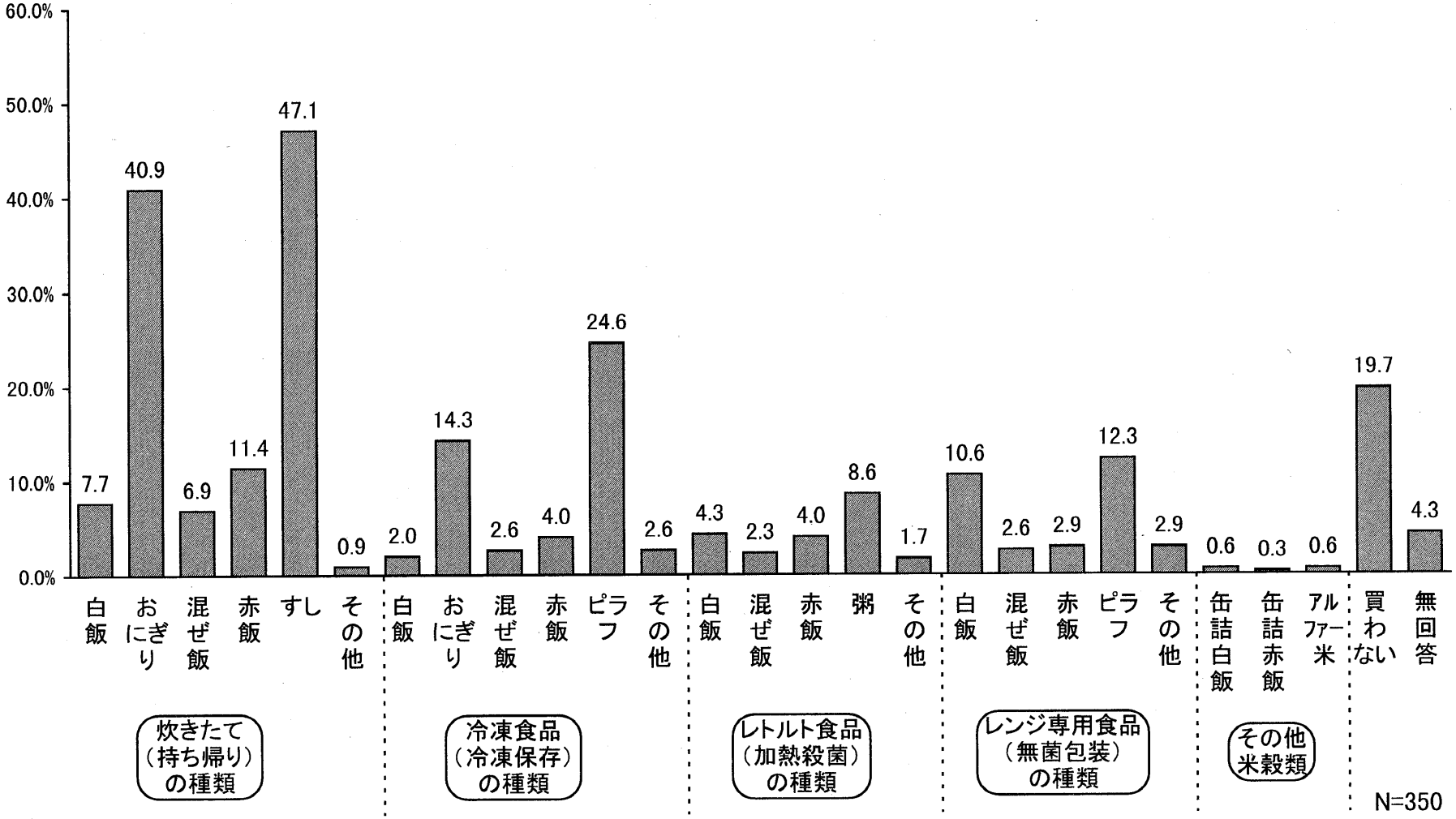


図１８．現在利用している米加工品（全体）

表１８．現在利用している米加工品

		総数	炊きたて（持ち帰り）の種類						冷凍食品（冷凍保存）の種類					
			白飯	おにぎり	混ぜ飯	赤飯	すし	その他	白飯	おにぎり	混ぜ飯	赤飯	ピラフ	その他
《全体》		350	27	143	24	40	165	3	7	50	9	14	86	9
		100.0	7.7	40.9	6.9	11.4	47.1	0.9	2.0	14.3	2.6	4.0	24.6	2.6
《性別》	女性	295	17	125	20	31	143	3	6	47	9	12	81	6
		100.0	5.8	42.4	6.8	10.5	48.5	1.0	2.0	15.9	3.1	4.1	27.5	2.0
	男性	53	10	18	4	9	22	0	1	3	0	2	5	3
		100.0	18.9	34.0	7.5	17.0	41.5	0.0	1.9	5.7	0.0	3.8	9.4	5.7
	無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	3	54	7	5	46	1	0	21	3	2	36	1
		100.0	3.4	61.4	8.0	5.7	52.3	1.1	0.0	23.9	3.4	2.3	40.9	1.1
	40代	77	9	34	4	11	36	0	1	16	4	3	25	0
		100.0	11.7	44.2	5.2	14.3	46.8	0.0	1.3	20.8	5.2	3.9	32.5	0.0
	50代	73	5	28	7	7	41	1	3	7	1	3	17	4
		100.0	6.8	38.4	9.6	9.6	56.2	1.4	4.1	9.6	1.4	4.1	23.3	5.5
	60歳以上	103	10	27	6	17	41	1	3	6	1	6	8	4
		100.0	9.7	26.2	5.8	16.5	39.8	1.0	2.9	5.8	1.0	5.8	7.8	3.9
	無回答	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	191	12	73	10	23	89	1	6	21	4	8	44	5
		100.0	6.3	38.2	5.2	12.0	46.6	0.5	3.1	11.0	2.1	4.2	23.0	2.6
	中越	118	8	59	12	14	62	2	1	24	4	4	39	3
		100.0	6.8	50.0	10.2	11.9	52.5	1.7	0.8	20.3	3.4	3.4	33.1	2.5
	上越	41	7	11	2	3	14	0	0	5	1	2	3	1
		100.0	17.1	26.8	4.9	7.3	34.1	0.0	0.0	12.2	2.4	4.9	7.3	2.4
《人口規模別》	10万人以上	205	15	93	11	27	95	2	3	31	5	6	56	5
		100.0	7.3	45.4	5.4	13.2	46.3	1.0	1.5	15.1	2.4	2.9	27.3	2.4
	10万人以下	145	12	50	13	13	70	1	4	19	4	8	30	4
		100.0	8.3	34.5	9.0	9.0	48.3	0.7	2.8	13.1	2.8	5.5	20.7	2.8

表１８．現在利用している米加工品（続き）

		レトルト食品（加熱殺菌）の種類					レンジ専用食品（無菌包装）の種類					その他米飯類		
		白飯	混ぜ飯	赤飯	粥	その他	白飯	混ぜ飯	赤飯	ピラフ	その他	缶詰白飯	缶詰赤飯	ｱﾙﾌｧｰ米
《全体》		15	8	14	30	6	37	9	10	43	10	2	1	2
		4.3	2.3	4.0	8.6	1.7	10.6	2.6	2.9	12.3	2.9	0.6	0.3	0.6
《性別》	女性	15	6	11	28	5	32	6	8	40	8	2	1	2
		5.1	2.0	3.7	9.5	1.7	10.8	2.0	2.7	13.6	2.7	0.7	0.3	0.7
	男性	0	2	3	2	1	5	3	2	3	2	0	0	0
		0.0	3.8	5.7	3.8	1.9	9.4	5.7	3.8	5.7	3.8	0.0	0.0	0.0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	3	5	0	12	3	11	3	1	12	4	1	0	1
		3.4	5.7	0.0	13.6	3.4	12.5	3.4	1.1	13.6	4.5	1.1	0.0	1.1
	40代	4	0	7	5	1	5	2	4	19	1	0	0	0
		5.2	0.0	9.1	6.5	1.3	6.5	2.6	5.2	24.7	1.3	0.0	0.0	0.0
	50代	6	0	2	10	1	9	0	1	10	3	0	1	1
		8.2	0.0	2.7	13.7	1.4	12.3	0.0	1.4	13.7	4.1	0.0	1.4	1.4
	60歳以上	2	3	5	2	1	12	4	4	2	2	1	0	0
		1.9	2.9	4.9	1.9	1.0	11.7	3.9	3.9	1.9	1.9	1.0	0.0	0.0
	無回答	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	12	2	8	14	3	25	4	4	26	5	1	1	0
		6.3	1.0	4.2	7.3	1.6	13.1	2.1	2.1	13.6	2.6	0.5	0.5	0.0
	中越	3	6	4	13	3	9	3	5	13	4	1	0	2
		2.5	5.1	3.4	11.0	2.5	7.6	2.5	4.2	11.0	3.4	0.8	0.0	1.7
	上越	0	0	2	3	0	3	2	1	4	1	0	0	0
		0.0	0.0	4.9	7.3	0.0	7.3	4.9	2.4	9.8	2.4	0.0	0.0	0.0
《人口規模別》	10万人以上	12	3	8	24	2	25	5	7	31	6	0	0	1
		5.9	1.5	3.9	11.7	1.0	12.2	2.4	3.4	15.1	2.9	0.0	0.0	0.5
	10万人以下	3	5	6	6	4	12	4	3	12	4	2	1	1
		2.1	3.4	4.1	4.1	2.8	8.3	2.8	2.1	8.3	2.8	1.4	0.7	0.7

Ｑ２４：家族が揃って食事するのはいつですか。

結果は図２４および表２４に示したとおり、夕食に家族が揃うことが最も多く、ついで朝食が多く、昼食はほとんどないという回答で、家族の一般的な勤務・就学の形態を考慮すれば予想されるとおりの結果である。60 代以上の回答者では昼食時に家族揃って食事するという回答が大幅に増加しているが、これはこの年代ではおおむね退職者が多くなっていること子供が既に独立していることという家庭の状況によるものと推察される。

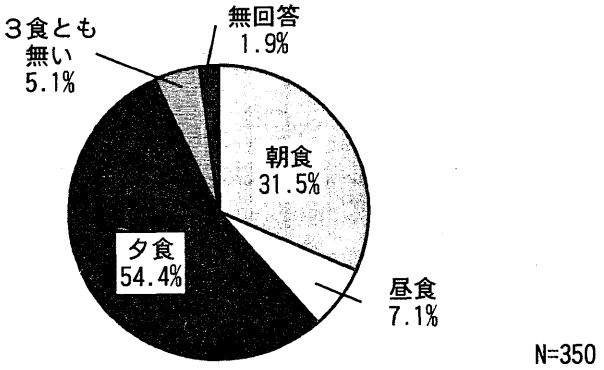


図２４．１日の食事で家族がだいたいそろって食事する機会（全体）

表２４．１日の食事で家族がだいたいそろって食事する機会

		総数	朝食	昼食	夕食	３食とも無い	無回答
〈全体〉		350	166	37	286	27	10
		100.0	47.4	10.6	81.7	7.7	2.9
〈性別〉	女性	295	138	26	245	24	4
		100.0	46.8	8.8	83.1	8.1	1.4
	男性	53	28	11	41	3	4
		100.0	52.8	20.8	77.4	5.7	7.5
	無回答	2	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
〈年代別〉	30代以下	88	38	2	73	6	0
		100.0	43.2	2.3	83.0	6.8	0.0
	40代	77	28	1	62	8	0
		100.0	36.4	1.3	80.5	10.4	0.0
	50代	73	38	5	58	7	0
		100.0	52.1	6.8	79.5	9.6	0.0
	60歳以上	103	62	29	92	6	2
		100.0	60.2	28.2	89.3	5.8	1.9
	無回答	9	0	0	1	0	8
		100.0	0.0	0.0	11.1	0.0	88.9
〈地区別〉	下越	191	89	20	152	18	5
		100.0	46.6	10.5	79.6	9.4	2.6
	中越	118	60	11	103	4	2
		100.0	50.8	9.3	87.3	3.4	1.7
	上越	41	17	6	31	5	3
		100.0	41.5	14.6	75.6	12.2	7.3
〈人口規模別〉	10万人以上	205	88	19	167	20	2
		100.0	42.9	9.3	81.5	9.8	1.0
	10万人以下	145	78	18	119	7	8
		100.0	53.8	12.4	82.1	4.8	5.5

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ２５：普段、子供たちは誰と一緒に食事することが最も多いですか。

結果を図２５および表２５に示した。「母親と一緒に」という回答が最も多く、「子供たちだけは少ない」という傾向は昨年度と同様の傾向である。ただし、「子供がいない」という回答が回答者の半分以上にまで増加しており、それ以外の項目の数値が全般的に低くなっているのが特徴的である。

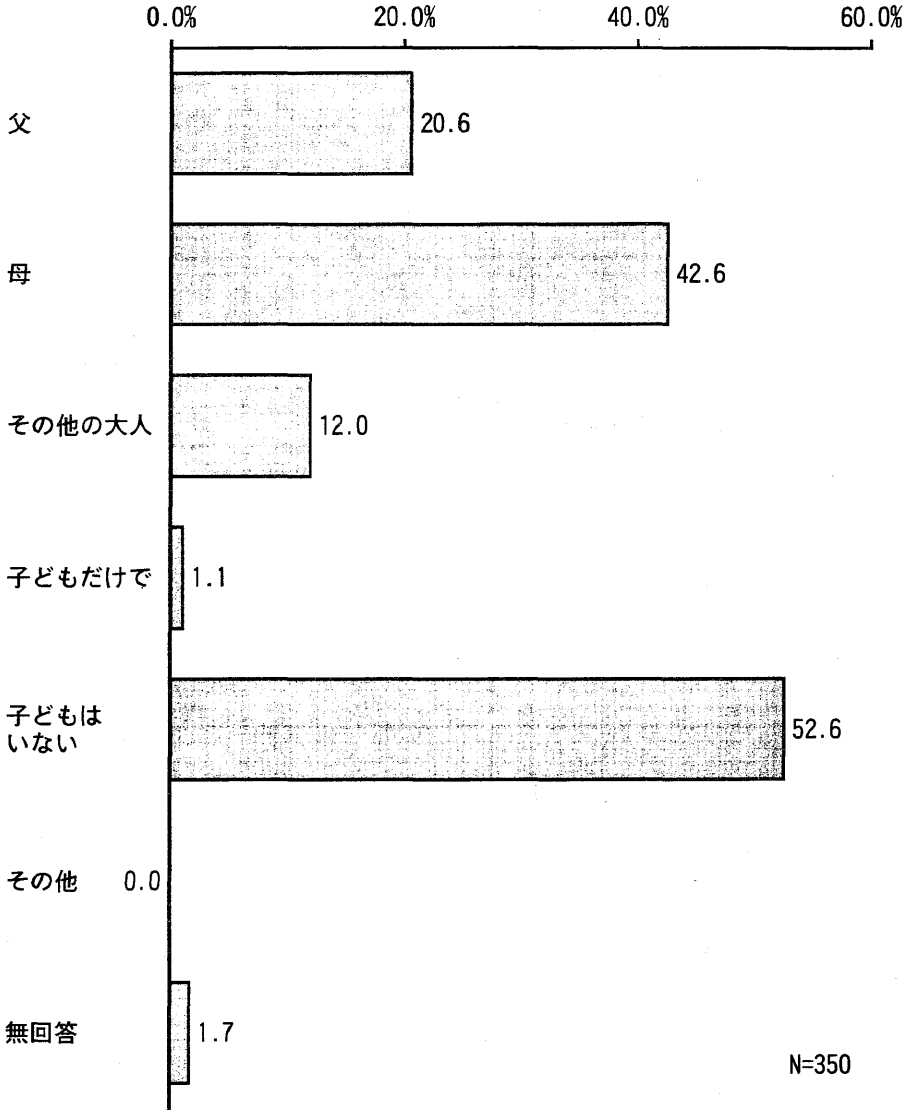


図２５．子どもたちが一緒に食事をすることが多い相手（全体）

表２５．子どもたちが一緒に食事をすることが多い相手

		総数	父	母	その他の大人	子どもだけで	子どもはいない	その他	無回答
《全体》		350	72	149	42	4	184	0	6
		100.0	20.6	42.6	12.0	1.1	52.6	0.0	1.7
《性別》	女性	295	67	137	37	3	145	0	5
		100.0	22.7	46.4	12.5	1.0	49.2	0.0	1.7
	男性	53	5	12	5	1	37	0	1
		100.0	9.4	22.6	9.4	1.9	69.8	0.0	1.9
	無回答	2	0	0	0	0	2	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
《年代別》	30代以下	88	34	76	16	2	7	0	1
		100.0	38.6	86.4	18.2	2.3	8.0	0.0	1.1
	40代	77	26	53	14	2	19	0	2
		100.0	33.8	68.8	18.2	2.6	24.7	0.0	2.6
	50代	73	6	8	2	0	65	0	0
		100.0	8.2	11.0	2.7	0.0	89.0	0.0	0.0
	60歳以上	103	6	12	10	0	86	0	1
		100.0	5.8	11.7	9.7	0.0	83.5	0.0	1.0
	無回答	9	0	0	0	0	7	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	0.0	22.2
《地区別》	下越	191	30	74	13	3	109	0	2
		100.0	15.7	38.7	6.8	1.6	57.1	0.0	1.0
	中越	118	35	62	23	1	50	0	3
		100.0	29.7	52.5	19.5	0.8	42.4	0.0	2.5
	上越	41	7	13	6	0	25	0	1
		100.0	17.1	31.7	14.6	0.0	61.0	0.0	2.4
《人口規模別》	10万人以上	205	49	103	24	3	97	0	1
		100.0	23.9	50.2	11.7	1.5	47.3	0.0	0.5
	10万人以下	145	23	46	18	1	87	0	5
		100.0	15.9	31.7	12.4	0.7	60.0	0.0	3.4

（上段＝実数／下段＝%）

B　学生
回答者の属性

F１：回答者の性別

人数	女性：578	男性：107
%	女性：84.4	男性：15.6

F２：回答者の年齢

人数	20歳未満：533	20歳以上：152
%	20歳未満：77.8	20歳以上：22.2

F３：在学している学校

人数	高等学校：261	短期大学：406	短大専攻科：18
%	高等学校：38.1	短期大学：59.3	短大専攻科：2.6

○内訳人数（685人）

・高等学校（261人）

西新発田高校：39　西越高校：40　分水高校：41　新井高校：37
沼垂高校：35　津川高校：69

・県立新潟女子短期大学（406人）

生活科学科

生活科学専攻１年：37　生活科学専攻２年：20
食物栄養専攻１年：39　食物栄養専攻２年：36
生活福祉専攻１年：48　生活福祉専攻２年：32

幼児教育学科１年：34　幼児教育学科２年：26
英文学科１年：82　英文学科２年：52

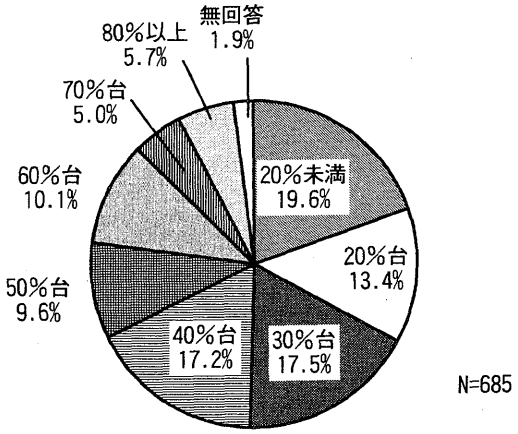
・県立新潟女子短期大学専攻科（18人）

食物栄養専攻１年：10　食物栄養専攻２年：8

お米に関する調査

ＱＢ１：現在の日本の食料自給率はエネルギー換算でどの程度と思いますか。

結果は図Ｂ１および表Ｂ１に示した。日本の食料自給率（エネルギー換算）は農林水産省「平成８年度食料需給表」によると42%であるので40%台というのが正解になる。昨年度の調査に比べ、食料自給率を正確に認識している者の割合は10%近く減少している。これは短大生の認識低下の割合がそのまま反映している値でもあるので正確な情報の普及に努めたい。



図Ｂ１．現在の日本の食料自給率（エネルギー換算）に対する認識

表Ｂ１．現在の日本の食料自給率（エネルギー換算）に対する認識

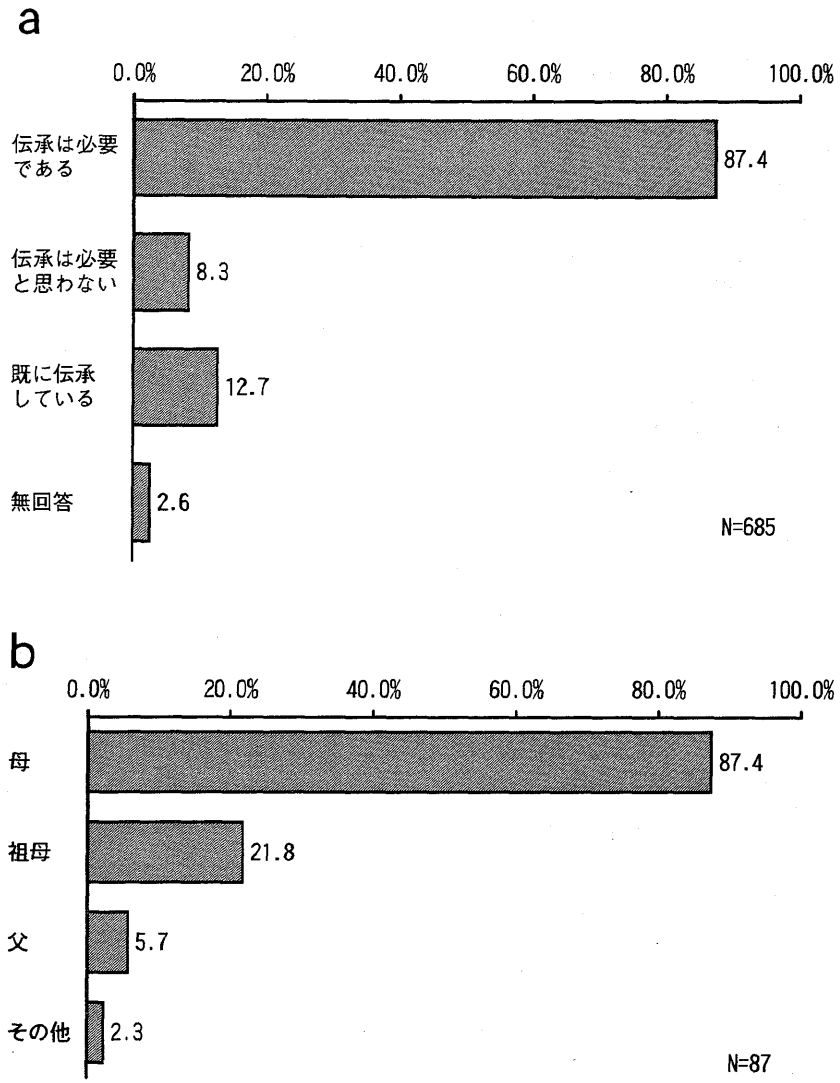
		総数	20%未	20%台	30%台	40%台	50%台	60%台	70%台	80%以	無回答
《全　体》		685	134	92	120	118	66	69	34	39	13
		100.0	19.6	13.4	17.5	17.2	9.6	10.1	5.0	5.7	1.9
《性　別》	女　性	578	121	84	109	97	54	52	20	29	12
		100.0	20.9	14.5	18.9	16.8	9.3	9.0	3.5	5.0	2.1
	男　性	107	13	8	11	21	12	17	14	10	1
		100.0	12.1	7.5	10.3	19.6	11.2	15.9	13.1	9.3	0.9
《年代別》	20歳未満	533	94	62	101	89	52	59	30	35	11
		100.0	17.6	11.6	18.9	16.7	9.8	11.1	5.6	6.6	2.1
	20歳以上	152	40	30	19	29	14	10	4	4	2
		100.0	26.3	19.7	12.5	19.1	9.2	6.6	2.6	2.6	1.3
高等学校全体		261	27	24	38	48	31	36	24	25	8
		100.0	10.3	9.2	14.6	18.4	11.9	13.8	9.2	9.6	3.1
短期大学全体		424	107	68	82	70	35	33	10	14	5
		100.0	25.2	16.0	19.3	16.5	8.3	7.8	2.4	3.3	1.2
《高校別》	西新発田高校	39	4	3	5	12	3	6	2	3	1
		100.0	10.3	7.7	12.8	30.8	7.7	15.4	5.1	7.7	2.6
	西越高校	40	0	3	2	7	12	3	5	4	4
		100.0	0.0	7.5	5.0	17.5	30.0	7.5	12.5	10.0	10.0
	分水高校	41	4	4	7	8	2	7	4	5	0
		100.0	9.8	9.8	17.1	19.5	4.9	17.1	9.8	12.2	0.0
	新井高校	37	13	6	3	4	0	2	3	5	1
		100.0	35.1	16.2	8.1	10.8	0.0	5.4	8.1	13.5	2.7
	沼垂高校	35.0	3	0	9	5	6	4	4	4	0
		100.0	8.6	0.0	25.7	14.3	17.1	11.4	11.4	11.4	0.0
	津川高校	69	3	8	12	12	8	14	6	4	2
		100.0	4.3	11.6	17.4	17.4	11.6	20.3	8.7	5.8	2.9
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	37	9	5	8	4	4	4	0	3	0
※ 短大		100.0	24.3	13.5	21.6	10.8	10.8	10.8	0.0	8.1	0.0
	生活科学専攻２年	20	9	4	0	4	2	0	1	0	0
		100.0	45.0	20.0	0.0	20.0	10.0	0.0	5.0	0.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	3	4	11	12	4	3	2	0	0
		100.0	7.7	10.3	28.2	30.8	10.3	7.7	5.1	0.0	0.0
	食物栄養専攻２年	36	8	6	6	7	2	5	1	1	0
		100.0	22.2	16.7	16.7	19.4	5.6	13.9	2.8	2.8	0.0
	生活福祉専攻１年	48	7	7	13	5	5	4	2	4	1
		100.0	14.6	14.6	27.1	10.4	10.4	8.3	4.2	8.3	2.1
	生活福祉専攻２年	32	14	6	5	5	1	0	0	1	0
		100.0	43.8	18.8	15.6	15.6	3.1	0.0	0.0	3.1	0.0
	幼児教育科１年	34	9	5	6	5	4	5	0	0	0
		100.0	26.5	14.7	17.6	14.7	11.8	14.7	0.0	0.0	0.0
	幼児教育科２年	26	5	2	7	6	2	2	1	0	1
		100.0	19.2	7.7	26.9	23.1	7.7	7.7	3.8	0.0	3.8
	英文学科１年	82	26	13	15	11	5	5	2	2	3
		100.0	31.7	15.9	18.3	13.4	6.1	6.1	2.4	2.4	3.7
	英文学科２年	52	16	10	8	7	5	3	1	2	0
		100.0	30.8	19.2	15.4	13.5	9.6	5.8	1.9	3.8	0.0
	専攻科１年	10	0	4	3	1	0	2	0	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	40.0	30.0	10.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	専攻科２年	8	1	2	0	3	1	0	0	1	0
	（食物栄養専攻）	100.0	12.5	25.0	0.0	37.5	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0

（上段＝実数／下段＝%）

ＱＢ７：家庭料理の伝承について。

結果を図Ｂ７ａおよび表Ｂ７に示した。全体として伝承の必要性を強く感じていることが認められ、その値は昨年度とほぼ同様である。高校生で、「伝承を必要とする」という回答は 77.0%で昨年度と大きくは変わらないが、短大生においてはかなり高率（93.9%）で伝承の必要性を挙げている。短大の学科間ではそれほど差はなかった。

既に家庭料理を伝承された場合、誰から伝承されたかを図Ｂ７ｂおよび表Ｂ７－ＳＱに示した。結果は昨年度とほぼ同様で、「母親から」という回答が最も多く、祖母、父親の比率もほとんど変わらなかった。



図Ｂ７．家庭料理の伝承について（全体）

ａ：伝承に対する考え，ｂ：伝承された相手

表Ｂ７．家庭料理の伝承について

		総数	伝承は必要である	伝承は必要と思わない	既に伝承している	無回答
《全　体》		685	599	57	87	18
		100.0	87.4	8.3	12.7	2.6
《性　別》	女　性	578	525	34	79	8
		100.0	90.8	5.9	13.7	1.4
	男　性	107	74	23	8	10
		100.0	69.2	21.5	7.5	9.3
《年代別》	20歳未満	533	453	54	66	18
		100.0	85.0	10.1	12.4	3.4
	20歳以上	152	146	3	21	0
		100.0	96.1	2.0	13.8	0.0
高等学校全体		261	201	40	29	16
		100.0	77.0	15.3	11.1	6.1
短期大学全体		424	398	17	58	2
		100.0	93.9	4.0	13.7	0.5
《高校別》	西新発田高校	39	23	7	3	9
		100.0	59.0	17.9	7.7	23.1
	西越高校	40	29	5	4	5
		100.0	72.5	12.5	10.0	12.5
	分水高校	41	32	6	10	1
		100.0	78.0	14.6	24.4	2.4
	新井高校	37	27	8	2	1
		100.0	73.0	21.6	5.4	2.7
	沼垂高校	35	31	3	5	0
		100.0	88.6	8.6	14.3	0.0
	津川高校	69	59	11	5	0
		100.0	85.5	15.9	7.2	0.0
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	37	33	4	6	0
※ 短大		100.0	89.2	10.8	16.2	0.0
	生活科学専攻２年	20	17	2	0	1
		100.0	85.0	10.0	0.0	5.0
	食物栄養専攻１年	39	38	1	5	0
		100.0	97.4	2.6	12.8	0.0
	食物栄養専攻２年	36	35	1	8	0
		100.0	97.2	2.8	22.2	0.0
	生活福祉専攻１年	48	45	2	2	1
		100.0	93.8	4.2	4.2	2.1
	生活福祉専攻２年	32	30	1	6	0
		100.0	93.8	3.1	18.8	0.0
	幼児教育科１年	34	34	0	4	0
		100.0	100.0	0.0	11.8	0.0
	幼児教育科２年	26	25	0	7	0
		100.0	96.2	0.0	26.9	0.0
	英文学科１年	82	74	5	9	0
		100.0	90.2	6.1	11.0	0.0
	英文学科２年	52	50	1	8	0
		100.0	96.2	1.9	15.4	0.0
	専攻科１年	10	9	0	1	0
	（食物栄養専攻）	100.0	90.0	0.0	10.0	0.0
	専攻科２年	8	8	0	2	0
	（食物栄養専攻）	100.0	100.0	0.0	25.0	0.0

（上段＝実数／下段＝％）

表B７－SQ. 家庭料理を伝承された相手

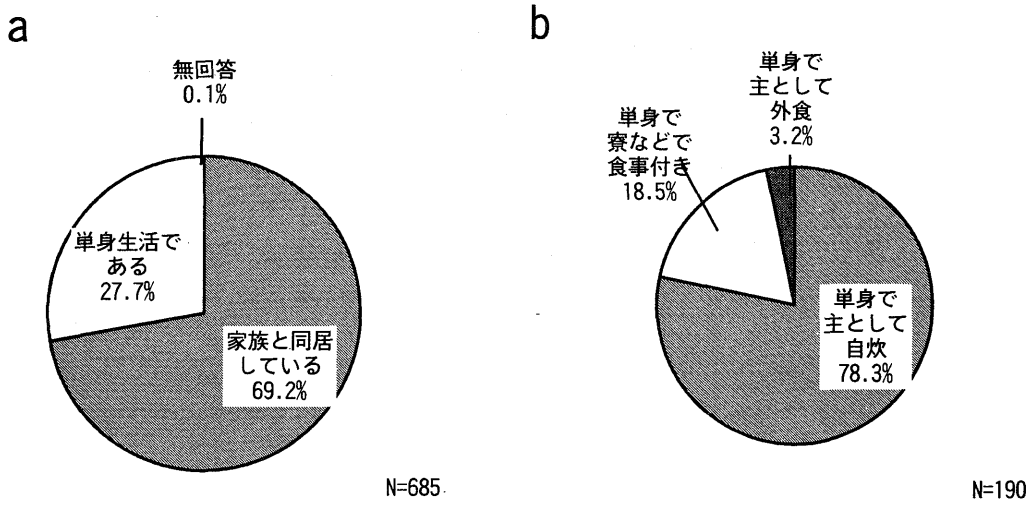
		総数	母	祖母	父	その他
《全　体》		87	76	19	5	2
		100.0	87.4	21.8	5.7	2.3
《性　別》	女　性	79	70	18	4	1
		100.0	88.6	22.8	5.1	1.3
	男　性	8	6	1	1	1
		100.0	75.0	12.5	12.5	12.5
《年代別》	20歳未満	66	56	11	4	2
		100.0	84.8	16.7	6.1	3.0
	20歳以上	21	20	8	1	0
		100.0	95.2	38.1	4.8	0.0
高等学校全体		29	24	5	2	1
		100.0	82.8	17.2	6.9	3.4
短期大学全体		58	52	14	3	1
		100.0	89.7	24.1	5.2	1.7
《高校別》	西新発田高校	3	3	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	西越高校	4	4	0	1	0
		100.0	100.0	0.0	25.0	0.0
	分水高校	10	9	1	0	0
		100.0	90.0	10.0	0.0	0.0
	新井高校	2	1	0	0	1
		100.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	沼垂高校	5	4	2	0	0
		100.0	80.0	40.0	0.0	0.0
	津川高校	5	3	2	1	0
		100.0	60.0	40.0	20.0	0.0
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	6	6	0	1	0
※ 短大		100.0	100.0	0.0	16.7	0.0
	生活科学専攻２年	0	0	0	0	0
		-	-	-	-	-
	食物栄養専攻１年	5	5	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	食物栄養専攻２年	8	7	2	0	0
		100.0	87.5	25.0	0.0	0.0
	生活福祉専攻１年	2	1	1	0	1
		100.0	50.0	50.0	0.0	50.0
	生活福祉専攻２年	6	6	1	1	0
		100.0	100.0	16.7	16.7	0.0
	幼児教育科１年	4	4	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	幼児教育科２年	7	6	4	0	0
		100.0	85.7	57.1	0.0	0.0
	英文学科１年	9	7	3	1	0
		100.0	77.8	33.3	11.1	0.0
	英文学科２年	8	7	2	0	0
		100.0	87.5	25.0	0.0	0.0
	専攻科１年	1	1	0	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	専攻科２年	2	2	1	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	100.0	50.0	0.0	0.0

（上段＝実数／下段＝％）

※ その他の内容
・祖父（男性・20歳未満・新井高校）
・伯母（女性・20歳未満・生活福祉専攻１年）

ＱＢ８：あなたの食生活についてお尋ねします。

結果は図Ｂ８および表Ｂ８、表Ｂ８－ＳＱに示した。高校生はほとんど（98.1%）が家族と同居しているが、短大生の 43.9%は単身生活である。単身者のうち「主として外食」という回答がわずか 3.2%しかないのは回答者のほとんどが女性であることが大きいと思われる。



図Ｂ８．回答者の食生活の現況（全体）

ａ：同居者の有無，ｂ：単身者の場合の主な食事形態

表Ｂ８．回答者の食生活の現況

		総数	家族と同居している	単身生活である	無回答
《全　体》		685	494	190	1
		100.0	72.1	27.7	0.1
《性　別》	女　性	578	391	187	0
		100.0	67.6	32.4	0.0
	男　性	107	103	3	1
		100.0	96.3	2.8	0.9
《年代別》	20歳未満	533	409	123	1
		100.0	76.7	23.1	0.2
	20歳以上	152	85	67	0
		100.0	55.9	44.1	0.0
高等学校全体		261	256	4	1
		100.0	98.1	1.5	0.4
短期大学全体		424	238	186	0
		100.0	56.1	43.9	0.0
《高校別》	西新発田高校	39	38	0	1
		100.0	97.4	0.0	2.6
	西越高校	40	39	1	0
		100.0	97.5	2.5	0.0
	分水高校	41	41	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0
	新井高校	37	35	2	0
		100.0	94.6	5.4	0.0
	沼垂高校	35	35	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0
	津川高校	69	68	1	0
		100.0	98.6	1.4	0.0
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	37	26	11	0
※ 短大		100.0	70.3	29.7	0.0
	生活科学専攻２年	20	7	13	0
		100.0	35.0	65.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	21	18	0
		100.0	53.8	46.2	0.0
	食物栄養専攻２年	36	16	20	0
		100.0	44.4	55.6	0.0
	生活福祉専攻１年	48	29	19	0
		100.0	60.4	39.6	0.0
	生活福祉専攻２年	32	25	7	0
		100.0	78.1	21.9	0.0
	幼児教育科１年	34	12	22	0
		100.0	35.3	64.7	0.0
	幼児教育科２年	26	15	11	0
		100.0	57.7	42.3	0.0
	英文学科１年	82	50	32	0
		100.0	61.0	39.0	0.0
	英文学科２年	52	32	20	0
		100.0	61.5	38.5	0.0
	専攻科１年	10	3	7	0
	（食物栄養専攻）	100.0	30.0	70.0	0.0
	専攻科２年	8	2	6	0
	（食物栄養専攻）	100.0	25.0	75.0	0.0

（上段＝実数／下段＝％）

表B8－SQ. 単身者の場合の主な食事形態

		総数	単身で主として自炊	単身で寮などで食事付き	単身で主として外食
《全　体》		190	149	35	6
		100.0	78.4	18.4	3.2
《性　別》	女　性	187	146	35	6
		100.0	78.1	18.7	3.2
	男　性	3	3	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0
《年代別》	20歳未満	123	93	25	5
		100.0	75.6	20.3	4.1
	20歳以上	67	56	10	1
		100.0	83.6	14.9	1.5
高等学校全体		4	3	0	1
		100.0	75.0	0.0	25.0
短期大学全体		186	146	35	5
		100.0	78.5	18.8	2.7
《高校別》	西新発田高校	0	0	0	0
		-	-	-	-
	西越高校	1	1	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0
	分水高校	0	0	0	0
		-	-	-	-
	新井高校	2	1	0	1
		100.0	50.0	0.0	50.0
	沼垂高校	0	0	0	0
		-	-	-	-
	津川高校	1	1	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	11	7	4	0
※ 短大		100.0	63.6	36.4	0.0
	生活科学専攻２年	13	11	1	1
		100.0	84.6	7.7	7.7
	食物栄養専攻１年	18	13	5	0
		100.0	72.2	27.8	0.0
	食物栄養専攻２年	20	17	2	1
		100.0	85.0	10.0	5.0
	生活福祉専攻１年	19	13	6	0
		100.0	68.4	31.6	0.0
	生活福祉専攻２年	7	6	1	0
		100.0	85.7	14.3	0.0
	幼児教育科１年	22	17	5	0
		100.0	77.3	22.7	0.0
	幼児教育科２年	11	10	1	0
		100.0	90.9	9.1	0.0
	英文学科１年	32	23	6	3
		100.0	71.9	18.8	9.4
	英文学科２年	20	17	3	0
		100.0	85.0	15.0	0.0
	専攻科１年	7	6	1	0
	（食物栄養専攻）	100.0	85.7	14.3	0.0
	専攻科２年	6	6	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	100.0	0.0	0.0

（上段＝実数／下段＝%）

ＡＢ　市民・学生共通

Ｑ１９＝ＱＢ２：輸入米についてどの点に関心がありますか。

市民の結果は図１９および表１９、学生の結果は図Ｂ２および表Ｂ２に示した。ウルグアイ・ラウンド合意に基づき米に関してもミニマム・アクセスが導入され2000年には精米ベースで84万トンが輸入されることになる。このような状況を目前にして、消費者の輸入米に対する意識は極めて注目される。結果として、消費者の輸入米に対する関心は安全性と味の２点（とりわけ安全性）に集約される。この傾向はどの年代の市民でも学生でも同様に見られ、特に20代、30代ではその７割の人が安全性を回答している。学生の場合、特に食物に関しての専門教育を受けているほど安全性を懸念する傾向が顕著に現れている。輸入米の安全性についての消費者の危惧はポスト・ハーヴェスト農薬等の問題がマスコミでクローズアップされたことなどがその要因と考えられるが、一方で、「日本の国内にあるコメで１番安全な米は何か？答えは輸入米だ。輸入米は８０件の厳密な安全基準を全てパスしたものしか関税を通らない。国産米は検査をしていないのだから判定の下しようがない。」（「米をめぐる情勢について」の概略、三菱商事アグリサービス農産部長　兵籐道弘；日本コメ市場第２３回取引会より）というような現実認識もある。現状では消費者が輸入米に対して拒否感を抱くとすればその安全性に対する危惧ということになるが、逆に言えばこの点がクリアされれば輸入米に対しての懸念は味だけということになる。

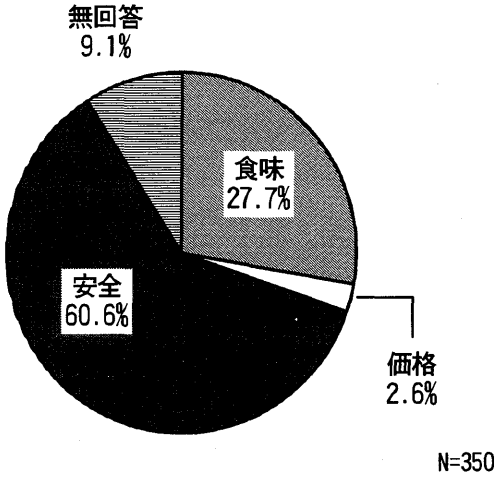
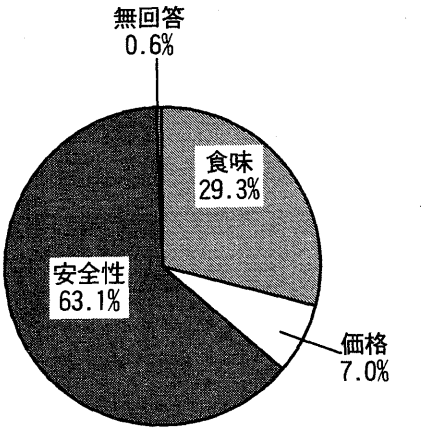


図１９．輸入米について最も関心のある点（市民・全体）

表１９．輸入米について最も関心のある点

		総数	食味	価格	安全	無回答
《全体》		350	97	9	212	32
		100.0	27.7	2.6	60.6	9.1
《性別》	女性	295	77	8	187	23
		100.0	26.1	2.7	63.4	7.8
	男性	53	20	1	25	7
		100.0	37.7	1.9	47.2	13.2
	無回答	2	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	18	3	61	6
		100.0	20.5	3.4	69.3	6.8
	40代	77	22	5	46	4
		100.0	28.6	6.5	59.7	5.2
	50代	73	24	0	48	1
		100.0	32.9	0.0	65.8	1.4
	60歳以上	103	33	1	56	13
		100.0	32.0	1.0	54.4	12.6
	無回答	9	0	0	1	8
		100.0	0.0	0.0	11.1	88.9
《地区別》	下越	191	50	2	121	18
		100.0	26.2	1.0	63.4	9.4
	中越	118	32	7	70	9
		100.0	27.1	5.9	59.3	7.6
	上越	41	15	0	21	5
		100.0	36.6	0.0	51.2	12.2
《人口規模別》	10万人以上	205	55	5	128	17
		100.0	26.8	2.4	62.4	8.3
	10万人以下	145	42	4	84	15
		100.0	29.0	2.8	57.9	10.3

（上段＝実数／下段＝％）



N=685

図Ｂ２．輸入米について最も関心のある点（学生・全体）

表Ｂ２.輸入米について最も関心のある点（学生）

		総数	食味	価格	安全性	無回答
《全　体》		685	201	48	432	4
		100.0	29.3	7.0	63.1	0.6
《性　別》	女　性	578	169	29	376	4
		100.0	29.2	5.0	65.1	0.7
	男　性	107	32	19	56	0
		100.0	29.9	17.8	52.3	0.0
《年代別》	20歳未満	533	162	43	324	4
		100.0	30.4	8.1	60.8	0.8
	20歳以上	152	39	5	108	0
		100.0	25.7	3.3	71.1	0.0
高等学校全体		261	83	30	145	3
		100.0	31.8	11.5	55.6	1.1
短期大学全体		424	118	18	287	1
		100.0	27.8	4.2	67.7	0.2
《高校別》	西新発田高校	39	15	1	23	0
		100.0	38.5	2.6	59.0	0.0
	西越高校	40	13	12	13	2
		100.0	32.5	30.0	32.5	5.0
	分水高校	41	15	5	21	0
		100.0	36.6	12.2	51.2	0.0
	新井高校	37	9	3	25	0
		100.0	24.3	8.1	67.6	0.0
	沼垂高校	35	12	0	22	1
		100.0	34.3	0.0	62.9	2.9
	津川高校	69	19	9	41	0
		100.0	27.5	13.0	59.4	0.0
《学科・学年別》 ※ 短大	生活科学専攻１年	37	8	1	28	0
		100.0	21.6	2.7	75.7	0.0
	生活科学専攻２年	20	5	3	12	0
		100.0	25.0	15.0	60.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	9	0	30	0
		100.0	23.1	0.0	76.9	0.0
	食物栄養専攻２年	36	8	1	27	0
		100.0	22.2	2.8	75.0	0.0
	生活福祉専攻１年	48	21	4	23	0
		100.0	43.8	8.3	47.9	0.0
	生活福祉専攻２年	32	3	0	29	0
		100.0	9.4	0.0	90.6	0.0
	幼児教育科１年	34	11	0	22	1
		100.0	32.4	0.0	64.7	2.9
	幼児教育科２年	26	7	1	18	0
		100.0	26.9	3.8	69.2	0.0
	英文学科１年	82	29	7	46	0
		100.0	35.4	8.5	56.1	0.0
	英文学科２年	52	16	1	35	0
		100.0	30.8	1.9	67.3	0.0
	専攻科１年	10	1	0	9	0
	（食物栄養専攻）	100.0	10.0	0.0	90.0	0.0
	専攻科２年	8	0	0	8	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0

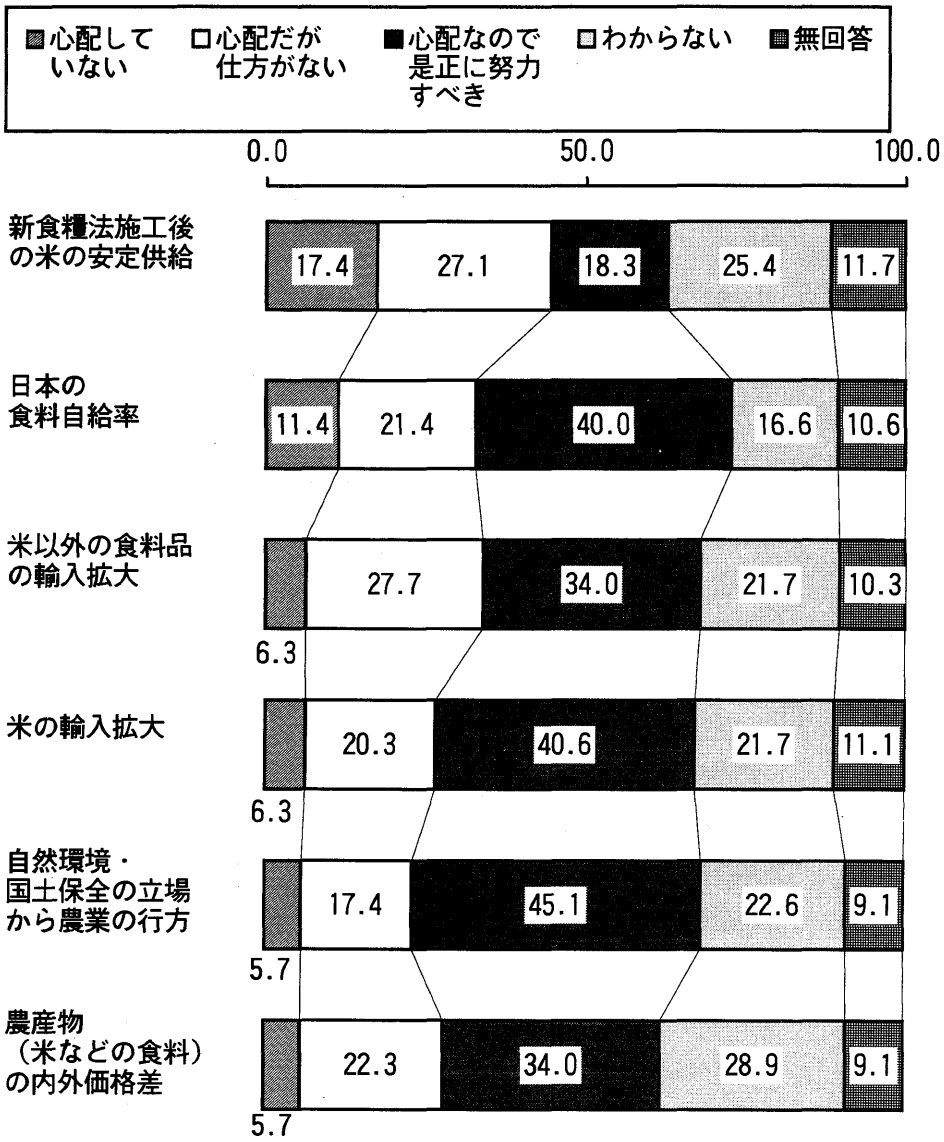
（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ２０＝ＱＢ３：現在の日本の農業および食料問題についての考え。

１．新食料法施行後の米の安定供給

市民の結果は図２０および表２０－１、学生の結果は図Ｂ３および表Ｂ３－１に示した。全体の結果では「仕方がない」、「是正に努力すべき」合わせて 45.4%の人が心配している。年代別にみると「心配していない」が高年齢者ほど多い。また、「わからない」という回答が全体で 25.4%、30 代、40 代で 35%、学生では全体の 54.7%になっているのは、新食料法施行により具体的に何がどのように変わったのかという点について、一般に情報が普及していないということを意味すると考えられる。

図２０．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（市民・全体）



図Ｂ３．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（学生・全体）

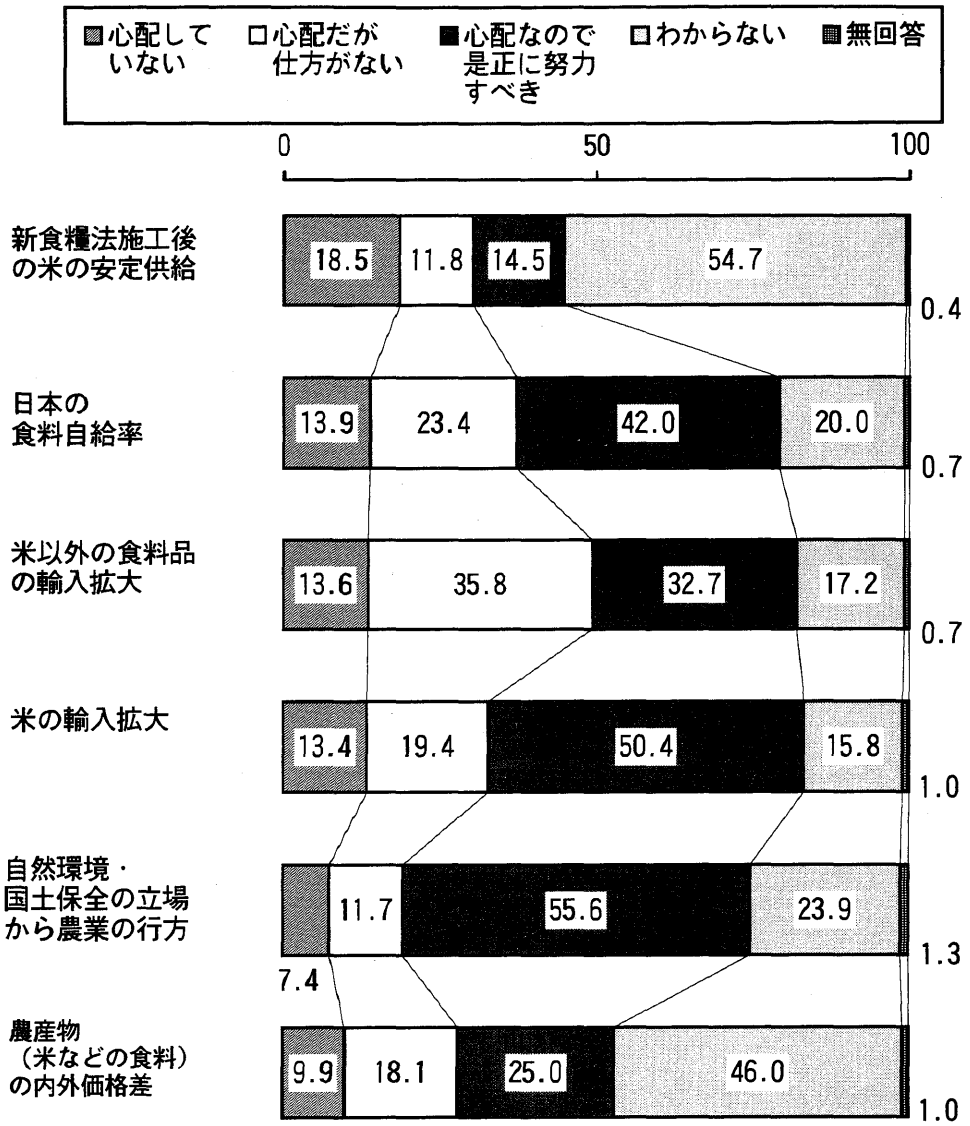


表２０－１．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（市民）：
新食糧法施行後の米の安定供給

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべき	わからない	無回答
《全体》		350	61	95	64	89	41
		100.0	17.4	27.1	18.3	25.4	11.7
《性別》	女性	295	44	80	57	83	31
		100.0	14.9	27.1	19.3	28.1	10.5
	男性	53	17	15	7	6	8
		100.0	32.1	28.3	13.2	11.3	15.1
	無回答	2	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	11	27	16	31	3
		100.0	12.5	30.7	18.2	35.2	3.4
	40代	77	12	24	12	27	2
		100.0	15.6	31.2	15.6	35.1	2.6
	50代	73	15	21	19	11	7
		100.0	20.5	28.8	26.0	15.1	9.6
	60歳以上	103	23	23	16	20	21
		100.0	22.3	22.3	15.5	19.4	20.4
	無回答	9	0	0	1	0	8
		100.0	0.0	0.0	11.1	0.0	88.9
《地区別》	下越	191	28	52	41	49	21
		100.0	14.7	27.2	21.5	25.7	11.0
	中越	118	22	36	18	30	12
		100.0	18.6	30.5	15.3	25.4	10.2
	上越	41	11	7	5	10	8
		100.0	26.8	17.1	12.2	24.4	19.5
《人口規模別》	10万人以上	205	23	59	42	63	18
		100.0	11.2	28.8	20.5	30.7	8.8
	10万人以下	145	38	36	22	26	23
		100.0	26.2	24.8	15.2	17.9	15.9

（上段＝実数／下段＝％）

表Ｂ３－１．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（学生）：
新食糧法施行後の米の安定供給

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべきだ	わからない	無回答
《全　体》		685	127	81	99	375	3
		100.0	18.5	11.8	14.5	54.7	0.4
《性　別》	女　性	578	97	63	90	326	2
		100.0	16.8	10.9	15.6	56.4	0.3
	男　性	107	30	18	9	49	1
		100.0	28.0	16.8	8.4	45.8	0.9
《年代別》	20歳未満	533	99	68	66	298	2
		100.0	18.6	12.8	12.4	55.9	0.4
	20歳以上	152	28	13	33	77	1
		100.0	18.4	8.6	21.7	50.7	0.7
高等学校全体		261	59	40	23	138	1
		100.0	22.6	15.3	8.8	52.9	0.4
短期大学全体		424	68	41	76	237	2
		100.0	16.0	9.7	17.9	55.9	0.5
《高校別》	西新発田高校	39	5	5	2	27	0
		100.0	12.8	12.8	5.1	69.2	0.0
	西越高校	40	9	9	7	14	1
		100.0	22.5	22.5	17.5	35.0	2.5
	分水高校	41	15	4	3	19	0
		100.0	36.6	9.8	7.3	46.3	0.0
	新井高校	37	5	9	2	21	0
		100.0	13.5	24.3	5.4	56.8	0.0
	沼垂高校	35	6	3	4	22	0
		100.0	17.1	8.6	11.4	62.9	0.0
	津川高校	69	19	10	5	35	0
		100.0	27.5	14.5	7.2	50.7	0.0
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	37	6	3	7	21	0
※ 短大		100.0	16.2	8.1	18.9	56.8	0.0
	生活科学専攻２年	20	3	3	6	7	1
		100.0	15.0	15.0	30.0	35.0	5.0
	食物栄養専攻１年	39	2	7	5	25	0
		100.0	5.1	17.9	12.8	64.1	0.0
	食物栄養専攻２年	36	10	4	6	16	0
		100.0	27.8	11.1	16.7	44.4	0.0
	生活福祉専攻１年	48	13	4	5	26	0
		100.0	27.1	8.3	10.4	54.2	0.0
	生活福祉専攻２年	32	3	1	10	18	0
		100.0	9.4	3.1	31.3	56.3	0.0
	幼児教育科１年	34	4	2	7	21	0
		100.0	11.8	5.9	20.6	61.8	0.0
	幼児教育科２年	26	2	5	6	12	1
		100.0	7.7	19.2	23.1	46.2	3.8
	幼児教育科１年	82	11	8	9	54	0
		100.0	13.4	9.8	11.0	65.9	0.0
	幼児教育科２年	52	8	1	12	31	0
		100.0	15.4	1.9	23.1	59.6	0.0
	専攻科１年	10	3	2	1	4	0
	（食物栄養専攻）	100.0	30.0	20.0	10.0	40.0	0.0
	専攻科２年	8	3	1	2	2	0
	（食物栄養専攻）	100.0	37.5	12.5	25.0	25.0	0.0

（上段＝実数／下段＝％）

２．日本の食料自給率

市民の結果は図２０および表２０－２、学生の結果は図Ｂ３および表Ｂ３－２に示した。市民・学生とも４割が「心配なので是正に努力すべき」と回答し、「心配だが仕方がない」も加えると６割以上の人が心配していることになる。高校生の回答は短大生よりも楽観的で「心配していない」という回答が多いのに対し、短大の食物栄養専攻ならびに専攻科の学生の９割以上が「心配している」と回答しており、食物に関する専門教育を受けているほど強い危機感を持つ傾向がある。

表２０－２．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（市民）：日本の食料自給率

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべき	わからない	無回答
《全体》		350	40	75	140	58	37
		100.0	11.4	21.4	40.0	16.6	10.6
《性別》	女性	295	27	68	117	55	28
		100.0	9.2	23.1	39.7	18.6	9.5
	男性	53	13	7	23	3	7
		100.0	24.5	13.2	43.4	5.7	13.2
	無回答	2	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	10	24	29	22	3
		100.0	11.4	27.3	33.0	25.0	3.4
	40代	77	9	18	34	13	3
		100.0	11.7	23.4	44.2	16.9	3.9
	50代	73	5	17	34	11	6
		100.0	6.8	23.3	46.6	15.1	8.2
	60歳以上	103	16	16	42	12	17
		100.0	15.5	15.5	40.8	11.7	16.5
	無回答	9	0	0	1	0	8
		100.0	0.0	0.0	11.1	0.0	88.9
《地区別》	下越	191	21	33	87	34	16
		100.0	11.0	17.3	45.5	17.8	8.4
	中越	118	12	33	42	18	13
		100.0	10.2	28.0	35.6	15.3	11.0
	上越	41	7	9	11	6	8
		100.0	17.1	22.0	26.8	14.6	19.5
《人口規模別》	10万人以上	205	20	44	90	37	14
		100.0	9.8	21.5	43.9	18.0	6.8
	10万人以下	145	20	31	50	21	23
		100.0	13.8	21.4	34.5	14.5	15.9

（上段＝実数／下段＝%）

表Ｂ３－２．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（学生）：
日本の食料自給率

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべきだ	わからない	無回答
《全　体》		685	95	160	288	137	5
		100.0	13.9	23.4	42.0	20.0	0.7
《性　別》	女　性	578	66	133	268	107	4
		100.0	11.4	23.0	46.4	18.5	0.7
	男　性	107	29	27	20	30	1
		100.0	27.1	25.2	18.7	28.0	0.9
《年代別》	20歳未満	533	86	120	203	122	2
		100.0	16.1	22.5	38.1	22.9	0.4
	20歳以上	152	9	40	85	15	3
		100.0	5.9	26.3	55.9	9.9	2.0
高等学校全体		261	59	60	61	79	2
		100.0	22.6	23.0	23.4	30.3	0.8
短期大学全体		424	36	100	227	58	3
		100.0	8.5	23.6	53.5	13.7	0.7
《高校別》	西新発田高校	39	10	5	10	14	0
		100.0	25.6	12.8	25.6	35.9	0.0
	西越高校	40	13	8	6	12	1
		100.0	32.5	20.0	15.0	30.0	2.5
	分水高校	41	13	12	11	4	1
		100.0	31.7	29.3	26.8	9.8	2.4
	新井高校	37	3	7	14	13	0
		100.0	8.1	18.9	37.8	35.1	0.0
	沼垂高校	35	7	7	4	17	0
		100.0	20.0	20.0	11.4	48.6	0.0
	津川高校	69	13	21	16	19	0
		100.0	18.8	30.4	23.2	27.5	0.0
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	37	4	5	22	6	0
※ 短大		100.0	10.8	13.5	59.5	16.2	0.0
	生活科学専攻２年	20	3	2	14	1	0
		100.0	15.0	10.0	70.0	5.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	2	12	24	1	0
		100.0	5.1	30.8	61.5	2.6	0.0
	食物栄養専攻２年	36	1	7	27	1	0
		100.0	2.8	19.4	75.0	2.8	0.0
	生活福祉専攻１年	48	7	7	22	11	1
		100.0	14.6	14.6	45.8	22.9	2.1
	生活福祉専攻２年	32	1	10	18	3	0
		100.0	3.1	31.3	56.3	9.4	0.0
	幼児教育科１年	34	1	15	15	3	0
		100.0	2.9	44.1	44.1	8.8	0.0
	幼児教育科２年	26	2	6	16	2	0
		100.0	7.7	23.1	61.5	7.7	0.0
	英文学科１年	82	13	19	31	19	0
		100.0	15.9	23.2	37.8	23.2	0.0
	英文学科２年	52	2	13	25	10	2
		100.0	3.8	25.0	48.1	19.2	3.8
	専攻科１年	10	0	3	7	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	30.0	70.0	0.0	0.0
	専攻科２年	8	0	1	6	1	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	12.5	75.0	12.5	0.0

（上段＝実数／下段＝%）

３．米以外の食料品の輸入拡大および

４．米の輸入拡大

市民の結果は図２０および表２０－３，４、学生の結果は図Ｂ３および表Ｂ３－３，４に示した。米、米以外の食料品いずれについても市民で６割、学生で７割の人が「心配だ」という回答を挙げている。ただ、「是正すべき」という意見は市民、学生とも米の輸入拡大に対して多く見られ、食料品の中でも米に対しての特別な意識が一般的に存在することは明白である。これらの設問に関しても、学生の場合、高校生は楽観的で、短大・専攻科の食物栄養専攻では高い危機感が持たれているという傾向は同様であった。

表２０－３．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（市民）：

米以外の食料品の輸入拡大

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべき	わからない	無回答
《全体》		350	22	97	119	76	36
		100.0	6.3	27.7	34.0	21.7	10.3
《性別》	女性	295	17	75	103	72	28
		100.0	5.8	25.4	34.9	24.4	9.5
	男性	53	5	22	16	4	6
		100.0	9.4	41.5	30.2	7.5	11.3
	無回答	2	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	5	21	33	27	2
		100.0	5.7	23.9	37.5	30.7	2.3
	40代	77	5	21	27	23	1
		100.0	6.5	27.3	35.1	29.9	1.3
	50代	73	4	25	26	12	6
		100.0	5.5	34.2	35.6	16.4	8.2
	60歳以上	103	8	29	33	14	19
		100.0	7.8	28.2	32.0	13.6	18.4
	無回答	9	0	1	0	0	8
		100.0	0.0	11.1	0.0	0.0	88.9
《地区別》	下越	191	11	56	65	44	15
		100.0	5.8	29.3	34.0	23.0	7.9
	中越	118	7	28	44	26	13
		100.0	5.9	23.7	37.3	22.0	11.0
	上越	41	4	13	10	6	8
		100.0	9.8	31.7	24.4	14.6	19.5
《人口規模別》	10万人以上	205	11	58	73	50	13
		100.0	5.4	28.3	35.6	24.4	6.3
	10万人以下	145	11	39	46	26	23
		100.0	7.6	26.9	31.7	17.9	15.9

（上段＝実数／下段＝%）

表Ｂ３－３．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（学生）：米以外の食料品の輸入拡大

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべきだ	わからない	無回答
《全　体》		685	93	245	224	118	5
		100.0	13.6	35.8	32.7	17.2	0.7
《性　別》	女　性	578	68	210	207	90	3
		100.0	11.8	36.3	35.8	15.6	0.5
	男　性	107	25	35	17	28	2
		100.0	23.4	32.7	15.9	26.2	1.9
《年代別》	20歳未満	533	86	181	159	104	3
		100.0	16.1	34.0	29.8	19.5	0.6
	20歳以上	152	7	64	65	14	2
		100.0	4.6	42.1	42.8	9.2	1.3
高等学校全体		261	49	80	61	68	3
		100.0	18.8	30.7	23.4	26.1	1.1
短期大学全体		424	44	165	163	50	2
		100.0	10.4	38.9	38.4	11.8	0.5
《高校別》	西新発田高校	39	6	13	6	13	1
		100.0	15.4	33.3	15.4	33.3	2.6
	西越高校	40	5	6	11	17	1
		100.0	12.5	15.0	27.5	42.5	2.5
	分水高校	41	11	16	13	1	0
		100.0	26.8	39.0	31.7	2.4	0.0
	新井高校	37	7	8	14	8	0
		100.0	18.9	21.6	37.8	21.6	0.0
	沼垂高校	35	7	9	6	13	0
		100.0	20.0	25.7	17.1	37.1	0.0
	津川高校	69	13	28	11	16	1
		100.0	18.8	40.6	15.9	23.2	1.4
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	37	4	19	10	4	0
※ 短大		100.0	10.8	51.4	27.0	10.8	0.0
	生活科学専攻２年	20	2	4	13	1	0
		100.0	10.0	20.0	65.0	5.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	2	13	22	2	0
		100.0	5.1	33.3	56.4	5.1	0.0
	食物栄養専攻２年	36	0	13	21	2	0
		100.0	0.0	36.1	58.3	5.6	0.0
	生活福祉専攻１年	48	11	13	14	10	0
		100.0	22.9	27.1	29.2	20.8	0.0
	生活福祉専攻２年	32	1	15	11	3	2
		100.0	3.1	46.9	34.4	9.4	6.3
	幼児教育科１年	34	3	16	13	2	0
		100.0	8.8	47.1	38.2	5.9	0.0
	幼児教育科２年	26	4	10	8	4	0
		100.0	15.4	38.5	30.8	15.4	0.0
	英文学科１年	82	13	32	22	15	0
		100.0	15.9	39.0	26.8	18.3	0.0
	英文学科２年	52	4	19	23	6	0
		100.0	7.7	36.5	44.2	11.5	0.0
	専攻科１年	10	0	7	2	1	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	70.0	20.0	10.0	0.0
	専攻科２年	8	0	4	4	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0

（上段＝実数／下段＝%）

表２０－４．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（市民）：

米の輸入拡大

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべき	わからない	無回答
《全体》		350	22	71	142	76	39
		100.0	6.3	20.3	40.6	21.7	11.1
《性別》	女性	295	15	57	120	71	32
		100.0	5.1	19.3	40.7	24.1	10.8
	男性	53	7	14	22	5	5
		100.0	13.2	26.4	41.5	9.4	9.4
	無回答	2	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	6	16	37	27	2
		100.0	6.8	18.2	42.0	30.7	2.3
	40代	77	8	13	33	22	1
		100.0	10.4	16.9	42.9	28.6	1.3
	50代	73	4	19	30	13	7
		100.0	5.5	26.0	41.1	17.8	9.6
	60歳以上	103	4	22	42	14	21
		100.0	3.9	21.4	40.8	13.6	20.4
	無回答	9	0	1	0	0	8
		100.0	0.0	11.1	0.0	0.0	88.9
《地区別》	下越	191	12	41	76	43	19
		100.0	6.3	21.5	39.8	22.5	9.9
	中越	118	6	25	51	24	12
		100.0	5.1	21.2	43.2	20.3	10.2
	上越	41	4	5	15	9	8
		100.0	9.8	12.2	36.6	22.0	19.5
《人口規模別》	10万人以上	205	13	36	89	52	15
		100.0	6.3	17.6	43.4	25.4	7.3
	10万人以下	145	9	35	53	24	24
		100.0	6.2	24.1	36.6	16.6	16.6

（上段＝実数／下段＝%）

表Ｂ３－４．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（学生）：米の輸入拡大

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべきだ	わからない	無回答
〈全　体〉		685	92	133	345	108	7
		100.0	13.4	19.4	50.4	15.8	1.0
〈性　別〉	女　性	578	66	108	311	89	4
		100.0	11.4	18.7	53.8	15.4	0.7
	男　性	107	26	25	34	19	3
		100.0	24.3	23.4	31.8	17.8	2.8
〈年代別〉	20歳未満	533	84	108	246	90	5
		100.0	15.8	20.3	46.2	16.9	0.9
	20歳以上	152	8	25	99	18	2
		100.0	5.3	16.4	65.1	11.8	1.3
高等学校全体		261	49	62	87	59	4
		100.0	18.8	23.8	33.3	22.6	1.5
短期大学全体		424	43	71	258	49	3
		100.0	10.1	16.7	60.8	11.6	0.7
〈高校別〉	西新発田高校	39	9	10	9	11	0
		100.0	23.1	25.6	23.1	28.2	0.0
	西蒲高校	40	7	7	14	11	1
		100.0	17.5	17.5	35.0	27.5	2.5
	分水高校	41	12	10	16	3	0
		100.0	29.3	24.4	39.0	7.3	0.0
	新井高校	37	2	5	19	10	1
		100.0	5.4	13.5	51.4	27.0	2.7
	沼垂高校	35	3	9	9	13	1
		100.0	8.6	25.7	25.7	37.1	2.9
	津川高校	69	16	21	20	11	1
		100.0	23.2	30.4	29.0	15.9	1.4
〈学科・学年別〉	生活科学専攻１年	37	6	5	23	3	0
※ 短大		100.0	16.2	13.5	62.2	8.1	0.0
	生活科学専攻２年	20	3	3	13	1	0
		100.0	15.0	15.0	65.0	5.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	0	8	27	4	0
		100.0	0.0	20.5	69.2	10.3	0.0
	食物栄養専攻２年	36	1	4	29	2	0
		100.0	2.8	11.1	80.6	5.6	0.0
	生活福祉専攻１年	48	10	5	25	8	0
		100.0	20.8	10.4	52.1	16.7	0.0
	生活福祉専攻２年	32	3	7	17	4	1
		100.0	9.4	21.9	53.1	12.5	3.1
	幼児教育科１年	34	6	6	20	2	0
		100.0	17.6	17.6	58.8	5.9	0.0
	幼児教育科２年	26	5	7	13	1	0
		100.0	19.2	26.9	50.0	3.8	0.0
	英文学科１年	82	8	17	45	11	1
		100.0	9.8	20.7	54.9	13.4	1.2
	英文学科２年	52	1	5	33	12	1
		100.0	1.9	9.6	63.5	23.1	1.9
	専攻科１年	10	0	3	6	1	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	30.0	60.0	10.0	0.0
	専攻科２年	8	0	1	7	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	12.5	87.5	0.0	0.0

（上段＝実数／下段＝%）

5．自然環境・国土保全の立場からの農業のゆくえ

市民の結果は図２０および表２０－５、学生の結果は図Ｂ３および表Ｂ３－５に示した。市民・学生とも特に「是正すべき」という回答の多かった項目である。特に短大生は７割近くがその回答を挙げている。ただし、この設問は複数の意味を読みとることのできる設問なので、回答者の一般的な環境問題に対する関心・問題意識の高さを示すものであると考えられる。

表２０－５．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（市民）：
自然環境・国土保全の立場から農業の行方

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべき	わからない	無回答
《全体》		350	20	61	158	79	32
		100.0	5.7	17.4	45.1	22.6	9.1
《性別》	女性	295	15	53	127	76	24
		100.0	5.1	18.0	43.1	25.8	8.1
	男性	53	5	8	31	3	6
		100.0	9.4	15.1	58.5	5.7	11.3
	無回答	2	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	5	15	35	31	2
		100.0	5.7	17.0	39.8	35.2	2.3
	40代	77	4	16	30	25	2
		100.0	5.2	20.8	39.0	32.5	2.6
	50代	73	4	11	39	14	5
		100.0	5.5	15.1	53.4	19.2	6.8
	60歳以上	103	7	19	53	9	15
		100.0	6.8	18.4	51.5	8.7	14.6
	無回答	9	0	0	1	0	8
		100.0	0.0	0.0	11.1	0.0	88.9
《地区別》	下越	191	14	28	94	40	15
		100.0	7.3	14.7	49.2	20.9	7.9
	中越	118	4	28	48	28	10
		100.0	3.4	23.7	40.7	23.7	8.5
	上越	41	2	5	16	11	7
		100.0	4.9	12.2	39.0	26.8	17.1
《人口規模別》	10万人以上	205	13	33	88	59	12
		100.0	6.3	16.1	42.9	28.8	5.9
	10万人以下	145	7	28	70	20	20
		100.0	4.8	19.3	48.3	13.8	13.8

（上段＝実数／下段＝%）

表Ｂ３－５．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（学生）：
自然環境・国土保全の立場から農業のゆくえ

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべきだ	わからない	無回答
〈全　体〉		685	51	80	381	164	9
		100.0	7.4	11.7	55.6	23.9	1.3
〈性　別〉	女　性	578	30	59	355	131	3
		100.0	5.2	10.2	61.4	22.7	0.5
	男　性	107	21	21	26	33	6
		100.0	19.6	19.6	24.3	30.8	5.6
〈年代別〉	20歳未満	533	48	62	277	138	8
		100.0	9.0	11.6	52.0	25.9	1.5
	20歳以上	152	3	18	104	26	1
		100.0	2.0	11.8	68.4	17.1	0.7
高等学校全体		261	34	42	94	84	7
		100.0	13.0	16.1	36.0	32.2	2.7
短期大学全体		424	17	38	287	80	2
		100.0	4.0	9.0	67.7	18.9	0.5
〈高校別〉	西新発田高校	39	5	4	14	15	1
		100.0	12.8	10.3	35.9	38.5	2.6
	西越高校	40	9	6	10	14	1
		100.0	22.5	15.0	25.0	35.0	2.5
	分水高校	41	7	7	21	6	0
		100.0	17.1	17.1	51.2	14.6	0.0
	新井高校	37	1	6	16	11	3
		100.0	2.7	16.2	43.2	29.7	8.1
	沼垂高校	35	4	4	13	14	0
		100.0	11.4	11.4	37.1	40.0	0.0
	津川高校	69	8	15	20	24	2
		100.0	11.6	21.7	29.0	34.8	2.9
〈学科・学年別〉	生活科学専攻１年	37	2	5	24	6	0
※ 短大		100.0	5.4	13.5	64.9	16.2	0.0
	生活科学専攻２年	20	5	1	12	2	0
		100.0	25.0	5.0	60.0	10.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	0	5	28	5	1
		100.0	0.0	12.8	71.8	12.8	2.6
	食物栄養専攻２年	36	0	1	29	6	0
		100.0	0.0	2.8	80.6	16.7	0.0
	生活福祉専攻１年	48	3	5	27	13	0
		100.0	6.3	10.4	56.3	27.1	0.0
	生活福祉専攻２年	32	0	1	21	9	1
		100.0	0.0	3.1	65.6	28.1	3.1
	幼児教育科１年	34	1	2	22	9	0
		100.0	2.9	5.9	64.7	26.5	0.0
	幼児教育科２年	26	1	3	18	4	0
		100.0	3.8	11.5	69.2	15.4	0.0
	英文学科１年	82	5	6	54	17	0
		100.0	6.1	7.3	65.9	20.7	0.0
	英文学科２年	52	0	5	40	7	0
		100.0	0.0	9.6	76.9	13.5	0.0
	専攻科１年	10	0	3	6	1	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	30.0	60.0	10.0	0.0
	専攻科２年	8	0	1	6	1	0
	（食物栄養専攻）	100.0	0.0	12.5	75.0	12.5	0.0

（上段＝実数／下段＝%）

6．農産物の内外価格差

市民の結果は図２０および表２０－６、学生の結果は図Ｂ３および表Ｂ３－６に示した。この設問は１についで「わからない」という回答が多く、特に学生では半数近くに上っている。反面、「心配していない」という回答が少ない点が特徴的で、この問題に関心を持っている人にとっては憂慮すべき問題、ということになるであろう。

表２０－６．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（市民）：
農産物（米などの食料）の内外価格差

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべき	わからない	無回答
《全体》		350	20	78	119	101	32
		100.0	5.7	22.3	34.0	28.9	9.1
《性別》	女性	295	15	67	92	96	25
		100.0	5.1	22.7	31.2	32.5	8.5
	男性	53	5	11	27	5	5
		100.0	9.4	20.8	50.9	9.4	9.4
	無回答	2	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	7	16	30	33	2
		100.0	8.0	18.2	34.1	37.5	2.3
	40代	77	7	20	24	25	1
		100.0	9.1	26.0	31.2	32.5	1.3
	50代	73	2	19	26	21	5
		100.0	2.7	26.0	35.6	28.8	6.8
	60歳以上	103	4	23	38	22	16
		100.0	3.9	22.3	36.9	21.4	15.5
	無回答	9	0	0	1	0	8
		100.0	0.0	0.0	11.1	0.0	88.9
《地区別》	下越	191	9	40	65	61	16
		100.0	4.7	20.9	34.0	31.9	8.4
	中越	118	6	30	42	31	9
		100.0	5.1	25.4	35.6	26.3	7.6
	上越	41	5	8	12	9	7
		100.0	12.2	19.5	29.3	22.0	17.1
《人口規模別》	10万人以上	205	10	44	71	67	13
		100.0	4.9	21.5	34.6	32.7	6.3
	10万人以下	145	10	34	48	34	19
		100.0	6.9	23.4	33.1	23.4	13.1

（上段＝実数／下段＝%）

表Ｂ３－６．現在の日本の農業及び食料問題についての考え（学生）：
農産物（米などの食料）の内外価格差の是正

		総数	心配していない	心配だが仕方がない	心配なので是正に努力すべきだ	わからない	無回答
（全　体）		685	68	124	171	315	7
		100.0	9.9	18.1	25.0	46.0	1.0
（性　別）	女　性	578	45	105	152	274	2
		100.0	7.8	18.2	26.3	47.4	0.3
	男　性	107	23	19	19	41	5
		100.0	21.5	17.8	17.8	38.3	4.7
（年代別）	20歳未満	533	62	84	133	248	6
		100.0	11.6	15.8	25.0	46.5	1.1
	20歳以上	152	6	40	38	67	1
		100.0	3.9	26.3	25.0	44.1	0.7
高等学校全体		261	46	42	47	120	6
		100.0	17.6	16.1	18.0	46.0	2.3
短期大学全体		424	22	82	124	195	1
		100.0	5.2	19.3	29.2	46.0	0.2
（高校別）	西新発田高校	39	7	5	5	21	1
		100.0	17.9	12.8	12.8	53.8	2.6
	西蒲高校	40	6	4	10	18	2
		100.0	15.0	10.0	25.0	45.0	5.0
	分水高校	41	11	9	7	14	0
		100.0	26.8	22.0	17.1	34.1	0.0
	新井高校	37	3	4	5	22	3
		100.0	8.1	10.8	13.5	59.5	8.1
	沼垂高校	35	6	5	6	18	0
		100.0	17.1	14.3	17.1	51.4	0.0
	津川高校	69	13	15	14	27	0
		100.0	18.8	21.7	20.3	39.1	0.0
（学科・学年別）※ 短大	生活科学専攻１年	37	1	6	10	20	0
		100.0	2.7	16.2	27.0	54.1	0.0
	生活科学専攻２年	20	2	3	9	6	0
		100.0	10.0	15.0	45.0	30.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	0	12	10	17	0
		100.0	0.0	30.8	25.6	43.6	0.0
	食物栄養専攻２年	36	2	9	11	14	0
		100.0	5.6	25.0	30.6	38.9	0.0
	生活福祉専攻１年	48	5	5	11	27	0
		100.0	10.4	10.4	22.9	56.3	0.0
	生活福祉専攻２年	32	2	3	9	17	1
		100.0	6.3	9.4	28.1	53.1	3.1
	幼児教育科１年	34	0	3	12	19	0
		100.0	0.0	8.8	35.3	55.9	0.0
	幼児教育科２年	26	2	8	9	7	0
		100.0	7.7	30.8	34.6	26.9	0.0
	英文学科１年	82	6	14	25	37	0
		100.0	7.3	17.1	30.5	45.1	0.0
	英文学科２年	52	2	14	14	22	0
		100.0	3.8	26.9	26.9	42.3	0.0
	専攻科１年（食物栄養専攻）	10	0	2	2	6	0
		100.0	0.0	20.0	20.0	60.0	0.0
	専攻科２年（食物栄養専攻）	8	0	3	2	3	0
		100.0	0.0	37.5	25.0	37.5	0.0

（上段＝実数／下段＝％）

Ｑ２０＝ＱＢ３について総じて見ると、現在の日本の農業および食料問題について概して、一般市民では若年層、学生では高校生の関心が低く、問題に対して楽観的である。反面、食物栄養に関しての専門教育を受けている学生ほど関心度が高く、問題に対して極めて高い危機感を持っていることが示された。現在の日本の農業・食料事情が憂慮すべき問

題を数多く抱えていることは明白であり、この事実に対しての正しい認識のための教育・啓蒙活動の重要性があらためて認められる結果といえる。

Ｑ２１＝ＱＢ４：今後、日本人の食生活のうち、主食のあるべき姿についてどうお考えですか。

市民の結果は図２１および表２１、学生の結果は図Ｂ４および表Ｂ４に示した。

市民・学生とも主食は「米中心」と「米・パン・麺など多様なもの」と２つの意見がほぼ同数で拮抗する結果となり、「米以外のものを中心」という回答はほとんどなかった。 結果を年代別に見てみると４０代の市民でのみ「米・パン・麺など多様なもの」が上回る結果が得られた他は全て「米中心」が上回っていた。注目すべきは高校生・短大生においても「米中心」が優位を占め、短大・専攻科の食物栄養専攻でとくに高い割合を占めていることであろう。多様な食品が食卓にのぼる今日の食の状況において、このように高い「米中心」指向が見られることは、嗜好や栄養学的な考慮によるものというより、日本人の米という特殊な食品に対する潜在的な心理的要因が係わっていると推察される。このような、特に若年層にも強く認められる潜在的な米中心指向に何らかの形で働きかけることが米消費の拡大を考える上で大きな可能性を持つものと考えられる。

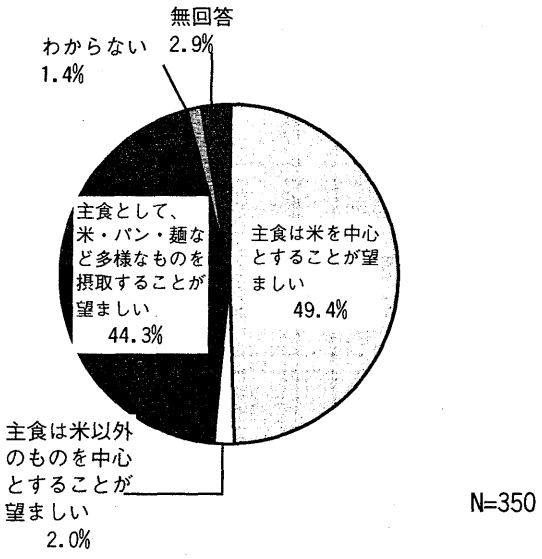
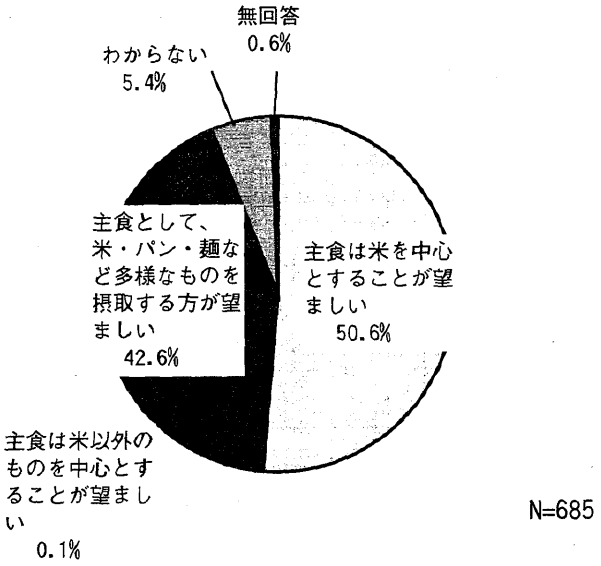


図２１．今後の日本人の主食についての考え（市民・全体）

表２１．今後の日本人の主食についての考え（市民）

		総数	主食は米を中心とすることが望ましい	主食は米以外のものを中心とすることが望ましい	主食として、米・パン・麺など多様なものを摂取することが望ましい	わからない	無回答
《全体》		350	173	7	155	5	10
		100.0	49.4	2.0	44.3	1.4	2.9
《性別》	女性	295	148	7	131	4	5
		100.0	50.2	2.4	44.4	1.4	1.7
	男性	53	25	0	24	1	3
		100.0	47.2	0.0	45.3	1.9	5.7
	無回答	2	0	0	0	0	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
《年代別》	30代以下	88	41	5	41	1	0
		100.0	46.6	5.7	46.6	1.1	0.0
	40代	77	32	0	42	3	0
		100.0	41.6	0.0	54.5	3.9	0.0
	50代	73	41	0	30	1	1
		100.0	56.2	0.0	41.1	1.4	1.4
	60歳以上	103	59	2	41	0	1
		100.0	57.3	1.9	39.8	0.0	1.0
	無回答	9	0	0	1	0	8
		100.0	0.0	0.0	11.1	0.0	88.9
《地区別》	下越	191	98	1	84	3	5
		100.0	51.3	0.5	44.0	1.6	2.6
	中越	118	57	5	53	1	2
		100.0	48.3	4.2	44.9	0.8	1.7
	上越	41	18	1	18	1	3
		100.0	43.9	2.4	43.9	2.4	7.3
《人口規模別》	10万人以上	205	99	5	96	2	3
		100.0	48.3	2.4	46.8	1.0	1.5
	10万人以下	145	74	2	59	3	7
		100.0	51.0	1.4	40.7	2.1	4.8

（上段＝実数／下段＝%）



図Ｂ４．今後の日本人の主食についての考え（学生・全体）

表Ｂ４．今後の日本人の主食についての考え（学生）

		総数	主食は米を中心とすることが望ましい	主食は米以外のものを中心とすることが望ましい	主食として、米・パン・麺など多様なものを摂取する方が望ましい	わからない	無回答
《全　体》		685	351	1	292	37	4
		100.0	51.2	0.1	42.6	5.4	0.6
《性　別》	女　性	578	305	1	238	32	2
		100.0	52.8	0.2	41.2	5.5	0.3
	男　性	107	46	0	54	5	2
		100.0	43.0	0.0	50.5	4.7	1.9
《年代別》	20歳未満	533	263	0	233	34	3
		100.0	49.3	0.0	43.7	6.4	0.6
	20歳以上	152	88	1	59	3	1
		100.0	57.9	0.7	38.8	2.0	0.7
高等学校全体		261	123	0	118	18	2
		100.0	47.1	0.0	45.2	6.9	0.8
短期大学全体		424	228	1	174	19	2
		100.0	53.8	0.2	41.0	4.5	0.5
《高校別》	西新発田高校	39	20	0	14	4	1
		100.0	51.3	0.0	35.9	10.3	2.6
	西蒲高校	40	16	0	20	3	1
		100.0	40.0	0.0	50.0	7.5	2.5
	分水高校	41	24	0	14	3	0
		100.0	58.5	0.0	34.1	7.3	0.0
	新井高校	37	7	0	28	2	0
		100.0	18.9	0.0	75.7	5.4	0.0
	沼垂高校	35	17	0	17	1	0
		100.0	48.6	0.0	48.6	2.9	0.0
	津川高校	69	39	0	25	5	0
		100.0	56.5	0.0	36.2	7.2	0.0
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	37	19	0	16	1	1
※ 短大		100.0	51.4	0.0	43.2	2.7	2.7
	生活科学専攻２年	20	12	1	6	1	0
		100.0	60.0	5.0	30.0	5.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	31	0	6	2	0
		100.0	79.5	0.0	15.4	5.1	0.0
	食物栄養専攻２年	36	25	0	9	1	1
		100.0	69.4	0.0	25.0	2.8	2.8
	生活福祉専攻１年	48	17	0	28	3	0
		100.0	35.4	0.0	58.3	6.3	0.0
	生活福祉専攻２年	32	17	0	14	1	0
		100.0	53.1	0.0	43.8	3.1	0.0
	幼児教育科１年	34	22	0	10	2	0
		100.0	64.7	0.0	29.4	5.9	0.0
	幼児教育科２年	26	9	0	15	2	0
		100.0	34.6	0.0	57.7	7.7	0.0
	英文学科１年	82	37	0	40	5	0
		100.0	45.1	0.0	48.8	6.1	0.0
	英文学科２年	52	26	0	25	1	0
		100.0	50.0	0.0	48.1	1.9	0.0
	専攻科１年	10	8	0	2	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	専攻科２年	8	5	0	3	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	62.5	0.0	37.5	0.0	0.0

（上段＝実数／下段＝%）

Ｑ２２＝ＱＢ５：朝食は主に何ですか。

市民の結果は図２２および表２２、学生の結果は図Ｂ５および表Ｂ５に示した。市民・学生とも朝食は米食というのが大勢であり、その割合は市民・若年層、学生で約６割、市民・成人で約７割で昨年度とほぼ同じである。米食に次ぐのはパン食であり、これは成人若年層に最も多いが（41.2%）、高校生ではむしろ米食の割合が高くなっている。このことは、実際に誰が朝食の支度をするかということに依存して、それが中高齢者の場合米食になる傾向があるということを意味するのものと推察される。また、麺という回答はほとんど見られない。

なお、「食べない」という回答が、学生のうち高校生で 11.9%、短大生で 5.2%と昨年度（高校生：6.6%、短大生：3.1%）よりも増加傾向にあることは注意すべきであろう。

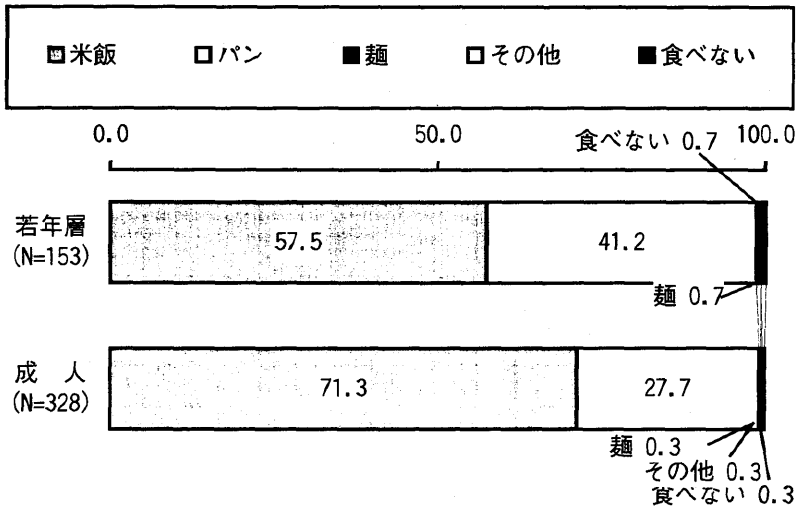
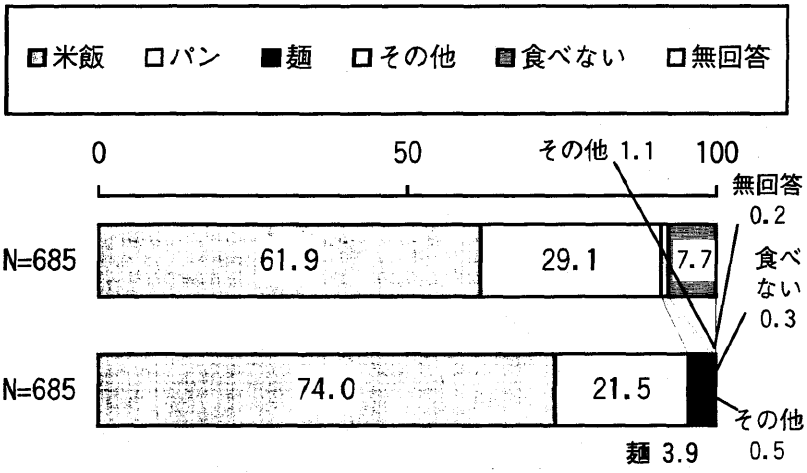


図２２．家族の朝食における主食（市民・全体）



図Ｂ５．朝食（上段）および昼食（下段）における主食（学生）

表２２．家族の朝食における主食（市民）

（若年層）

		総数	米飯	パン	麺	その他	食べない
《全体》		153	88	63	1	0	1
		100.0	57.5	41.2	0.7	0.0	0.7
《性別》	女性	139	78	61	0	0	0
		100.0	56.1	43.9	0.0	0.0	0.0
	男性	14	10	2	1	0	1
		100.0	71.4	14.3	7.1	0.0	7.1
	無回答	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—
《年代別》	30代以下	73	35	37	1	0	0
		100.0	47.9	50.7	1.4	0.0	0.0
	40代	57	38	18	0	0	1
		100.0	66.7	31.6	0.0	0.0	1.8
	50代	8	6	2	0	0	0
		100.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	60歳以上	15	9	6	0	0	0
		100.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—
《地区別》	下越	75	49	25	1	0	0
		100.0	65.3	33.3	1.3	0.0	0.0
	中越	62	28	33	0	0	1
		100.0	45.2	53.2	0.0	0.0	1.6
	上越	16	11	5	0	0	0
		100.0	68.8	31.3	0.0	0.0	0.0
《人口規模別》	10万人以上	102	58	44	0	0	0
		100.0	56.9	43.1	0.0	0.0	0.0
	10万人以下	51	30	19	1	0	1
		100.0	58.8	37.3	2.0	0.0	2.0

（上段＝実数／下段＝%）

※若年層（20 歳～）家族のいない家庭、無回答は比率算出母数から除いた。

（成人）

		総数	米飯	パン	麺	その他	食べない
《全体》		328	234	91	1	1	1
		100.0	71.3	27.7	0.3	0.3	0.3
《性別》	女性	278	196	81	1	0	0
		100.0	70.5	29.1	0.4	0.0	0.0
	男性	50	38	10	0	1	1
		100.0	76.0	20.0	0.0	2.0	2.0
	無回答	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—
《年代別》	30代以下	87	54	33	0	0	0
		100.0	62.1	37.9	0.0	0.0	0.0
	40代	74	50	23	1	0	0
		100.0	67.6	31.1	1.4	0.0	0.0
	50代	67	52	15	0	0	0
		100.0	77.6	22.4	0.0	0.0	0.0
	60歳以上	99	78	19	0	1	1
		100.0	78.8	19.2	0.0	1.0	1.0
	無回答	1	0	1	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	177	128	49	0	0	0
		100.0	72.3	27.7	0.0	0.0	0.0
	中越	113	79	33	0	0	1
		100.0	69.9	29.2	0.0	0.0	0.9
	上越	38	27	9	1	1	0
		100.0	71.1	23.7	2.6	2.6	0.0
《人口規模別》	10万人以上	192	128	63	0	1	0
		100.0	66.7	32.8	0.0	0.5	0.0
	10万人以下	136	106	28	1	0	1
		100.0	77.9	20.6	0.7	0.0	0.7

（上段＝実数／下段＝%）

※無回答は比率算出母数から除いた。

表Ｂ５．朝食における主食（学生）

		総数	米飯	パン	麺	その他	食べない	無回答
《全　体》		685	424	199	0	8	53	1
		100.0	61.9	29.1	0.0	1.2	7.7	0.1
《性　別》	女　性	578	352	181	0	6	38	1
		100.0	60.9	31.3	0.0	1.0	6.6	0.2
	男　性	107	72	18	0	2	15	0
		100.0	67.3	16.8	0.0	1.9	14.0	0.0
《年代別》	20歳未満	533	341	142	0	7	43	0
		100.0	64.0	26.6	0.0	1.3	8.1	0.0
	20歳以上	152	83	57	0	1	10	1
		100.0	54.6	37.5	0.0	0.7	6.6	0.7
高等学校全体		261	167	60	0	3	31	0
		100.0	64.0	23.0	0.0	1.1	11.9	0.0
短期大学全体		424	257	139	0	5	22	1
		100.0	60.6	32.8	0.0	1.2	5.2	0.2
《高校別》	西新発田高校	39	29	6	0	1	3	0
		100.0	74.4	15.4	0.0	2.6	7.7	0.0
	西越高校	40	23	8	0	0	9	0
		100.0	57.5	20.0	0.0	0.0	22.5	0.0
	分水高校	41	32	7	0	0	2	0
		100.0	78.0	17.1	0.0	0.0	4.9	0.0
	新井高校	37	28	7	0	0	2	0
		100.0	75.7	18.9	0.0	0.0	5.4	0.0
	沼垂高校	35	14	14	0	1	6	0
		100.0	40.0	40.0	0.0	2.9	17.1	0.0
	津川高校	69	41	18	0	1	9	0
		100.0	59.4	26.1	0.0	1.4	13.0	0.0
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	37	26	9	0	0	2	0
※ 短大		100.0	70.3	24.3	0.0	0.0	5.4	0.0
	生活科学専攻２年	20	13	6	0	0	1	0
		100.0	65.0	30.0	0.0	0.0	5.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	25	11	0	2	1	0
		100.0	64.1	28.2	0.0	5.1	2.6	0.0
	食物栄養専攻２年	36	26	9	0	0	0	1
		100.0	72.2	25.0	0.0	0.0	0.0	2.8
	生活福祉専攻１年	48	35	13	0	0	0	0
		100.0	72.9	27.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活福祉専攻２年	32	14	17	0	1	0	0
		100.0	43.8	53.1	0.0	3.1	0.0	0.0
	幼児教育科１年	34	25	7	0	0	2	0
		100.0	73.5	20.6	0.0	0.0	5.9	0.0
	幼児教育科２年	26	13	11	0	0	2	0
		100.0	50.0	42.3	0.0	0.0	7.7	0.0
	英文学科１年	82	52	24	0	2	4	0
		100.0	63.4	29.3	0.0	2.4	4.9	0.0
	英文学科２年	52	22	23	0	0	7	0
		100.0	42.3	44.2	0.0	0.0	13.5	0.0
	専攻科１年	10	2	5	0	0	3	0
	（食物栄養専攻）	100.0	20.0	50.0	0.0	0.0	30.0	0.0
	専攻科２年	8	4	4	0	0	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（上段＝実数／下段＝％）

Ｑ２３＝ＱＢ６：昼食は主になんですか。

市民の結果は図２３および表２３、学生の結果は図Ｂ５および表Ｂ６に示した。

昨年度の結果と比較すると、市民成人で米飯がやや減少し、麺が増加したこと以外はほぼ同様である。学生の結果で、高校生で米飯が多いことは、高校生の昼食は弁当が主であること、また、短大生のパン食が昨年度より大幅に増加していることは、県立新潟女子短大生協の店舗が開設したことがそれぞれ関連していると考えられ、嗜好というよりも外的要因によるものと言えよう。

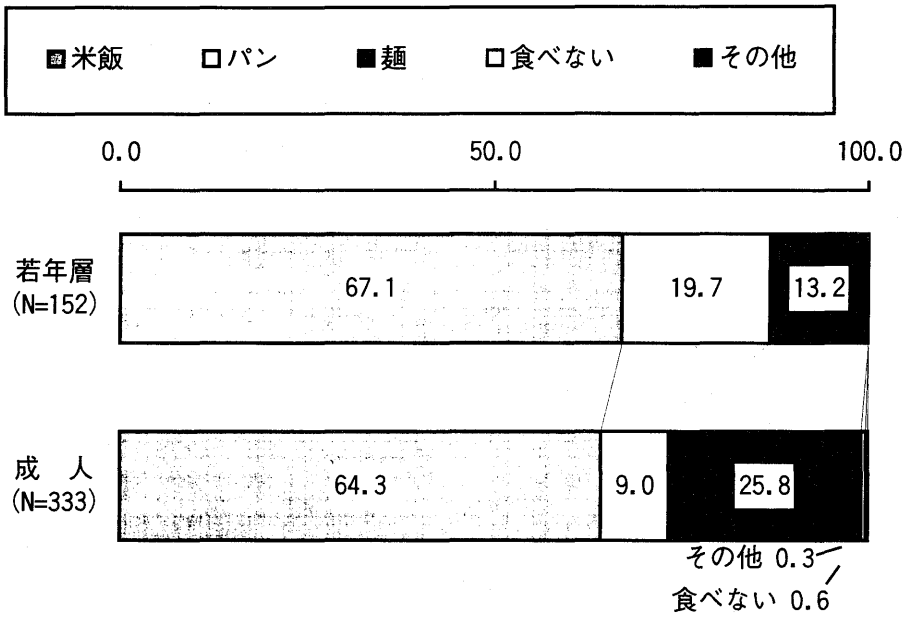


図２３．家族の昼食における主食（市民・全体）

表２３．家族の昼食における主食（市民）

（若年層）

		総数	米飯	パン	麺	その他	食べない
《全体》		152	102	30	20	0	0
		100.0	67.1	19.7	13.2	0.0	0.0
《性別》	女性	138	95	26	17	0	0
		100.0	68.8	18.8	12.3	0.0	0.0
	男性	14	7	4	3	0	0
		100.0	50.0	28.6	21.4	0.0	0.0
	無回答	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—
《年代別》	30代以下	72	45	21	6	0	0
		100.0	62.5	29.2	8.3	0.0	0.0
	40代	57	43	7	7	0	0
		100.0	75.4	12.3	12.3	0.0	0.0
	50代	7	4	0	3	0	0
		100.0	57.1	0.0	42.9	0.0	0.0
	60歳以上	16	10	2	4	0	0
		100.0	62.5	12.5	25.0	0.0	0.0
	無回答	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—
《地区別》	下越	74	54	13	7	0	0
		100.0	73.0	17.6	9.5	0.0	0.0
	中越	62	36	14	12	0	0
		100.0	58.1	22.6	19.4	0.0	0.0
	上越	16	12	3	1	0	0
		100.0	75.0	18.8	6.3	0.0	0.0
《人口規模別》	10万人以上	100	69	21	10	0	0
		100.0	69.0	21.0	10.0	0.0	0.0
	10万人以下	52	33	9	10	0	0
		100.0	63.5	17.3	19.2	0.0	0.0

（上段＝実数／下段＝%）

※若年層（20歳～）家族のいない家庭、無回答は比率算出母数から除いた。

（成人）

		総数	米飯	パン	麺	その他	食べない
《全体》		333	214	30	86	2	1
		100.0	64.3	9.0	25.8	0.6	0.3
《性別》	女性	283	175	26	79	2	1
		100.0	61.8	9.2	27.9	0.7	0.4
	男性	50	39	4	7	0	0
		100.0	78.0	8.0	14.0	0.0	0.0
	無回答	0	0	0	0	0	0
		—	—	—	—	—	—
《年代別》	30代以下	87	63	5	18	1	0
		100.0	72.4	5.7	20.7	1.1	0.0
	40代	76	52	6	18	0	0
		100.0	68.4	7.9	23.7	0.0	0.0
	50代	69	37	7	25	0	0
		100.0	53.6	10.1	36.2	0.0	0.0
	60歳以上	100	61	12	25	1	1
		100.0	61.0	12.0	25.0	1.0	1.0
	無回答	1	1	0	0	0	0
		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
《地区別》	下越	182	111	16	53	1	1
		100.0	61.0	8.8	29.1	0.5	0.5
	中越	115	79	10	25	1	0
		100.0	68.7	8.7	21.7	0.9	0.0
	上越	36	24	4	8	0	0
		100.0	66.7	11.1	22.2	0.0	0.0
《人口規模別》	10万人以上	199	126	18	53	2	0
		100.0	63.3	9.0	26.6	1.0	0.0
	10万人以下	134	88	12	33	0	1
		100.0	65.7	9.0	24.6	0.0	0.7

（上段＝実数／下段＝%）

※無回答は比率算出母数から除いた。

表Ｂ６．昼食における主食（学生）

		総数	米飯	パン	麺	その他	食べない	無回答
《全　体》		685	507	147	26	3	2	0
		100.0	74.0	21.5	3.8	0.4	0.3	0.0
《性　別》	女　性	578	410	141	23	3	1	0
		100.0	70.9	24.4	4.0	0.5	0.2	0.0
	男　性	107	97	6	3	0	1	0
		100.0	90.7	5.6	2.8	0.0	0.9	0.0
《年代別》	20歳未満	533	407	102	19	3	2	0
		100.0	76.4	19.1	3.6	0.6	0.4	0.0
	20歳以上	152	100	45	7	0	0	0
		100.0	65.8	29.6	4.6	0.0	0.0	0.0
高等学校全体		261	233	22	4	0	2	0
		100.0	89.3	8.4	1.5	0.0	0.8	0.0
短期大学全体		424	274	125	22	3	0	0
		100.0	64.6	29.5	5.2	0.7	0.0	0.0
《高校別》	西新発田高校	39	34	5	0	0	0	0
		100.0	87.2	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	西越高校	40	35	5	0	0	0	0
		100.0	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	分水高校	41	39	1	1	0	0	0
		100.0	95.1	2.4	2.4	0.0	0.0	0.0
	新井高校	37	36	0	0	0	1	0
		100.0	97.3	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0
	沼垂高校	35	26	7	1	0	1	0
		100.0	74.3	20.0	2.9	0.0	2.9	0.0
	津川高校	69	63	4	2	0	0	0
		100.0	91.3	5.8	2.9	0.0	0.0	0.0
《学科・学年別》	生活科学専攻１年	37	22	13	2	0	0	0
※ 短大		100.0	59.5	35.1	5.4	0.0	0.0	0.0
	生活科学専攻２年	20	6	14	0	0	0	0
		100.0	30.0	70.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	食物栄養専攻１年	39	24	14	1	0	0	0
		100.0	61.5	35.9	2.6	0.0	0.0	0.0
	食物栄養専攻２年	36	25	11	0	0	0	0
		100.0	69.4	30.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活福祉専攻１年	48	34	12	1	1	0	0
		100.0	70.8	25.0	2.1	2.1	0.0	0.0
	生活福祉専攻２年	32	25	4	3	0	0	0
		100.0	78.1	12.5	9.4	0.0	0.0	0.0
	幼児教育科１年	34	20	9	5	0	0	0
		100.0	58.8	26.5	14.7	0.0	0.0	0.0
	幼児教育科２年	26	16	8	1	1	0	0
		100.0	61.5	30.8	3.8	3.8	0.0	0.0
	英文学科１年	82	56	19	7	0	0	0
		100.0	68.3	23.2	8.5	0.0	0.0	0.0
	英文学科２年	52	35	14	2	1	0	0
		100.0	67.3	26.9	3.8	1.9	0.0	0.0
	専攻科１年	10	6	4	0	0	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	専攻科２年	8	5	3	0	0	0	0
	（食物栄養専攻）	100.0	62.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0

（上段＝実数／下段＝%）

自由記入欄より抜粋

Ｑ１７．外食する際に具体的に気になること

・麺類が好きで良く食べに行きますが少し高いような気がします。
・どんな味付けをされてあっても水が気になります。水道の水で炊きますとおいしくありません。
・不衛生の店には絶対行きません。なるべく野菜の多い食事をと心がけています。
・器のふちを手で持つ。髪の毛、爪など。
・輸入品は少し心配（農薬や品質管理）。
・輸入牛は避ける。野菜不足。
・安くてボリュームがあっておいしいところです。
・口当たりを良くするための添加物や調味料・塩分などの量が大変気にかかっています。
・店全体が明るく清潔であること、禁煙席が整っていること、洗面・トイレがいつもきれいにしてあること。
・塩分、化学調味料の味付け。
・輸入食品か日本のものか不明。レトルトか冷凍食品かなどの区別が不明である。
・外食は一般的に味が濃い。油っけの多いものが多くて心配。
・食器のあらい方が雑である。
・調理場、調理人の意識。
・食材の入手ルート及び調理状況が分からない。

①衛生面の不安、②調味料・油の使いすぎ、③食材の素性が知れないことなどを指摘する意見が多数である。

Ｑ２６．米の消費拡大の方策について

・１）給食をやめて弁当（米飯）とすること。　２）職場では各自弁当（米飯）を持参すること。　３）米食が日本人の食生活の中心とＰＲし、日本型食生活は生活習慣病の歯止めとなり健康の源であることを若年層に理解してもらい、１日２回は米を食べるよう促すこと。　４）米を使った調理の種類を拡大すると共に作り方など広めること。
・公立の小・中学校を完全給食制にして米飯中心とする。
・やはり新潟は米所として他の県よりお米の価格を安くするべきだし、そうすればお中元・お歳暮にもっと使われると思うしもっと消費量が多いと思います。
・ご飯をおいしく炊くに限る。同じ品種でも炊き方により随分と味が違う。炊飯器の研究も大事に思う。
・主食を米とし健康面から見た米の良さをアピールすると良いと思います。
・もっと米に対する意識を持つべきだ。農家でも米離れをしてパン食をしている家庭が多く、これではお米が泣いています。
・働く母親が多いので米を使ったレトルト食品やレンジ専用食品を多くだして欲しい。
・宣伝広告をもっと積極的にやること。

・高校も給食にして米を消費すればよい。
・米は主食ということにとらわれず素材の一つであるという考え方をすると消費の仕方も多様化するのではないでしょうか。
・米が余っているのだから思い切って価格を下げた方が生産者も消費者も良いと思う。
・パンのように手軽に供給し、扱われるようになればと思う。例えばスウェーデンなどヨーロッパの福祉の先進国では寝たきりの人と半老人（煮炊きは出来ないが食事の世話は出来る）の人とが同居し、お互いに助け合い自立できる施設が増えているとのこと。それに比べて日本の米は盛って運んで「重い、こぼれる」と、伝え歩きや足の弱い人は人の分まで世話できないということで、自立できる老人ホームは難しいと聞きました。米飯もパンのように手軽に出来ないものでしょうか。
・モデルさんも、がりがりの女の子よりもふっくら健康的な子を起用するようにして欲しい。
・画一的な味に慣れてきている日本人にもっとおいしいお米のあることをＰＲする（セブンイレブンのおにぎりなど最もまずい）。おいしい煎餅も最近無くてがっかりしている。本来の純粋な味に戻って欲しい（アミノ酸添加などしないで）。
・政府は外国の援助その他公的資金をいろんな面に支出しているのでもっと米などの単価値下げをお願いします。私たち庶民にもっと援助願いたい。

対策についていろいろな意見が出たが、大別すると、①価格を下げる、②米の良い面をどんどんＰＲする、③加工品をいろいろ工夫する、④給食でもっと食べさせる、といった意見になる。

※米、食料、農業などに関しての意見・感想
・日本の食料自給率が１９６５年で穀物全体で３０％の低下とのこと全くの驚きです。それも、飼料穀物・油脂の消費の増加による大豆などの原料穀物の輸入増のためとか。結局、食生活の洋風化が大きな原因で、これからも益々海外からの食料に頼らざるを得ない現状を日本国民は知っているのでしょうか？新潟県のように自家製のものを身近に食べている県民は就農者以外あまり感じてないのではないかと思われます。台湾産のさやいんげんや中国産の椎茸・レンコンなど海外のものは農薬の使用などあまり信頼できませんので求めないようにしておりますが、国内生産者の保護育成などどのようにしているのかあまり見えてきません。日本の食料は大丈夫なのでしょうか。北朝鮮のこともあり、大変不安です。
・日本型食生活の徹底を図るよう現在の食生活を見直す必要がある。食生活の洋風化にともない、高カロリー高蛋白の食事が青少年に広がっている。少子化のうえ、若年性の糖尿病が広がる恐れがある。目で食べる食事から頭で食べる食事へ変える必要がある。
・米余りといっているのに、お米の価格が高いと思います。もう少し流通を工夫したら良いのではないでしょうか。
・農薬を使わないでほしい。虫の付いた野菜・果物・形にこだわらない。高くても安心を

買いたいと思う。

・お米だけは１００％自給できるように。その他も余り輸入に片寄らないよう。工業国であるより、農業と工業のバランスのとれた国としてヨーロッパを見習わなければならないと思う。これからの子供達を守るにはやはり北朝鮮やアフリカの飢えた状態にはしてはならない。自給率を上げてほしい。

・農業人口が減少していることは将来に不安を覚えます。基本的に食料は自国で供給できるのが理想的ですが、その為には国が長期的な計画を示し、後継者が育つようにしなければならないと思う。安易に食事を考えているのか、外食や出来合いのものを食卓にのせ手間暇を惜しむように思われるが食事は大切だし作法も大切なことを認識したい。

・米の販売の完全自由化。農家を保護しすぎるため、うまい米良い米を作ろうとする農家の意欲をそいでいると思う。政府は何故、農家に対しお金を出すのか、優遇するのか疑問でもある。

・田畑がどんどん住宅地に変わっていく様子をみていると将来が不安です。このままでいいはずがありません。遠くない将来、世界的な飢餓に面したら、日本は輸入もできなくなり、どうなるのかと心配です。子供達が小さいときからそういうことを教える場（学校教育・家庭）が必要だと思います。マスコミなどでもどんどん取り上げてほしい。米があっての日本です。農業に従事する人が居なくならないよう、私は分かりませんが国の政策を期待します。歯がゆい思いです。

・転勤で、茨城・栃木を経て新潟に住んでいる私は、なるべくその土地の米・野菜を食べるようにしている。特に野菜はそうした方が農薬が少ないような気がする。米は美味しい上により安全な米がほしいと思い、低農薬というのを買ってきたが、近所のスーパーではあまり見かけない。（新潟では低農薬米というのは特別な米なのかなと思っている）農産物の自給率を上げるよう消費者も努力する必要があると思っている。安全なものは美味しいものであると思っているので、より安全なものを無理のない範囲で作ってもらいたい。自給率が下がれば安全なものが減ると思う。

・米が高いと言われているけれど肉や野菜と比べるとずっと安いと思うので、その点の宣伝が足りないのではないかと思う。政府の備蓄米をもっと増やすべきだと思う。世界的に食料不足になったとき、自国の食料を日本に分けてくれる国などないのだから。国が補助してでも、農業は守るべきだと思う。ヨーロッパ諸国ではそうしているのではないでしょうか。そういう宣伝をもっと行って、国民の理解を得る必要があると思う。

・日本人はやっぱりご飯を食べた方がいいと思う。今じゃパン・めんと好みに合わせて、とにかく色々なメニューがあるけれど、昔と比べてかなり食生活が変わっているせいでアトピーやら骨粗しょう症とかが増えているのだと思う。競い合ってメニューが増えるのはしようのない事かもしれないけれど、”おいしい”よりも安全性とか栄養価のほうが気になります。

・日本人は米がなくては生きていけないと思います。毎年毎年減反と言う声を聞く度に切ない思いがいたします。

・日本の農業は米に偏重しすぎだ。ＥＣのように将来を考え、米以外の作物の保護をすべ

きである。米の価格は政治や圧力団体によって上がりすぎ。国際競争力を失い大きな問題となった。価格は適正に下げるべきだと思う。

・米の品種で極端に味が違います。そして同時に値段によっても味が変わります。この差が激しい事が不思議でなりません。本当にまずいお米はあまりにもまずい。なぜ、このような米を売買するのでしょうか。米の価格の様々（店により）には驚きです。米の統一はできないのでしょうか。

・農業保護（農家保護？）もいい加減にしてほしい。一般国民のイライラも募るばかりだ。銀行の護送船団方式と同様、一番弱い所を基準にみんな仲良く進む時代は終わったのでは？国は安全面のみを監視し、他産業参入も含め生産流通とも完全自由化すべきだ。その結果、輸入品との競合の末、あらゆる農産品の価格は収まる所に収まるのではないか。

・長年の補助金農政から脱却しなんとか強い農家を育ててほしい。これ以上田畑がなくなることは温暖化を促進するし、水資源にとってもマイナスになる。田畑は森林と同じ大切な資源だと思う。長い時をかけてやっと美田にした亀田郷がどんどん宅地化されているのを見ると心が痛む思いです。

・稲作の作業や環境による日本語の持つ意味を表現している言語が数多くある事実を考えるとき、我が子に体温ある言葉を交わす礎となる部分が無理なく見られる環境が日常から遠くなっていくのが残念な気がしてならない日々を送っています。

・東京で生まれ育った私が新潟に来て本当に良かったと思うことは、お米のおいしさです。毎日こんなに美味しいご飯がいただけるなんてこんな幸せはありません。この美味しいお米をもっともっと日本中の人に食べてもらえるよう、お米のコマーシャルをもっと多くしたらどうですか。あたたかいご飯→家族→やすらぎ→平和。こんなコマーシャル等でイメージづければ若い人達も家庭に対するあこがれが生まれると思います。皆でワイワイ楽しくビールを飲むコマーシャルは日に何度も目にします。これに対抗して食卓を囲む家族、こたつでおせんべいを食べながらお茶を飲むなど、ほのぼのとした家庭の姿を若い人達に伝えてほしいと思います。人を育てるのは家庭が基本です。あたたかい家庭から思いやりのあるあたたかい人が育つと思います。その中心にあるものはあたたかいご飯だということをもっと強調してください。

・デパートで買う魚沼産のコシヒカリより、私の実家（朝日村）から頂く米の方がずっとおいしいです。

・同じ銘柄・産地のお米でも別々の店で買って、同じ方法で炊いても食味・ねばりなどに違いがある。

・県内産・国内産を中心に食材を購入しております。安全面に関しては全面的に生産者の方の良心を信用できる日本の農業であって欲しいと望んでいます。自然豊かな日本で食料の自給率が20数%しかない情報が理解できずにただただ変だなあと思うばかりです。農家の方も購入者を消費するばかりの一方通行の形として捉えるのではなく、大切な自然の恵みの送り手として、農の文化の知識の教育者であって欲しいと望みます。

・生産者がこだわりを持って食物を生産し、生産者名を表示したり、組織としての農業経営が進められたりと農家が変わってきています。若い人に敬遠されがちな職業が魅力あ

るものになってきているのではないでしょうか。半面、いまだ取り残され、消えゆく農家も多いはず。私は農業や農家については、くわしくないのでこれ以上かけませんが今一番変わらなければいけない、変わっていける分野だと思います。

ま と め

米の消費の実態、食生活および米・農業・食料問題に関する意識についての調査を、一般市民を対象に２６、学生を対象に８の質問の形で行った。回収回答数は一般市民が 350、学生が 685 であった。調査結果の解析により多くの知見が得られた。主なものを以下に列挙する。

・米の１人当たりの消費量は横ばい状態であり、米価の低下にともなって１人当たりの購入金額は減少している。

・米価は下がってきているが、まだ４割近くの人は「米は高い」と感じている。

・流通システムの変化に伴い、米穀小売店からの購入は顕著に減少し、反面、産地直送米が大幅に増加している。世帯当たりの平均人数の減少に伴い購入単位が少量化していることも、スーパー等の店頭での販売に有利に働いていることが考えられる。

・コイン精米機の利用経験者は約４割いる。

・認証マーク・確認マークの意味を知っている人は３割未満である。

・半分以上の人は米に関しての情報不足を感じている。関心を持たれる情報は品種、味、生産・流通である。主な情報源はテレビ・新聞であり、米穀小売店は情報供給源としてはほとんど機能していない。

・「家族連れ外食」はますます一般化しており、外食しない人は約１割である。

・輸入米はその安全性が最も懸念されている。

・約６割の人は日本の食料自給を心配している。特に食物・栄養に関する専門教育を受けている学生は、食料、農業問題に対して極めて高い危機感を持っている。

・日本人の主食として「米中心」と「米・麺・パンなど多様」はほぼ同数の割合である。ただし、食物・栄養に関する専門教育を受けている学生は高率で「米中心」を選んでいる。

これらの結果、ならびに回答者からの多くの意見・感想は今後の米消費拡大推進活動に有用であると考えられる。

発行　1998年4月28日

〒950-8680　新潟市海老ケ瀬471
県立新潟女子短期大学・生活科学科
食品学研究室
電話直通　025-270-0366
石原和夫　鈴木裕行

印刷　(株)　三　昌　堂